



SOCIAL ACTION REPORTS

2019-2021

ソーシャルアクション報告書2019-2021



目次

3 はじめ

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンよりご挨拶

4 アクションインパクト 19-21

数字で見るアクション

5 アクションレポート 20-21

小学生（11件）

中学生（6件）

高校生（24件）

大学生/社会人（6件）

団体（5件）

その他

6 アクションレポート 19-20

小学生（6件）

中学生（25件）

高校生（105件）

大学生/社会人（15件）

団体（9件）

その他

7 アクションキャンペーン

WE Create Change / WE Share Cards / WE Book Better World
WE Scare Hunger / WE Original Action

181

のべ372組からアクションの報告を頂き、数値成果を作成しております。

本報告書は、その中でも詳しいご報告を頂いている212件のアクションをご紹介するものです。

はじめに

2020年から21年にかけ、世界中が新型コロナウイルスに悩まされました。人に会うことや出かけることを制限され、やりたいことが思うようにできない生活を強いられました。そんななか、自分だってつらいのに、誰かのために、社会のために、世界のために、動いてくれた皆さん、そして、「ソーシャルアクション報告書」へ、自分が起こしたアクションの情報を寄せくださいました皆さん、本当にありがとうございました。

皆さんから届けられたソーシャルアクションの数々を発表すべく、そして、コロナ禍で限られた環境のなかにも関わらず果敢に、より良い世界のためにアクションを起こした25歳以下の子どもや若者の皆さんをお祝いすべく、記念すべき第一回目のチェンジメーカー・フェスを、2021年3月20日にオンラインにて開催することができました。コロナの影響で2020年3月20日に渋谷公会堂で第一回目のイベントを開催予定でしたが、泣く泣く延期にしたことから、2年越しに実現したイベントとなりました。

このイベントを日本でやりたいと思い始めたのは、今から13年前。2008年にカナダのFreeThe Childrenから、ソーシャルアクションを起こした子どもを祝うライブイベントへの招待状が届き、面白そう！行ってみよう！と、日本から高校生と一緒に出席したことがきっかけです。

行ってみると、大きなスタジアムに2万人もの子どもたちが集まっていて、ものすごい熱気でした。イベントが幕を開け、「ようこそ！みんなも知っているように、このイベントのチケットはお金で買うことはできません。でも、みんなは、ここに来ることができた、それは、何らかのアクションを起こしたからです。誰かのため、地域のため、世界のために、アクションを起こしてくれたみんな、ありがとう！君たちのアクションで確実に世界はよくなっている、だから、みんなに感謝を伝えるため、歌手や役者さんや活動家など多くの著名人が駆けつけてくれたよ」と、司会者はスタジアムの子どもたちに声をかけました。

朝9時からお昼休憩をはさみ、午後2時まで様々な著名人、活動家、子どもたちがスピーチやパフォーマンスを繰り広げました。印象的だったのは、発音に障害のある中学生男子のストーリーでした。彼は障害があることで自信をなくし学校で孤立していたけれど、一人の先生との出会いで、パソコンスキルが長けていることを褒められ、そのスキルを使って同じ症状の子どもをサポートしようとネット上でクラブを設立し交流する活動を始めたそうです。司会者からその少年のストーリーが紹介された後、少年がステージに登場し、言葉に詰まりながらも心をこめてスピーチ始めました。

「僕は言葉はうまく話せないけど、パソコンは得意。一人ひとりが得意なことを見つけて、それをいかし、出し合いつながることで、世界はよくなっていく、ぜったいに。」

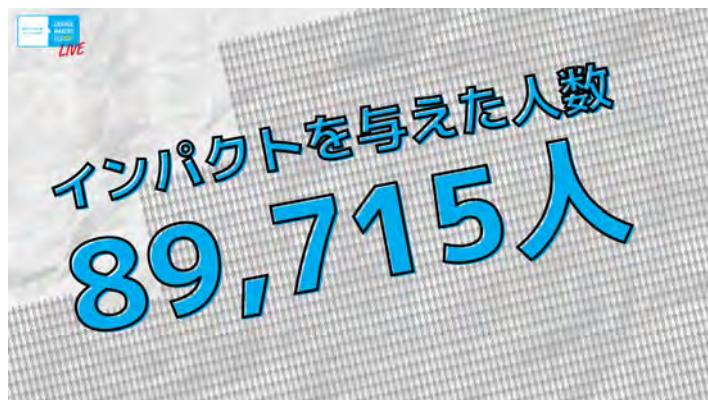
私たちは一人ひとりが違っていていい、違っているからこそ、世界をよくしていける。皆さんの様々な手法で行われたソーシャルアクション報告を見て、更にこの思いを強くしました。

Together、WE can change the world!
みんなとなら、世界をかえることができる、そう信じています。

NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
代表 中島早苗

アカデミック

数字で見るアクリヨン2019-2021



▼寄付やボランティア、活動への参加などアクションのインパクトを受けた団体（順不同：自治体は省略）

日本ユニセフ協会、図書館復興財団、WWF、Robotex International、シリア・オスマニア小学校、富士聖ヨハネ学園、長野県上田市NPO、国境なき医師団、ようがこども食堂、日韓アジア基金、わかちあいプロジェクト、東京グレートサンタラン、JICA、DNA、地産地消を進める会、子ども食堂甲府、フードバンク山梨、日本赤十字社、ボーラスカウト、ごみゼロナビゲーション、ヒューマンライツ・ナウ、広げよう！子どもの権利条約キャンペーン、かものはしプロジェクト、ハンガー・フリー・ワールド、iPledge、ACE、GLOBAL Social Leaders、みんなの表彰台プロジェクト、ベジプロジェクトジャパン、トーゴ共和国大使館、マイク・ア・ウィッシュオブ・ジャパン、アジアキリスト教教育基金、FTSN関東、世界の子どもにワクチンを日本委員会、犬猫みなしご救援隊、難民支援協会、TOTTORI BLUE BIRDS、宇都宮西ロータリークラブ、みらいキッズ、日本財団、Fridays For Future（東京・名古屋）、グリーンバード渋谷、UNHCR（ユニクロ）、地域活動センターきたのば、セーブ・ザ・チルドレン、レモネードスタンド普及協会、ワールド・ビジョン、風に立つライオン基金（高校生ボランティアアワード）、目黒区心身障害者福祉センター、タイ・ワットサケーオスクール、障害者施設はなもも、Toshiba Youth Club Asia、フードバンクインドネシア、国連WFP、日本ファンドレイジング協会、DxP、ガールスカウト、プラン・インターナショナル、家庭犬使役犬訓練協会、シーカアジア財団、Go Green Group、フードバンク埼玉、Malaria no more japan、世界一大きな授業（JNNE）、WE、フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

- ・ 小学生（11件）
- ・ 中学生（6件）
- ・ 高校生（24件）
- ・ 大学生／社会人（6件）
- ・ 団体（5件）
- ・ その他



形態： 人数： 活動地： 区分：
個人 1人 東京都 小学生

名前 / グループ名：
森橋

報告者

グループメンバー：



取り組んだ社会問題 気候変動

-理由-

地球温暖化が進んで、災害がたくさん増えます。
そうすると、たくさん的人が困ったり被害を受けてしまいます。
そこで、JAXAの人工衛星から見た地球の海水温の事を教えてもらうことにしました。

-関係するSDGS-



ソーシャルアクション

実施したアクション

ネスレと宇宙兄弟とJAXAのコラボ「宇宙からみた地球の変化と、私たちにできること JAXAと自由研究」という質問コーナーがありました。

そこで「海面水温はなぜ上昇するのですか？また、それを止めるために、私たちに出来ることはありますか？」という質問をしました。

JAXAの研究員の方から、「海が二酸化炭素を吸って熱くなり、南極や北極の氷がとけます。すると、小さな島や砂浜が無くなるかもしれない。だから、二酸化炭素を減らすことが重要です。」と教えてもらいました。

なぜこのアクションなのか：

コロナの時にオンライン授業で、地球温暖化についての授業がありました。
そこで、コラボキャンペーンを知り、JAXAの人工衛星から見た地球の海水温の事を教えてもらうことにしました。

アクションの種類：

その他

実施期間：

20/5/18 ~

数値的成果：

◆お金の寄付：

◆物の寄付：

円

個

◆ボランティア時間：

◆インパクトを与えた人数：

時間

人

◆その他： Twitterで 16リツイート、100いいね

支援先：

工夫したこと 達成したこと

地球温暖化について、疑問に思っていたこと・対策を、専門家の方から直接お話しもらうことができました。

それだけでなく、多くの人に見てもらうことで、地球温暖化について、対策をしてくれる人が増えてくれたのではと思います。

困難だったこと 次回に活かすこと

コラボ企画で、ツイッターでは知つてもらうことができましたが、そんなに多くの人を巻き込むことができませんでした。

このアクション報告で、地球温暖化についてより多くの人に知つてもらって、行動につながるにはどうしたらいいか、考えていきたいです。

メッセージ

もっと地球温暖化のこと知って、いろんなことを知り災害が少ない世界にしたいです。
教えてもらったことをまとめて、いろんな人に伝えたいと思いました。

形態： 人数： 活動地： 区分：
個人 1人 東京都 小学生

名前 / グループ名：
波田野優

報告者

グループメンバー：



取り組んだ社会問題 児童労働・教育・貧困

-理由-

2年前の夏の自由研究でアフリカの教育問題と水問題について取り組んだことがきっかけで、開発途上国や子どもの教育問題に興味を持ち続け、これまでに様々なイベントや勉強会に参加した。実際に現地の様子を見てきた人やそれぞれの問題解決に携わっている人たちから話を聞いたり自学を進める中で、教育を受けられない理由の一つに児童労働があることを知った。子どもの権利条約やILOの条約で児童労働が禁止されているにも関わらず、世界には約1億5200万人の子どもが児童労働している現実をわたしの周りの人たちに知ってもらうことが身近な児童労働問題解決のアクションに繋がると思ったから。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

- 自由研究「児童労働がわたしに教えてくれたこと」作成
(第21回杉並区図書館を使った調べる学習コンクール区長賞、第24回全国図書館を使った調べる学習コンクール奨励賞受賞、杉並区学校文化栄誉顕彰受賞)
- 児童労働について全校朝会で発表
- 児童労働新聞作成・校内掲示
- 図書室に児童労働コーナーを設置しておすすめ本を展示
- 児童労働をテーマにした水彩画を描き展覧会に出展
- 児童労働の絵本「そのこ」の読み聞かせ動画撮影

なぜこのアクションなのか：

自由研究の作成しながら児童労働解決のために自分ができることをいくつか考えた。わたしは「話すことが好き」「人が知らないことを伝えることが好き」「絵を描くことが好き」「文や絵を書いてまとめるのが好き」ということから、啓発活動で児童労働を周りの人たちに伝えることにした。

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

20/7/25 ~ 21/2/28

数値的成果：

◆お金の寄付： 円

◆ボランティア時間： 時間

◆物の寄付：

個

◆インパクトを与えた人数：

450人

◆その他：

工夫したこと 達成したこと

フリー・ザ・チルドレンのオンラインサマーキャンプで、「自分の行動をより大きなアクションにするには社会的地位のある人に協力してもらう。」ということを学んだ。わたしは校長先生に相談して協力してもらうことで、自分一人で行うより大きなアクションができたと思う。自由研究は出来上がるまでに長い時間がかかるて大変だったけれど、お父さんやお母さんがいつも励ましてくれたおかげで目標を達成することができた。

困難だったこと 次回に活かすこと

わたしは小さい頃から興味を持ったことについて深く知りたい時は、図書館以外にも博物館や美術館やそのことに関連するイベントなどに参加してきたが、コロナの影響で多くのイベントが中止になったり、JICAやユニセフに気軽に足を運ぶことができずやり辛い面があった。しかし、その分色々と「伝え方」を工夫することができた。例えば、「絵を描いて展覧会で伝える」「絵本の読み聞かせ動画撮影&SNSで伝える」など、これまで以上に自分の得意なことを生かしてアクションすることができたので、次回も様々な方法にチャレンジしてみたい。

メッセージ

アクションを起こすことは大変で、時には自分が立てた目標を達成するのは難しいかも知れない。でも、その努力はいつか報われて大きな力になると思います。

わたしはこれからも児童労働をテーマにした自由研究の調べ学習で得た知識を自分の財産として、自分がその時にできることを考えアクションを起こし、一人でも多くの子どもたちを児童労働の子どもではなく、いつも笑顔で幸せを感じられる子どもになるよう願っています。

形態： 人数： 活動地： 区分：
個人 1人 岐阜県 小学生

名前 / グループ名：
Arisa

報告者

グループメンバー：



取り組んだ社会問題 3すべての人に健康と福祉を

-理由-

しっかり手洗いをすることで、コロナの感染が少しでも少なくなると良いなあと思い、石けんを作って送りました。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

2年前にタイのスラム街のシーカアジア財団で子供たちに、読み聞かせやクラフトをしました。そこで出会った子供たちに自分で石けんを作り送りました。

なぜこのアクションなのか：
世界中のみんなが健康で幸せになるために。

アクションの種類：

物資調達

実施期間：

21/12/6 ~ 21/12/12

数値的成果：

◆お金の寄付：

◆物の寄付：

円 40個

◆ボランティア時間：

14時間 10人

◆その他：

支援先：

シーカアジア財団

工夫したこと 達成したこと

手をいっぱい洗うとおもちゃができるように、石けんの中に男の子や女の子が好きそうなおもちゃを入れました。

困難だったこと 次回に活かすこと

まだ、世界の全員が健康ではないので、もっと呼びかけや自分ができることをしていきたいです。一人で行動するだけじゃなく、友達と一緒にすると、もっとたくさんの人の役に立てたと思いました。

メッセージ

これからは自分ができることを、仲間と一緒に世界を良い方向に変えていきたい。

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 4人 群馬県 小学生

名前 / グループ名：
僕たち私たちにできること

報告者

グループメンバー：
鈴木聰真 すずきそうま 12歳
鈴木杏 すずきあん 10歳
一寸木大喜 ちよつきたいき 10歳
一寸木悠喜 ちよつきゆうき 8歳



取り組んだ社会問題 10.人や国の不平等をなくそう

-理由-

僕たちが住む群馬県館林市に住むロヒンギヤの人たちに会ったことをきっかけに、僕たちにできることはないかと考えました。ロヒンギヤの人たちは、ただ“ロヒンギヤだから”という理由でとても理不尽なひどい迫害を受け、多くのロヒンギヤがバングラデシュの難民キャンプ逃れています。難民キャンプにいる6割は子どもで、学校も文具も遊び道具もいろいろな物が足りていないという状況を知り、何かしたい！と思ったからです。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

僕たちは、クラウドファンディングで支援を呼びかけました。
10万円を目標にスタートしましたが、結果3056000円も集まりました。
その集まったお金を4回に分けて支援することを決めて、2020年12月に1回目の支援としてバングラデシュの難民キャンプ内にある2つの学校に、文具やサッカーボール、縄跳び、毛布を、そしてモンスーンで壊れた学校の修繕費用を支援しました。現地から支援したサッカーボールや縄跳びで遊んで知る動画や写真が届いて、とても嬉しかったです。次は4月の支援に向けて頑張ります。

なぜこのアクションなのか：

コロナで人と接することができない状況だったので、インターネットでできること、そして日本のどこからでも支援してもらえるからクラウドファンディングにしました。

アクションの種類：

資金調達

実施期間：

20/8/25 ~ 20/10/25

数値的成果：

- ◆ お金の寄付：
3,056,000 円
- ◆ 物の寄付：
約1,000個
- ◆ ボランティア時間：
時間
- ◆ インパクトを与えた人数：
1,118人
- ◆ もの他：

支援先：

バングラデシュの難民キャンプ内の2つの学校

工夫したこと 達成したこと

予想を超えるたくさんの支援金が集まったので、ちゃんと現地に必要な支援ができるよう現地に行ったことがある人たち（在日ロヒンギヤの人たち、ジャーナリスト、現地を支援しているNPOの人たち、バングラデシュ大使など）に、たくさんお話しを聞きました。そして、一度に全部支援するのではなくて、数回に分けて長い期間支援することや、寒さをしのぐ毛布などを支援することを決めました。

困難だったこと 次回に活かすこと

本当は、現地に行く予定だった、市内在住のロヒンギヤの方に支援品を持って行ってもらう予定でしたが、コロナで行けない上に、輸送もストップしていました。そこで現地で協力してもらう人を見つけて支援できるようにするまで、とても大変でした。寄付をしてもらった文具などもあったのですが、それも輸送できないので船便で送ることにしました。

メッセージ

僕たちはこの活動を通して、“難民”を初めて知りました。難民の人たちは、逃げたくて逃げているのではなくて、命の危険がある大変な状況があるから逃げて難民になっています。だから子どもの僕たちにもできることを見つけて、これからも頑張っていきたいです。そしてロヒンギヤという難民がいることを少しでも多くの人に知ってもらえるように頑張りたいです。なぜかというと、ロヒンギヤの事を知った人の中には、きっと助けようと思ってくれる人がいて、その輪がどんどん広がれば、ロヒンギヤの人たちがミャンマーに帰って、安全に平和に暮らせる日がくると思うからです。

形態： 人数： 活動地： 区分：
個人 1人 群馬県 小学生

名前 / グループ名：
須藤彌太朗

報告者

グループメンバー：



取り組んだ社会問題 水資源問題

-理由-

水は人々が生きていく中でとても大切なものです。
でも、世界中の海や川の水はとても汚れています。
僕は池などの水を全部抜いてきれいにするテレビ番組が大好きです。
せっかくきれいにした池などが、しばらくするとまたヘドロで汚くなってしまうのを見て
とても悲しかったです。そんな時に、使い捨てカイロを集めてキューブを作り水をきれい
にしている会社があることを知り、カイロを集めようと決めました。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

使用済みのカイロを集めてGo Green Groupに送ります。
カイロを加工してGo Green cubeを作ります。キューブの形にするのは池などで遠くまで投げ
入れることが出来るからです。
カイロに含まれる二価鉄イオン(Fe²⁺)がヘドロに反応することで悪臭をおさえて水をきれい
にします
僕はまず学校で集めることにしました。先生にこの活動の許可をもらい、回収のお願いをする手
紙を作り各クラスにお願いに行きました。回収ボックスを設置して使用済みカイロを集めま
した。

なぜこのアクションなのか：

カイロは地域によって燃えるゴミ・燃えないゴ
ミ・危険ごみなど様々な捨てられ方をします。
今までではごみにしかならなかったカイロがリサイクルされ、水をきれいにすることが出来るの
です。

アクションの種類：

ボランティア

実施期間：

21/2/19 ~

数値的成果：

- ◆ お金の寄付： 円 カイロ300個
- ◆ ボランティア時間： 時間 200人
- ◆ インパクトを与えた人数： 200人
- ◆ その他： 回収継続中

支援先：

Go Green Group

工夫したこと 達成したこと

2月以降どうしたらカイロを回収できるか考えた時に、腰痛や冷え性の人・釣り人・ゴルフ場などではまだカイロを使う人がいるのではないかと思いました。

そこで、リハビリ施設のある整形外科クリニックに回収箱設置のお願いをしました。

困難だったこと 次回に活かすこと

この活動を知ったのが2月になってからだったので、カイロを使う時期が残り少なく回収箱をあまり置けませんでした。

次のシーズンに向けて、学校以外でも回収箱を置かせてもらえる場所を探したいです。回収することが楽しくなるような回収箱を作り楽しみながら回収したいです。

メッセージ

この活動は水をきれいにするだけでなくごみを減らすこともできます。

燃やされたり埋め立てられるごみをリサイクルしませんか？

集めて送るだけの簡単な活動です。

是非、この活動を皆さんの中でも広めてください。

使用済みカイロがペットボトルやアルミ缶と同じようにみんながリサイクルする日がくるといいと思います。

形態： 人数： 活動地： 区分：
個人 1人 東京都 小学生

名前 / グループ名：
澤田京之介

報告者

グループメンバー：



取り組んだ社会問題 食品ロス削減×栄養不足改善

-理由-

僕は家族の未病のため栄養に注目し毎日の食事を考えるようになりました。また以前から食品ロス問題を身近なアクションから改善していきたいと考えていました。毎日廃棄される近所の飲食店の食材処理やコンビニスーパーの賞味期限切れの食品やカタチが悪いからと売れ残り廃棄される野菜果物を観てきて、更に家庭での残飯の量の多さを知り学び、大人も頑張って取り組んでいるけどもっと子ども一人一人が意識的な行動が必要なのではと思い、取り組むことにしました。

-関係するSDGS-



ソーシャルアクション

実施したアクション

食品ロス削減×栄養摂取カードゲームの考案

なぜこのアクションなのか：

小学生から大人まで交流しながら自身の食品ロスや毎日の食生活について楽しく学べるツールを作りました。手軽に持ち運びし、大人と意見交換しながら利用してもらいます。

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

20/3/1 ~ 21/3/31

数値的成果：

◆お金の寄付：

◆物の寄付：

円

個

◆ボランティア時間：

時間

人

◆インパクトを与えた人数：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

身近にある体調不良の症状を改善するためにどの食材を使うか?または、ニンジンの皮やピーマンの種など、普段捨ててしまう部分に栄養がたくさんあることを調べ、ぜひ活用して欲しいと思い余すことなく使うと更にゲームが面白くなる要素も加えました。

困難だったこと 次回に活かすこと

下調べで栄養や人体の勉強、栄養成分の人体への効用を調べるのが一人では大変でしたが大学生のメンターさんなどに手伝ってもらいながら進めることで更に学びが楽しくなりました。

メッセージ

みなさんの様々なアクションが何処かで繋がり社会が変化していくと未来が変わります。コラボレーションすることでまた相乗効果もあります。僕はそう信じて自分の関心を広めてアクションをしていきます。是非一緒に頑張りたいです。

形態： 人数： 活動地： 区分：
個人 1人 東京都 小学生

名前 / グループ名：
清水あれん

報告者

グループメンバー：



取り組んだ社会問題 コロナ渦でのストレスを減少させる

-理由-

自分が学校でストレスがあった時に、TVでコロナでストレスを感じている人達が多いというニュースを見たので、みんなのストレスを減らしたい！と思いました。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

ストレス値を下げると言われているゆらぎを含んだ曲を作曲し、周りの人達に聴いてもらいました。

なぜこのアクションなのか：
ゆらぎ音楽を聞いてもらえば、ストレスが下がると思ったからです。

アクションの種類：

その他

実施期間：

20/7/1 ~ 20/12/31

数値的成果：

- ◆ お金の寄付： 円 個
- ◆ ボランティア時間： 時間 人
- ◆ インパクトを与えた人数：
- ◆ ソリューション：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

コロナ下で、対面で人に会う機会が限られていたので、オンラインセミナーに参加して、ストレス解消の曲を作曲していることを人に伝えたりして聞いてもらったりしました。

困難だったこと 次回に活かすこと

コロナ下だったので、対面で人に会える機会が少なく、音楽を聴いてくれる人を見つけるのが大変でした。でも、オンラインで聴いてもらうなどの工夫をしました。もっと多くの人達に聴いてもらえる方法を見つけたいです。

メッセージ

皆コロナの影響で大変だと思いますが、ストレスが減りますように！

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 2人 山口県 小学生

名前 / グループ名：
須田青慈、須田莉々子

報告者

グループメンバー：



取り組んだ社会問題 海洋プラスチック問題

-理由-

僕は、去年の春から釣りを始めました。海に通うようになって、海に浮かぶゴミの多さにびっくりしました。さらにゴミがどこから来るのか、海のゴミのが、地球にもたらしているたくさんの問題を調べていくうちに、なんとかしないとと思いました。2050年には、海の中のプラスチックごみが魚よりも多くなるというのを知り、僕や僕の子供が釣りを楽しめる海をずっと維持するためにできることを始めようと思い、活動を始めました。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

11月に、母の知り合いのカフェで蜜蝋ラップ作りとお話し会を開催。僕と姉と2人で、僕の夏休みの海洋プラスチック問題の自由研究を元に、集まってくださった皆さんに、お話ををして、その後に地元の蜂蜜農家さんの蜜蝋を使った蜜蝋ラップのワークショップをしました。参加してくれたのは、子供から大人まで15名くらいでした。その後、12月に僕の小学校でも授業として、僕が友達や先生にお話と蜜蝋作りを教えました。

なぜこのアクションなのか：

問題を多くの人に知ってもらうきっかけとして、日常の生活と関係するものと一緒に楽しい事があれば興味を持ちやすいかなと考えました。レジ袋が有料になりマイバッグを持つ人も増えてきたので、使い捨てではないものの一つに毎日使うプラスチックラップを蜜蝋ラップに変えられるよ、ということを伝えたらいいかなと考えましり

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

20/11/23 ~ 20/12/7

数値的成果：

◆お金の寄付：

◆物の寄付：

円

個

◆ボランティア時間：

時間

個

◆インパクトを与えた人数：

30人

◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

まずは、問題を知ることが大切だと思うので、なるべく、楽しくわかりやすくお話しするように工夫しました。僕の家では、プラスチックラップを使う量がとても減ったので、蜜蝋ラップの良さや色々な使い方を紹介して参加してくれた家でも、日常で使ってもらえるように工夫しました。学校の先生が一回目のワークショップにも参加してくれて、次は、学校の授業でやって！と言ってくれたのでとても嬉しかったです。

困難だったこと 次回に活かすこと

アイロンの台数が少なかったので、みんなが作り終えるまでに時間がかかったり、蜜蝋の塊を削ったりするのも大変だったので、思ったよりもスムーズにいかなかかったです。でも、みんな楽しんで作っていたので良かったです。

メッセージ

これからの地球を守るために、僕たちにできることを一人一人が小さなことでも始めていけたら変えられることがわかりました。これからも色々な活動をしていきたいです。

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 10人 東京都 小学生

名前 / グループ名：
お茶小エコ活チーム

報告者

グループメンバー：
小原りん



取り組んだ社会問題 環境問題（特に地球温暖化）

-理由-

最近、環境問題の対策がいろいろと考案されているけれど、それは本当に良いのかどうか疑問に思ったから。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

環境に良いと言われているものは本当に環境に優しいのか、実際に作ったり、話し合ったりしました。例えば、エコバッグ。環境に良いと言われているけれど、ゴミの中のレジ袋の割合は0.2%ほど。レジ袋1枚を使った場合よりも環境への負荷を軽減するにはエコバッグを131回以上使わなければならないんです。こうした事実を調べながら、本当に環境に優しいのか考えました。実際にエコバック(布製、古着製など)を作ったりもしました。作ったバッグは実際に活用しています。最後に学年のみんなに報告をしました。

なぜこのアクションなのか：

このアクションを行うことで、環境問題への理解を深められるから。

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

21/1/8 ~ 21/2/13

数値的成果：

◆お金の寄付：

◆物の寄付：

円

個

◆ボランティア時間：

時間

95人

◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

なるべく事実を元に、考えるようにした。
他の人にもエコバッグを作ってもらえるよう
に、何人かにセットを配つたりした。

困難だったこと 次回に活かすこと

どのようにエコ活動に興味を持ってもらい、日常生活中でも環境に優しいことはなにか、自分にできることは何かを考えてもらえるか。

メッセージ

皆さんも、環境問題について、自分でどんな事ができるのかも一度考えてみませんか？

形態： 人数： 活動地： 区分：
個人 1人 東京都 小学生

名前 / グループ名：
出野誠悟

報告者

グループメンバー：



取り組んだ社会問題 SDGs

-理由-

まずは社会の問題をみんなに知ってもらいたいと思った

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

ポスターにSDGsのことをまとめ、クラスで発表をし、その後、学校の廊下にはってもらった。

なぜこのアクションなのか：

まだまだSDGsのことを知らない友達がたくさんいるので知ってもらいたかったから

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

20/6/15 ~ 20/11/30

数値的成果：

◆お金の寄付：

◆物の寄付：

円

個

◆ボランティア時間：

時間

個

時間

個

◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

色をぬったり、絵をかいて目立つようにした。
わかりやすい数字をいれた。

困難だったこと 次回に活かすこと

どの情報を書くか決めることが大変だった。
しってることを書いた

メッセージ

学校で今度リサイクルイベントをやります！SDGsのことがどんどん広まってます。

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 33人 埼玉県 小学生

名前 / グループ名：
埼玉県三郷市立新和小学校1年4組

報告者

グループメンバー：
1年4組児童、保護者、学級担任



取り組んだ社会問題 食品ロス・飢餓

-理由-

1年4組は給食が大好きで、学年7クラスの中で唯一、全ての食缶を空にしたことがある（計7回）クラスだった。そのため、食に関するテーマには高い関心を持つと思ったから。（担任）

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

〈世界を変えよう大作戦〉

飢餓、食品ロス、賞味期限と消費期限の違いについて学び、自分たちにできることを考え、実行する。

①フードドライブ

家で余っている食品をクラスで集め、「フードバンク埼玉」さんに寄付した。

②残さず食べよう大作戦

給食を残さず食べるためにはどうしたらよいか、学級会で話し合い、決まったことを実行した。

なぜこのアクションなのか：

日本では、約632万トンもの食糧がまだ食べられるのに捨てられている。これは、世界の飢餓の支援に使われている食糧の2倍に当たる。このことを知り、「余っている食べ物を分けてあげたい。」「無駄にしないで残さずに食べたい。」という意見を持ったから。

アクションの種類：

物資調達

実施期間：

20/1/16 ~ 20/2/28

数値的成果：

◆お金の寄付：

◆物の寄付：

円

個

◆ボランティア時間：

◆インパクトを与えた人数：

時間

人

◆その他： 食品22.2kg (72個)

支援先：

フードバンク埼玉

工夫したこと 達成したこと

子ども達がやりたいと言ったことをできる限り全て実行したこと。
→子ども達が自発的・主体的にアクションに取り組むことができた。

小学校1年生でも、社会問題に対する解決策を考え、アクションを起こすことができる事がわかったこと。また、保護者の社会問題への意識も高まつたこと。

困難だったこと 次回に活かすこと

学校の教育課程の中でアクションを行うこと。
(教科や時数の調整、保護者への説明、郵送料の負担など)

この活動を校内に普及し、学年や学校全体で取り組みたい。

メッセージ

児童からの感想を紹介します。

- ・食べ物がなくて死んじゃう人がいるなんて知らなかつた。
- ・食べ物がいっぱい集まつてすごかつた！
- ・自分たちにも世界を変えられることがわかつた！

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 3人 学校 中学生

名前 / グループ名：
齋藤美月、川田すみれ、保谷優菜

報告者

グループメンバー：



取り組んだ社会問題 フードロス削減

-理由-

日本は特にたくさんの食べ物が捨てられているという現状から、少しでも食べられるものを無駄にしないようにしたいという思いからフードドライブを取り組みました。また、食品ロスの厳しい実態を多くの人に伝え、発信し、知ってもらいたいと思いました。そして、普段は無駄になる食品をフードドライブによって、食料が必要な人に届けることで大いに社会貢献になると感じました。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

私たちの学校の中3生を対象に、家に眠っている食べられる食品を学校に持ってきてもらいました。その際に、より多くの人に参加してもらうために自分たちでチラシを作ったり、声掛けを2回くらい行いました。そして、それを学校で私たちが量などで計り集計しました。その後、郵送費などを削減するために、自分たちの手で集めた食品を豊島区役所に持っていました。

なぜこのアクションなのか：

フリーザチルドレンさんのハロウィン×フードロスでフードドライブを行ったことで私たちはフードロスに興味を持ちました。そして、私たちも、フードドライブをやり、貢献したいと考えて今回行わせていただきました。

アクションの種類：

物資調達

実施期間：

20/11/17 ~ 20/11/17

数値的成果：

◆お金の寄付： 円

◆物の寄付： 個

◆ボランティア時間： 時間

◆インパクトを与えた人数： 人

◆その他： 14kgの食べ物

支援先：

豊島区役所 環境政策課

工夫したこと 達成したこと

コロナウイルスが流行している中、どのような対策を取って参加者の皆さんのが安心に食品を持ってくることが出来るか、そして、受け取つてくださった豊島区役所の皆様が安心して受け取ることが出来るかを、メンバーで話し合って工夫しました。最終的に、集まって食品をすべて私たちが消毒して持っていくことに決めました。そして、集める際に分散して持ってきてもらうように声掛けをしました。私たちが企画した以上、安全・安心に参加してもらい、問題を起こさないようにしなくてはなりません。そのような面で今回、このように対策を取ることが出来て良かったなど感じました。

困難だったこと 次回に活かすこと

フードドライブを行う前日からもう少し、準備をしておけばよかったなど感じています。例えば、前日に集めるための段ボールなどを持っていくなどということです。当日、朝に準備しようとグループで考えていましたが、朝は全員時間がなく、思うように全員で準備が出来ませんでした。なので、いざフードドライブをやるときに余裕がなく焦ってしまいました。

なので、次回はもう少し早い段階から準備して、余裕を持って取り組みたいと思います。

メッセージ

少しでもフードロスを削減するためには小さな意識だけでも変化します。まずは、一人ひとりが残さずに食べ、賞味期限と消費期限の違いをしっかりと理解して、計画的な買い物をすることが大切です。そして、何より日本の食品ロスについて個々がしっかりと理解することがなによりも大切です。

皆さんも、市役所などにフードドライブを行っている受付などがあるので、ぜひフードドライブを行って、フードロスを削減ていきましょう！！

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 3人 学校 中学生

名前 / グループ名：

More self care



報告者

グループメンバー：
齋藤美月、保谷優菜、川田すみれ
(ボランティアスタッフ：升元ルナ、呉欣桐、藤原美沙希、辻野カリナ)

取り組んだ社会問題 フードロス

-理由-

きっかけは、FTCJのフードロスを題材としたイベントに参加してたことです。そのイベントでは、フードドライブが行われました。とても簡単で、社会で困っている人を支援できる活動とFTCJさんがおっしゃっていたので、私たちもこのような活動に取り組みたいとの考えで企画しました。第1回フードドライブでは、私達の学年（中学3年生）のみで取り組み約15kg分の食品を集めることができました。そこで、3年生だけではなく、他の学年にも「フードロス」や「フードドライブ」を広めていきたいと思い、中学1年生～3年生を対象に、第2回フードドライブを企画しました。

-関係するSDGS-



ソーシャルアクション

実施したアクション

『第2弾フードドライブ』を実施しました！

フードドライブとは、家に眠っている食べられる食品を地域イベントや学校、職場などに持ち帰り、それを必要としている福祉団体・施設等に寄付する、という活動です。私達は、集めた食品を豊島区環境政策課まで運び、寄付をさせていただきました。今回は、中学1年生～3年生を対象にして、1月28日に食品を持ち寄ってもらいました！

『第2弾フードドライブ』をMore self careの3人で企画をし、ボランティアスタッフを募集しました。ボランティアスタッフのメンバーには、宣伝と当日の運営を手伝ってもらいました。多くの方々の支援があり、『第2弾フードドライブ』では、約30kg分の食料を集めることができました！

なぜこのアクションなのか：

第2回フードドライブを行う意義は2つあります。1つ目は、お正月やクリスマスなどのイベント後の時期に行うことです。イベント後は、廃棄される食料が増えると考え、冬休み明けの1月28日に行いました。2つ目は、コロナウイルス感染拡大の時期にフードドライブを行うことです。コロナウイルス感染拡大の影響により、苦しい生活を強いられている人が増えているからこそ、今の時期に行いました。

アクションの種類：

物資調達

実施期間：

21/1/28 ~ 21/1/28

数値的成果：

◆ お金の寄付：

◆ 物の寄付：

円

個

◆ ボランティア時間：

時間

人

◆ インパクトを与えた人数：

時間

人

◆ ソリューション：

支援先：

豊島区 環境政策課

工夫したこと 達成したこと

工夫したことは、主に3つあります。

1つ目は、コロナウイルス感染拡大防止対策です。コロナウイルス感染拡大防止対策として、集めた食品の外装を一つ一つ除菌する・回収場所の換気・全員マスク着用・区役所に届けに行く人は3人のみなどの対策を行いました。

2つ目は、宣伝方法です。学校のメールにイベントの詳細を一斉送信・InstagramやクラスマインなどのSNSでの宣伝などを行いました。

3つ目は、輸送方法です。多くの荷物が集まる事を予想し、車などで輸送する事が良いと考えましたが、環境に良くない。という結論になりました。最終的には、CO₂の排出量が比較的小ない、電車を使い、池袋区役所まで運びました。

困難だったこと 次回に活かすこと

なるべく、多くの人に興味・関心を持ってもらえるようにすることです。今回、20人も参加してくれました。しかし、計算をしてみると、対象学年全員の人数の6%という結果でした。次回は、もっと多くの人に参加してもらえるような、工夫を考えていきたいです。

今回、食べ物を回収する日を1日しか設けませんでした。そのため、当日に食品を持ってくるのを忘れてしまったら、次のチャンスがない。ということです。もし、フードドライブを3日間行えば、初日に忘れてしまったとしても、後日持ってくるなどが可能になり、多くの人の参加が見込めると考えました。

メッセージ

皆さんも、ぜひ学校などを対象にフードドライブを企画してみてください！企画することが難しかったら、まずは、フードロスやフードドライブについて「知る！」というアクションを起こしてみてください！

形態： 人数： 活動地： 区分：
個人 1人 長野県 中学生

名前 / グループ名：
古川綾音

報告者

グループメンバー：



取り組んだ社会問題 児童労働

-理由-

初めて知った時、とてもビックリしたし、なによりも自分とたいして年齢が変わらない子供たちが、とても過酷な仕事をしている、という事実に、すごくショックを受けたからです。マザー・テレサも「自分ができる精一杯の事をすれば、いつか、世界は変わる」と説いています。いまの私にできる事は限られていますが、それでもクレイグさんが示したように今、自分に何ができるかを考えて、行動を起こしていきたいと思っています。私が寄付したお金で、少しでも多くの子供たちが幸せになることを願っています。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

私は毎月お手伝いをした分のおこづかいをもらっているので、自分で料理してかせいたおこづかいのうち、毎月決まった金額を寄付する、としました。
たとえ小さな金額でも、毎月毎月貯めていけば、大きな金額になると思います。

なぜこのアクションなのか：

自分の一番得意なことだし、"私"がお金を稼げることだから。

アクションの種類：

資金調達

実施期間：

20/8/14 ~ 21/1/2

数値的成果：

◆ お金の寄付： 2000 円

◆ 物の寄付：

個

◆ ボランティア時間：

時間

人

◆ インパクトを与えた人数：

◆その他：

支援先：

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

工夫したこと 達成したこと

毎週欠かさず料理をする、という目標を達成できました。
目標額に決めた金額をきちんと用意できるようにしました。

困難だったこと 次回に活かすこと

習い事などで、疲れていても、料理しなければならなかつたこと。
レシピの難易度によって調理時間が長かったり、短かったりして、一品作り終えるまでの時間の差があったこと。

メッセージ

"この品が一品完成すればそれだけ多くの子供たちが助かる！"と思いながら、毎週料理を作りました。このお金で、一人でも多くの子供たちが幸せになってくれると、これ以上ない幸せです。いつか、児童労働に苦しむ子供たちがいなくなることを願って、今日も、これからも、寄付をする為のお金を稼ぐため、料理を作り続けてます！

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 60人 神奈川県 中学生

名前 / グループ名：
宮武喜更

報告者

グループメンバー：
神奈川大学附属中・高等学校 学級委員一同



取り組んだ社会問題 児童労働、貧困問題

-理由-

地理の授業で、児童労働について学んだ際にもっと詳しく知りたいと思いました。調べてみると、本来学校に行って多くの事を学んだり知識を増やしていくべき年齢の子供が家族を支える為に過酷な労働をしている事を知りました。その他にも、体に異変が起きててもお金がなくて病院に行けなかったり、様々な感染症対策の予防接種も受けられない子供が沢山いる事など、多くの事を知りました。小学生の時FTCのティカアクションキャンプに参加し、児童労働問題を少し知っていた事も影響していたと思います。私は、この子供達の助けに少しでもなりたいと思いました。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

私の所属している学級委員会での活動は、主に生活マナー向上や挨拶運動、学校の緑化、地域清掃などを行っています。また、自然災害等の募金活動も行っています。その学級委員会の新しい活動として、恒常的なボランティア活動を始めようと試みました。

その最初の活動として、中学から高校までの全校を巻き込んで、学校で書き損じ葉書の回収をしました。

なぜこのアクションなのか：

中高一貫校に通っているため、より多くの人数からの協力が得られるのではないかと考えました。

また時期がちょうど1月ごろだったことから、年賀状、またその他の書き損じハガキの回収を行えば実現可能ではないかと考えました。

アクションの種類：

物資調達

実施期間：

20/11/1 ~ 21/1/26

数値的成果：

◆ お金の寄付：

円

葉書637、切手2個

◆ ボランティア時間：

時間

◆ インパクトを与えた人数：

人

◆その他：

支援先：

フリーザチルドレンジャパン

工夫したこと 達成したこと

このアクションを思いついた時に、私一人では学校を動かす力がなかった為、自分が所属していた学級委員の先生に提案を持ちかけました。先生がすぐに協力して下さり、勉強会開催もして下さいました。また、学級委員の皆さんの方も借りて各クラスに呼びかけをし、アクションを起こす事が出来ました。

その他、私個人としては、SNSを使って学校の友達に協力を頼むこと、普段も友達との会話の中で、葉書がどうなるのかを説明したりと出来る事を行いました。

困難だったこと 次回に活かすこと

私自身、学級委員として朝のSHRの時にクラスで協力をお願いしましたが、耳を傾けてくれている人が少なかったのが現実でした。みんな

「自分が葉書1枚持って行ったところで何も変わりはない」「そもそも自分が持つて行くから誰かが持つて行くから良いでしょ」と思ってしまっているからだと思いました。

なぜ葉書を回収するのか、この葉書はどうなるのかと説明をしましたが、ほとんどの人には伝わりませんでした。この事がとても悔やまれます。

次は、より多くの人に理解してもらい、拡散をしていきたいです。

メッセージ

今回のアクションは、学級委員を始めとした中学1年生から高校2年生までの生徒、そして先生、とても多くの人の力が1つになったことで達成できたアクションだったと実感しました。もし、私のことを助けてくれた学級委員の先生、先輩がいなかったら、この成果は出せていないかったと思います。小学生の頃から関心はあったものの、いざ行動を起こすとなると少しめらっていた自分が、多くの人の支えによって社会を変えていく活動が出来たことをとても嬉しく思います。児童労働の問題を完全になくす事は中高生に出来なくても、どんな小さなアクションでもそれが、問題解決に繋がっていき、支援になるんだという事を改めて知りました。

形態： 人数： 活動地： 区分：
個人 1人 東京 中学生

名前 / グループ名：
Wakana

報告者

グループメンバー：

活動中の写真

取り組んだ社会問題 プラスチックゴミ問題

-理由-

- ・7月1日からレジ袋有料化となり、プラスチック問題に興味をもった。
- ・BBPBは名前がユニークで国際的なユース団体なため、活動を知りたい！

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

- ①世界環境の日（6月5日）のフォーラムにZoomで参加し、プラスチック問題の現状を学んだ
- ②脱プラのために実施していること・やってみたいことをディスカッションした
- ③古Tシャツや布を使ったエコバックを作成した！
- ④学校でこの取り組みについて学年発表した。

なぜこのアクションなのか：
まずは学ぶことが大事だと思ったこと。
エコバック作成は私でもできて、日々使えるから。

アクションの種類：

自己行動変革

実施期間：

21/6/5 ~ 21/9/23

数値的成果：

- ◆お金の寄付：
円
- ◆ボランティア時間：
時間
- ◆インパクトを与えた人数：
人
- ◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

プラスチックの現状について知り、自分のできることとしてエコバックづくりを行うことができた。

大学生が中心のイベントだったが、中学生の声を発信できた。

学校でも発表することで、メッセージを広めることができた。

困難だったこと 次回に活かすこと

今回は友達と一緒に取り組むことで、学び合いで、活動を広げていきたい。

メッセージ

1週間でクレジットカード1枚分のプラスチックを食べている！

3R（リユース・リユース・リサイクル）は知っていたが、18Rもある！

みなで本気でプラスチックをなくす運動を続けよう！

形態： 人数： 活動地： 区分：
個人 1人 東京都 中学生

名前 / グループ名：
宇都木美優

報告者

グループメンバー：



取り組んだ社会問題 飢餓問題

-理由-

アフリカ・アジアの貧困地域に住む子供達の飢餓問題に取り組みました。
10/16が「世界の食料問題を考える日」として国連が定めた世界食料デーであることを知ったのがきっかけになります。
日本では日本の代表的な食である「おにぎり」をキーワードとして、2015年からNPO法人「TABLE FOR TWO」が毎年アクションを継続されています。その為、自分も今年からそのアクションに参加することにしました。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

「おにぎり」の写真をSNS(Instagram, Twitter, Facebook)または特設サイトに投稿すると、1枚の写真投稿につき給食5食分にあたる寄付(100円)を共催企業が提供してくださいます。そしてNPO法人「TABLE FOR TWO」を通じて、アフリカ・アジアの子供達に給食が届けられるというアクションとなっています。おにぎりは自分で作ったものだけではなく、購入したものでも良いということになっており、子供から大人までみんなが参加しやすい仕組みとなっています。

なぜこのアクションなのか：

貧困地域の子供達は家の手伝い等で学校に通わなくなってしまう事も多い状況ということでした。しかしながら、給食の提供が始まってから、1日1食の栄養のある給食が食べられ、勉強も出来るため、学校に戻ってきている報告を見たからです。

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

20/10/16 ~ 20/10/24

数値的成果：

◆お金の寄付：

円 個

◆ボランティア時間：

時間 個

◆インパクトを与えた人数：

139人

◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

おにぎりアクションのおにぎりは購入したものでも良かったのですが、母にも手伝ってもらい、自分が好きな炊き込みご飯のおにぎりを作りました。また、お気に入りの緑色のお弁当箱に詰めて、綺麗な写真がとれたように思っています。

SNSのハッシュタグを利用したアクションだったので、子供だけでなく大人まで、活動を知つてもらうきっかけになったと思います。日本人として、お米の良さやおにぎりの良さもあらためて実感出来ました。

困難だったこと 次回に活かすこと

コロナ渦の1年だったので、集まったり、出かけたりする事を控えました、学校もオンライン対応になるなど、今まで経験をしたことのない状況でした。その中でアクションを探すのはIT関連のものになりました。

新しい発見やオンラインでの繋がりも出来たのが良い点だと思います。

しかしながら、友達と集まって会場でアクションに参加する臨場感が懐かしいです。

コロナが終息したら、大勢のメンバーとリアルで会ってアクションをおこしたいと思います。

メッセージ

世界食料デー（10/16）は日本だけでなく、世界のみんなで食料問題を考えていこうと国連が制定した日になります。

人として、安全で栄養のある食料を食べて生きていくのは基本中の基本だと思います。食べられる食料が廃棄されたり、肥満という健康問題があがっている反面、飢餓で苦しんでいる人がいるのはとても残念な事です。一人ひとりが意識を変えれば、少しづつ状況は変えることが出来ると思います。日本で毎年おこなわれている「おにぎりアクション」は今年も引き続き参加しようと思います。

形態： 人数： 活動地： 区分：
個人 1人 東京都 高校生

名前 / グループ名：
サイトウシオン

報告者

グループメンバー：



取り組んだ社会問題 食品ロス問題

-理由-

食品ロス問題は誰もが当事者であり、取り組める問題だ。そのため、一人ひとりの意識を少しでも変えていけば解決できる問題なのでやりがいがある問題と思った。また、この問題はグローバルな視点とローカルな視点のどちらからも考えられるので地域社会に興味のある私にとってぴったりだと思った。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

食品ロス問題がもたらす影響についてインターネットで調べた結果、武蔵野市がフードバンクを立ち上げようとしていることに知り、それに関するオンライン講義を視聴した。その後武蔵野市のゴミ処理施設の「武蔵野クリーンセンター」を訪問した。

なぜこのアクションなのか：

市が現在の食品ロス問題に対する対策を、インターネットだけではわからない部分も調査するために、直接市の施設に足を運んだ。

アクションの種類：

自己行動変革

実施期間：

21/1/31 ~

数値的成果：

◆お金の寄付：

◆物の寄付：

円

個

◆ボランティア時間：

時間

人

◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

日本の食品自給率は38%で先進国の中でも最低の水準にある。それでも関わらず、日本国内の食品ロスは約612トンと多く、これは世界全体の食糧援助量の約1.6倍で、その約5割は家庭から出ている。この影響として、輸入する時のお金や、家畜のためのエサが無駄になっていたりする。そのため、確実に国民一人ひとりの意識で解決に大きくつながることがわかった。

困難だったこと 次回に活かすこと

市は来年から食品ロス問題について本格的に取り組んでいくようだが、今はまだ市民への啓発活動にとどまっている。今我々ができることは、これから市の政策を後押しできるように、SNS等を駆使して特に同世代の若者に啓発活動を行いたい。また、日常生活内でも食べ残しをしないことや、買い物の時に買いすぎに気を付けるなどもしたい。

メッセージ

今まで漠然と社会問題について興味はあったが、それは果たして具体的に何の社会問題に興味があるのか、それに若者はどうかかわっていくべきなのか、といったことはまったく分からなかった。しかし、ティケアクションキャンプで同世代の人と社会問題について話することで他人の考えを知るだけでなく自分の考えも深め、そして小さなことだが行動に移すこともできた。これからもより社会問題について考えを深めて、次世代を担う者として解決に少しでも近づけるようにアクションを起こしていきたい。

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 8人 オンライン 高校生

名前 / グループ名：
Consider Then Action

報告者

グループメンバー：
河合しづか、川島愛純、菊田あおい、佐野遥、
塩幡月瑛、譚格斯、吉田萌香



取り組んだ社会問題 児童労働

-理由-

学校行事で学ぶ機会があり、その時に児童労働の認知が日本であまりされていないことに問題意識を持ったから。そして知って終わりではなく自分達でこの事実を広め、アクションを起こすべきだと感じたから。

-関係するSDGS-



ソーシャルアクション

実施したアクション

オンラインイベントの開催（エシカルコスメ作り）

イベントを通して児童労働について知ってもらい、私たちの身近なものにも児童労働が関わっていることを感じてもらうことを目的として開催しました。事前に発送していた材料を使って動画の説明を見ながら、私たちにも社会にも優しいエシカルなリップグロスを製作しました。また、児童労働の定義からマイカ採取の実態まで取り上げ、今回のイベントまで児童労働について知らなかった方にもわかるように説明していました。

なぜこのアクションなのか：

多くの人が普段から使用しているリップグロスは児童労働が関係しているということに気付き、より多くの人にイベントに参加してもらうために身近な物を使ってイベントを開催したかったから。

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

20/12/19 ~ 20/12/26

数値的成果：

◆お金の寄付：

◆物の寄付：

円

個

◆ボランティア時間：

時間

20人

◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

- ・中高生を中心に興味をひく物（リップグロス）を使用したこと
- ・飽きないようにプログラムを調節した（制作を先に持ってきた）
- ・天然マイカではなく人工マイカをしっかり調査して使用したこと
- ・エシカルコスメについて専門家の方に協力してもらい、正確性を追求したこと
- ・参加者人数、各メンバーそれぞれが宣伝する学校数
- ・児童労働について広めることができた

困難だったこと 次回に活かすこと

- ・薬機法に引っかかったこと
- ・予想以上にお金がかかったこと
- ・発注する材料の入手
- ・法律も見ること
- ・アンケートの結果から説明パートを制作より先に持ってくること
- ・今回のイベントをよりおおきくして、コスメに関する児童労働を広めていくこと

メッセージ

この機会を生かして今後の将来を考えていきたいと思います。参加者の方々にも楽しんでもらえてよかったです。

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 4人 オンライン 高校生

名前 / グループ名：
学生団体 uber smile

報告者

グループメンバー：
関志翔、播磨柚葉、新屋雄平、松橋ブライアン

活動中の写真

取り組んだ社会問題 世界の貧困問題

-理由-

私の中国人の祖母は文字の読み書きができず、標準語もしゃべれません。喋るのは現地の方言です。それは昔の貧しかった中国の時代を生き抜いた証拠です。私の祖母は教育など受けたこともなく、年少結婚をし、五人の子どもを産みました。現在の中国は世界の経済大国となり、昔のような貧しい生活を強いられていないですが、祖母がいつも私に語ってくれた昔の体験が頭から離れず、私は次第に「貧困」について強い問題意識を持つようになっていました。そして今の途上国の貧困問題に行きつき、解決に寄与したいと決意しました。

-関係するSDGS-



ソーシャルアクション

実施したアクション

～貧困を教えよう～
高校生大学生限定トークイベント

2/7(日) 14:00～15:30 @ zoom 参加費無料

トークイベントで貧困についての意見、知識、思いをお互いに教え合おう！

ディスカッションでもなく、講演会でもない、参加者全員が参加者全員に貧困を教え合う、そんなイベントです。

なぜこのアクションなのか：

自分の途上国の貧困に対する無知と他の高校生や大学生などの若い世代の途上国の社会問題に対する無関心を実感したことがきっかけ。
誰かの専門家を招いて講演会を開くのではなく、何か議題を決めてディスカッションするのではなく、若い世代の参加者が参加者全員に貧困を教えあい、お互いの知見を深め、若い世代への啓発をしようと思ったから。

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

21/2/7 ~

数値的成果：

◆お金の寄付： 円

◆物の寄付： 個

◆ボランティア時間：

時間

◆インパクトを与えた人数： 4人

◆その他：

工夫したこと 達成したこと

工夫したこと：

主催者としてトークイベントを開催するに当たって、全員が発言できるように、誰かが一方的に語ることにならないよう参加者一人一人に意見を伺った。

達成したこと：

途上国の貧困問題に対する新しい知識や知見を深めるところができた。

他人のリアルなエピソードなどを聞き、新しい途上国への見方をできるようになった。

困難だったこと 次回に活かすこと

難しかったこと：

主催するに当たっての、メールでのお知らせが遅れたことによって、参加できるはずの何人かの参加者に連絡が行き届かなかったこと。

次回に活かすこと：

前回との色々な方との繋がりを基に、より多くの方に参加してもらうこと。
前日でのメール連絡を徹底的に行うこと。

メッセージ

色々な活動を通していく中で、「人道的な支援は時間や費用がかかる」ことを実感しました。今の私たち高校生たちにできることはそのような大きなことを成すことではありません。

まずは世界でどのようなことが起きているのか、抽象的ではなく具体的に知ることこそが私たちにできることだと思います。

そのような現状を知った上で、高校生にできることはなんだろうと考えて行った方が良いのではないでしょうか。

知ることがアクションの第一歩！今のうちに色々なことを知って、将来の自分に活かせるよう若い世代が主導となって頑張っていこう！

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 6人 オンライン 高校生

名前 / グループ名：
高校生コミュニティ実験室



報告者

グループメンバー：
柳原琢馬、おちあいあゆみ、はるちゃん、
たぐっちゃん、しゅん、おふく

取り組んだ社会問題　自分の興味分野を話せる環境がない

-理由-

メンバーそれぞれが、学校や家庭で自分の興味分野を話すと「意識が高い」など周囲の人から距離を置かれた経験があり、自分の興味分野を話す場所がないという悩みを抱えていました。そんなメンバーたちが課外で出会い、同じ悩みを共有し、私たちが求めている「自分の興味分野を話す場所」がまだ存在しないのならば、それを嘆ぐのではなく私たちで創ろうと決心し、アクションを起こしました。

-関係するSDGS-



ソーシャルアクション

実施したアクション

活動内容は主にイベントとラインを使ったコミュニティの運営です。

イベントでは、色々な価値観、興味分野を持つ高校生が多角的にテーマについて考えられるようなディスカッションイベントを月に1回程度の目安で開催しています。コロナウイルス流行後はオンラインでイベントを開催しています。これまでにオフライン2回、オンライン12回イベントを開催してきました。

実験室のイベントに参加したことのある高校生を実験室メンバーと呼びライングループに招待しています。そこでイベントのテーマをメンバーの意見を踏まえて毎回異なるテーマを設定しています。 ライングループでは、リレー機能を使いメンバーがいつでも好きな時にミニディスカッションを開催することができるよう整えました。

なぜこのアクションなのか：

話したくても、話せる仲間がない。興味があるのに深ぼれない。そんな経験から、多くの高校生も同じ思いをしているのではないかと感じるようになりました。そこで、自分自身と同じ興味分野を持っている中高生と会え、とこんなディスカッションできるイベントを行いたいと強く思ったからです！

アクションの種類：

その他

実施期間：

18/10/3 ~ 21/3/2

数値的成果：

◆お金の寄付：

円

◆物の寄付：

個

◆ボランティア時間：

180 時間

◆インパクトを与えた人数：

80 人

◆その他：

支援先：

全国の中高生

工夫したこと 達成したこと

コミュニティ内では「相手を否定しない」ということをルールにしました。

孤独を感じながら目的を持って行動する高校生、行動しようとしている高校生がSNSやイベントサイトを通じて実験室のイベントに参加してくれています。

オンラインイベントに切り替えてからは全国各地から参加者が集まっています。実験室に関ったメンバーたちは、実験室のイベントに参加し同じ悩みを持つ仲間と出会い、語り合い刺激を受け合ったことにより勇気づけられ、自分の興味分野でアクションを起こす人も多くいます。

困難だったこと 次回に活かすこと

一番困っているのは、家庭や学校では自分の興味分野について語ることができる環境がない、そして課外活動にまだ踏み出せない高校生だと思っています。そういう高校生に実験室の環境を届けたいです。そのため次回からは学校を通した広報も行っています。

メッセージ

次回開催は3月21日です「コロナ禍の地震と減災」について語り合います！

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 4人 京都府 高校生

名前 / グループ名：
MISK

報告者

グループメンバー：
太田まどか、永田一平、田中沙季、時長胡桃



取り組んだ社会問題 SNSでの誹謗中傷

-理由-

「SNSの誹謗中傷が原因で自殺をする人」のニュースを見るたび悲しく辛くなり「なくならないかな?」「なぜ誹謗中傷するのだろう?」「自分たちに何かできないかな?」と思ったのがきっかけ。被害者の方々はもちろん辛く悲しいが、もしかしたら「加害者」なっている人も実は心が満たされず辛いから「誹謗中傷」をしてしまうのでは?とも考え、みんなが自分をありのまま表現できる社会を目指したいと思い活動に取り組んだ。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

誹謗中傷の怖さを伝えるCM作成

今後できればいいなと思っていること

- ・作成したCMをSNSで流す
- ・そのCMで提案している「#いいコメチャレンジ！」のムーブメントを起こす

なぜこのアクションなのか：

普段多くの人が目にのる機会の多い「動画CM」で誹謗中傷の怖さを伝え、そこで「このままではダメだ!」と思う人たちに「#いいコメチャレンジ」運動に参加してもらい、SNSに良いコメントが増え、そのマインドが実社会にも普及しみんなが安心安全に自分を表現できる場所を増やしたいと思ったから。

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

～

数値的成果：

◆お金の寄付：

◆物の寄付：

円

個

◆ボランティア時間：

時間

人

◆インパクトを与えた人数：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

この問題の「そもそも」「根本」を4人で考え意見を出しあった。そして、意見をまとめるごとに多くの人々に伝え、フィードバックを頂いた。動画作成も同様で、このプロジェクトについて全く知らない人に動画を見てもらい、多くのフィードバックをもらった。

困難だったこと 次回に活かすこと

どうすれば自分たちの思いを、出来る限り明確に伝える事ができるかに苦労した。また、時間が足りず「動画CM」を作成することまでしかできなかった。スケジュールを意識し、もっとスピード感をもって活動すべきだった。

メッセージ

今回「誹謗中傷」にじっくり向き合い考えてきた中で、自分たちにも多くの発見がありました。普段何気なく使っているSNSや発信している言葉でも、間違った使い方をすれば簡単に人の命が奪われます。自分・友人・家族を守るために、今一度それらの使用方法を見直してみて下さい。もっともっと楽しい未来がやってくると思います。

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 4人 京都府 高校生

名前 / グループ名：
The residents of the sustainable city KAMEOKA

報告者

グループメンバー：
植山勇希、芝田頼樹、畠中大洋、吉川優里香



取り組んだ社会問題 プラスチックゴミ削減

-理由-

亀岡市はSDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業に選出されました。私達はその中の環境についての対策の中の「ゴミを極力出さない社会」の実現に目を向けました。さらに亀岡市が全国に先駆けてレジ袋廃止を行ったことで「プラスチックゴミ」に対する興味が湧いた。亀岡市のプラスチックゴミ問題について調べてみると、私達の学校の近くを流れる保津川が、ポイ捨ての影響で名物でアル保津川下りの景観を損ねてしまっていた。私達は、プラスチックゴミに目が行くのではなく、豊かな自然が目立ってほしいと思い、まずは分別をしっかりとできるようなアクションを行おうと思った。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

私達が取り組んだプロジェクトは、「分別を無意識に心がけられるゴミ箱の制作」「ゴミの分別に対する意識調査」「プラスチックゴミが出ない。かつ手ぶらで行けるバーベキュー場の提案」「小さな子どもも、楽しみながら分別ができるカードゲームの制作」の4つを中心に行なった。その中でもとくに「カードゲームの制作」は、意識調査から若い人は分別意識が低いことがわかったので、若い世代向けにわかりやすいイラストなどをつかい分別について理解しやすくなるように仕上げた。また「バーベキュー場の提案」は亀岡市議の方々と交流し市議会に取り上げてもらえることになった。

なぜこのアクションなのか：

ただ単に分別を学ぶのではなく「分別×楽しいこと」をコンセプトとして解決方法を考えることにより、幅広い年代の人に分別を楽しく、わかりやすく心がけてもらえると考えたため、「カードゲーム制作」や「バーベキュー場」の提案などワクワクするアクションにした。

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

～

数値的成果：

◆お金の寄付：

◆物の寄付：

個

◆ボランティア時間：

円

◆インパクトを与えた人数：

人

時間

人

◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

分別×楽しいことをコンセプトとして幅広い年代の人たちに「楽しみながら分別できる意識」を持ってもらうことで、分別が「しんどいもの」と捉えなくなる。それによって日々の中でさりげなく分別をすることができ、環境が改善されるようにした。

本校の総合学科発表会で全校生徒の前で提言を行った。

困難だったこと 次回に活かすこと

ペットボトルの分別意識調査をするときに冬の寒い時期だったからか、ペットボトルの母数が少なく精確な調査を行うことができなかった。そのため、ペットボトルの消費が激しい夏頃を目指して再度意識調査を行いたい。

メッセージ

分別×楽しいことになるように分別を当たり前のことだと思うことによって「分別」がしんどいことと思わなくなる。そうすると、人が自然にゴミを分別することができるようになってポイ捨てが減る。このように、小さなことから少しづつ分別を意識することによって環境が変わっていく。まずは分別に目を向け、少しづつゴミが出ない社会の実現を目指しませんか？

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 7人 東京都 高校生

名前 / グループ名：
Bridge

報告者

グループメンバー：
仲條ゆうな、荻原阿子、土屋瑛湖、豊永茉由
宮本采依、川田すみれ、柳堀花怜



取り組んだ社会問題 日本の農業問題

-理由-

私たち、最初に人と人をつなげる活動をしたいと思いこの団体を始めました。そこで、あまり知られていない問題について取り組みたいと考えたとき、農業についての問題はあまり知らないなとメンバーで考えました。最近では、ヴィーガンなどは話題になっていますが、調査しても農業の問題についてはあまり取り組まれていませんでした。そこで、自分たちが、農家さんの人手不足や農業の問題について知って、多くの人に広めて、農家たちの苦労をなくしてあげたいと思いました。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

2020年12月6日、農業の現状と問題点を多くの人に知ってもらうことを目的に、「農業の危機を救え！」という題名でオンラインイベントを開催した。まず、Bamboo village farmさんに協力していただいて作成した、低い年齢層でも楽しめるオリジナルストーリーを上映した。それに加え、BridgeやFree The Children Japanについて紹介した。そして、ストーリーの最後に登場した「秘伝のレシピ」を参加者に共有し、抽選でオーガニック商品がもらえるという特典付きで、調理の様子をSNSにあげてもらうことによって農業について広めてもらうSocial Actionを促した。

なぜこのアクションなのか：

ドキュメンタリー上映会は、参加者だけでなく自分たちも農業の問題について深く知ることができると思ったからです。また、農家さんと実際に交流することで調査で学べないことを学ぶことができるからです。参加者には、レシピを実際に作ってもらうことで有機野菜の魅力を感じてもらえばと思い、アクションにしました。

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

20/12/6 ~ 20/12/6

数値的成果：

◆お金の寄付：

◆物の寄付：

円

個

◆ボランティア時間：

1時間

◆インパクトを与えた人数：

6人

◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

まず、私たちは、「農業の危機を救え！」というオンラインイベントでは、ドキュメンタリーを私たちで制作しました。対象は子供ということで、ストーリー性を持たせることで、子供の興味を引くことができるようになりました。次に、雑誌（パンフレット）の制作を行いました。多くの人に気軽に手に取ってもらい、読んでもらいたい！という想いから、文字が多くなりすぎないように意識しました。この目的は、私たちBridgeの知名度を上げる事で、少しでも多くの人に、手に取って、読んでもらえることを願っています！

困難だったこと 次回に活かすこと

＜困難だったこと次回に活かすこと＞
「農業の危機を救え！」のドキュメンタリーは動画をzoom上での上映であったため、ネット環境の不具合で内容が伝わりにくくなってしまった部分がありました。また、チラシを地域全体に配る上で受け入れてくださらない施設などがあって、100部配ることが凄く困難だった。また、今回の企画自体が参加者に対してただ見ているだけの企画になってしまい、あまり面白みがなかった。次回は、参加型にする事を意識して企画を行いたい。
また、パンフレットの作成では情報の入手が困難だった。
多くの人に手に取ってもらえる様なデザインやトピックを選択するようにしていきたい。

メッセージ

私たちBridgeは、農業の普及のため、農家の方々の声を届ける、Bridge(架け橋)として活動をしてきました。その経験を通じて、私たち個人の農業への理解の深まりとともに農業の現状を知ったり体験したりしました。

スーパーに行くと当たり前のように並べられている野菜や果物の数々ですが、一つ一つに作り手の思いが込められています。今後も、持続可能な社会を、そして農業が続けられるように私たちは架け橋となって、活動を続けていくこうと思います。

形態： 人数： 活動地： 区分：
個人 1人 神奈川県 高校生

名前 / グループ名：
河合はな

報告者

グループメンバー：



取り組んだ社会問題 力カオ生産地域における児童労働

-理由-

児童労働の問題に、もともと興味を持っていて、自分も何かできることをやりたいと思っていました。行動につなげるためにも自分にとって、自分の周りの人たちにとって、身近なものがいいと思い、チョコレートに注目しました。児童労働というと自分とは関係のないこと、どこか遠くでおこっていることに感じてしまうが自分が普段食べているチョコレートにも関わっているのだと知ると、その問題が自分ごとになる。私は、チョコレートを入口として児童労働の問題を解決したいと思いこのテーマにしました。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

力カオ生産地域にある問題を解決するためにNGO「ACE」やチョコレート企業、JICAなど、さまざまな立場の人のアプローチ方法を調べました。一番私の中で印象的な取り組みであったのがトニーズチョコロナリーというオランダのチョコレート会社です。「100%奴隸労働のないチョコレートを業界の標準にする」という明確なミッションを掲げています。2020年の11月に有楽町の丸の内店に日本初上陸して、私も実際にに行ってきました。それが上の写真です。その場で、店員の方やお店に来ていて同じように児童労働の問題に興味を持っている方とお話しすることができました。日本でもトニーズチョコレートを広めたいなと思っています。

学校の探究学習の一環でやったので、調べたことをレポートやポスターにして、発表しました。

なぜこのアクションなのか：

人に伝えて、巻き込んでくためには、まずは自分が勉強しないといけないと思ったからです。

アクションの種類：

その他

実施期間：

20/9/1 ~ 21/2/26

数値的成果：

◆ お金の寄付：

◆ 物の寄付：

円

個

◆ ボランティア時間：

時間

◆ インパクトを与えた人数：

人

◆ もの他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

今回の調査を通して、力カオ・チョコレート産業にはどんな課題があって、現在、NGOや企業、政府、さらにはソーシャルビジネスとしてどういった取り組みがされているのかを知ることができました。

メールを通してmeijiや森永、ロッテ、ブルボンといったチョコレート企業に対して質問と共に自分の想いを伝えることができました。また、トニーズチョコロナリーやフェアトレードショッピングにも実際に足を運ぶことができました。

困難だったこと 次回に活かすこと

自分がいろいろ全部知ってから、アクションを起こさうではなくて、調べながらちょこちょこ周りに働きかけていく、行動をおこしてみるというふうにやっていきたいと思いました。

これから動きとしては、3月に社会貢献デーがあるのでその場で、児童労働の問題や今回調査した取り組みを伝えていけたらと思ってます。また、来年度の文化祭に向けて何をするのか考えたいと思います。

メッセージ

森永の1チョコfor1スマイルという取り組みを知っていますか?これは、対象商品であるDarsや小枝、森永ココアなどを買うと「ACE」に1円が寄付される取り組みです。ぜひ1チョコで検索してみてください!

他にも有楽製菓のブラックサンダーやメイジのThe meiji chocolateもチェックしてみてほしいです。

児童労働がないチョコレートがあたりまえになるように、すべての人が幸せになるチョコレートであるように、私たちができるることをやっていきましょう!

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 13人 東京都 高校生

名前／グループ名：
東京学芸大学附属国際中等教育学校
ソーシャルアクションチームケニアチーム

報告者

グループメンバー：
乙藤かや乃、加茂周子、岩垂優太、高瀬菜々美、三木庸平、山内彩、鷗原紗世、表萌乃佳、毛千晴、閔智嬪、高田結愛、本田詩歩、新谷琴子



取り組んだ社会問題 開発途上国における女子教育の向上

-理由-

現在、様々な団体が開発途上国の現状について取り組み、学校建設などをしました。それによって就学率や識字率は上がりましたが、例えばケニアでは、5~14歳の児童労働が26%もいるという事実があります。さらに、女子が教育を受けることの大切さを理解していない親が多く、女子の識字率は78%と、男子よりも10%弱も違います。それによつて、女性の地位が男性より低くなり、女性暴力の問題につながります。そのため、私たちは男女平等という視点から、開発途上国の女子教育の支援をしたいと思いました。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

インスタグラムでの発信：ケニアの女子教育の現状、ケニアの貧困問題、女性問題、ケニアの文化、私たちができるアクションなど、様々な視点からケニアや開発途上国の事情について発信しました。

校内イベントの実施：ボランティア部の今までの国際協力の経験や、個人の経験などから、国際協力についてのイメージと、身近にできるアクションの起こし方について中学生の子たちに教えました。イベントはワークショップ形式で、イベント前と後に国際協力のイメージを参加者に聞いて、どのように変化したか聞きました。最後に、身近にできる国際協力の一例として、皆さんに絵本を家から持った来てもらい、その絵本をNPO団体を通してアフリカの貧困支援のために寄付をしました。

なぜこのアクションなのか：

国際協力をすることは難しかったり、一人じゃできなさそうと思っている人が多いです。私も実際そう思っていました。しかし、国際協力ができる道は様々な形があり、誰にでもどこでもできることを多くの人に伝えたく、私達は国際協力をまなび、その場で国際協力できるようなイベントを開催して、多くの人にアクションを起こす気軽さを持ち備えてほしいと思いました。

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

20/4/1 ~ 20/3/1

数値的成果：

◆お金の寄付：

1375円

絵本50個

◆ボランティア時間：

◆インパクトを与えた人数：

時間

120人

◆その他：

支援先：

Malaria no more japan (マラリアで苦しむ子供たち)

工夫したこと 達成したこと

知識の習得だけにならないために、大きな模造紙、付箋とマッキーを使って、グループごとに自由に意見を書いてもらって、まとめたりしてもらいました。それによって、イベント前と後の国際協力についてのイメージの変化を可視化させることができました。イベントの最後に、実際絵本を寄付する行動をすることで、アクションを一つ達成し、実感がわくことで、次のアクションにつながるステップを作ることができました。多くの参加者は国際協力のイメージが変わった、楽しかった、また参加したいと言つてくれました。

困難だったこと 次回に活かすこと

校内イベント、そして平日放課後の部活の時間帯ということで、人集めがかなり大変でした。また、イベントの運営の面で、盛り上がる事がかなり難しかったです。そのため、次回は土日のオンラインイベントを予定しています。また、ゲストを外部から招くことで、より実体験に基づいた講演ができると考えました。さらに、雰囲気を盛り上げるために、アイスブレイクや、スタッフの統一性は欠かせないと感じました。また、参加者と会話するような感じで、みんなと一緒にイベントを盛り上げるように工夫していきたいです。

メッセージ

最初は、自分たちの小さいイベントで人が集まるかどうか心配でした。しかし、どんな小さいイベントでも、自分たちが頑張れば興味を持つてくれる人が必ずいます。また、その小さなイベントの積み重ねが、大きいイベント、多くの参加者につながるので、少しづつ経験を重ねていくことは大切だと思います。まずはやってみること、そして失敗を恐れないこと、自分たちのアクションに自信を持ち、さらに大きいアクションを目指し、活動していくことが大事だと思いました。そして、一番大切なのは、自分たち本来の目的を忘れないことです！

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 8人 東京都 高校生

名前 / グループ名：
FTCJ 明治学院高校支部

報告者

グループメンバー：
森永真凜 横田琴乃 原田結生 中村優月 高松世奈
小林日向 高橋美帆 加藤恵



取り組んだ社会問題 SDGs Goals1・4

-理由-

貧しさや教育格差はFTC設立のきっかけとなった社会問題であるから。
いま日本の多くの学生が学校へ通うことができているのは、当たり前ではないと考えてもらうため。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

文化祭での動画作成

なぜこのアクションなのか：
SDGsに关心を持ってもらうため

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

20/9/1 ~ 20/12/25

数値的成果：

◆お金の寄付：

0円

◆物の寄付：

0個

◆ボランティア時間：

時間

◆インパクトを与えた人数：

500人

◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

SDGsを知らない人にも分かりやすい動画づくり

困難だったこと 次回に活かすこと

もっと伝わりやすい発信手段や、話し方ができるようにしたい。

メッセージ

SDGsについてもっと認識を深め、自分にできることを考えていきましょう。

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 6人 大阪 高校生

名前 / グループ名：
桃山学院高校スクール・バイ・スクール (SBS)

報告者

グループメンバー：
池上祥央、中田柊史、入口輝、白神桜子、
尾高稔梨、中川智尋



取り組んだ社会問題 フィリピン・タール火山噴火被災

-理由-

私たちの先輩たちが2007年に建設した学校が、フィリピンのバタンガス州マンガハン村にありました。ところが、その学校付近のタール火山が2020年1月に噴火し、村民から支援要請を受けたため、復興支援に取り組みました。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

フィリピン・タール火山復興支援のため、学校内外で募金を呼びかけました。ところが新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、募金額も十分に集まらないまま、現地との連絡も途絶えてしまい、私たちの活動も中断を余儀なくされました。ようやく昨年の夏に現地と連絡が再開されましたが、被災地の人々が必要とするものがオンライン授業用のタブレットとなり、私たちはその要求に困惑しました。

なぜこのアクションなのか：

私たちSBSが建てた学校がある村の人たちは2007年以来ずっと交流があり、被災して困っている村の人たちを助けたいと思ったから。

アクションの種類：

資金調達

実施期間：

20/1/15 ~ 21/1/10

数値的成果：

◆ お金の寄付：
170,000 円

◆ 物の寄付：

個

◆ ボランティア時間：

◆ インパクトを与えた人数：

人

時間

◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

募金を行う際に、なぜその寄付が必要なのかを知ってもらうために一目で分かりやすいポスターの作成を心がけたり、寄付をしてくれた人にパンフレットを渡したりしました。大きな声で募金を呼びかけた結果、想像してたよりも多くのお金が集まつたのでよかったです。最終的に村の子どもたちに筆記用具などを十分に支援できました。

困難だったこと 次回に活かすこと

被災地が避難生活から復興にへと時間が移行するにつれて、その時々で現地に支援すべき物や、現地でそれが本当に必要とされている物なのかを検討し、見極めることができることが困難でした。支援方法を数通り思いついたが、費用の面で直ぐに決定出来なかったこと。費用などの面も踏まえ柔軟な案を考えようと思った。また被災した村人全員が平等に支援を受けるためにはどうするべきかを考えることが困難でした。さらに現地に寄付金を送る時に想像以上に送料や人件費がかかってしまい、自分たちが思っていた通りの支援が出来たのか不安だったので、次回からはそのような費用のことも考えた上で支援をしたいと思いました。

メッセージ

今はこのご時世もあり、思うように活動ができず、私たちもこの1年悩んできました。その中でも校内での募金活動など、限られた範囲での活動だけとなりましたが良い経験ができたと思っています。このようなボランティア活動を私たち学生がすることによって、自分の将来だけでなく、日本や世界の将来へ良い影響を与えることができると思います。

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 10人 神奈川県 高校生

名前 / グループ名：
中高生ボランティア団体NEXUS

報告者

グループメンバー：
中高生ボランティア団体NEXUS
(今回活動したメンバー)
小野光稀
川島優芽名
佐藤瑠飛



取り組んだ社会問題 ゴミ問題と環境問題

-理由-

私たちの団体、中高生ボランティア団体NEXUSは2013年に設立され、2020年度で8周年を迎えました。神奈川県鎌倉を中心に中高生向けのボランティア活動を提供しています。中高生が個人でボランティア活動を実施するにはかなりの制限がありますが、したいと思う気持ちを妨げてはならないと考えています。私たちは中高生が主体的に運営をし自由に活動することで、社会問題を解決の方向に向かわせ、若い世代のしたいと思う気持ちを助けることを目指しています。その入り口として、身近で始めやすいゴミ問題と環境問題を中心に扱っています。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

コロナ禍以前、私どもは月2回のボランティア活動を実施していました。そのうち1回は鎌倉由比ガ浜の海岸清掃、もう1回は月によって活動内容を変えています。街中清掃を実施した月もあれば、貸会議室でSDGsについて話し合う会を実施することもあります。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で活動に大幅な制限がかかり、思うような活動を実施することができず、去年3月から6月、今年1月以降現在まで活動を見送っています。今年度は実施できる月も感染対策を実施しなければならないため、従来のような活動は出来ず、1回は鎌倉由比ガ浜清掃、もう1回は県内の別の海岸での清掃活動を実施しています。

なぜこのアクションなのか：

前述の通り、私どもはただボランティア活動を実施するだけでなく、中高生がボランティア活動を実施できる場所を提供することも目的に活動しているため。ゴミ拾いであれば身近で始めやすいと考えている。

アクションの種類：

ボランティア

実施期間：

20/7/12 ~ 20/12/20

数値的成果：

◆ お金の寄付：

円

◆ 物の寄付：

個

◆ ボランティア時間：

時間

◆ インパクトを与えた人数：

人

◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

今年度で8年目であるが、今年度より活動証明書の発行を開始したほか、役員のミーティングの実施を早いうちからオンラインに変更しました。コロナ禍であるが、活動できる月は月2回の活動を欠かさず実施することが出来ました。また、より私どもの活動を発信するために活動を詳細に報告できるプラットフォームへの登録をして活用を始めました。

困難だったこと 次回に活かすこと

活動がなかなか実施できないこと。次回いつ実施できるかもわからない。しばらくこの状況が続くのであれば現在のオンラインのみでの活動に限界が来るのではないかと感じている。また現在メンバーが50人を超えて収拾がついていないことも否めない。

メッセージ

ボランティア活動のみならず新しくアクションを実施する際は、いきなり高度なことからの始めるのではなく、簡単なことから始めると良いと感じる。

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 7人 東京都 高校生

名前 / グループ名：
サーバントフレンズ（ボランティア委員会）
カタリバ

報告者

グループメンバー：
高野景、辻一華、金内玲実、倉内秋文乃、西尾真由、石川実桜、飯塚優



取り組んだ社会問題 SDGs目標5,10,14,17

-理由-

女子高等学校ということもあり、性について考える機会も多くあり、ジェンダー問題に興味を持った。社会問題について議論したり、小論文を書いたりする国際教養の授業や人間学の授業がある。また、ニュースや新聞からトランスジェンダーの人々を知り、彼らを理解していく必要があると悟った。そこから、ジェンダー平等の社会を目指して、活動を行った。伊藤詩織さんとのことをはじめ、ニュースや新聞で、セカンドレイプ問題について知り、性被害者や女性暴力被害者に対する社会の差別問題を無くしていきたいと思っていた。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

- 高校の文化祭で、SDGsのレポートを作り提示した。また、女性暴力反対運動をするためにパープルリボンを作り、来場者に女性暴力反対を呼びかけた。
- ユースフェスティバル2020に伊藤詩織さんをお呼びし、オンライン講演会で差別問題や性被害問題について聞いてもらう機会を作った。グループに分かれて話し合う時間を設け、グループの司会者やファシリテーターとして議論の進行を担当した。参加してくれた人に社会の性同意について知ってもらい、自分達も沢山の事を学べた。
- スラックス導入を生徒会に呼びかけた。今現在は、導入が現実となるために奮闘している。
- 多摩川で清掃ボランティアを行った。

なぜこのアクションなのか：

- サーバントフレンズ「カタリバ」を立ち上げてから、もっと沢山の人にSDGs等について知つてもらいたいと思った。
- 女子高という事もあり、女性という立場について考える機会が多くあった。また、伊藤詩織さんの著書を読んで日本の性被害問題について知った。
- 道端のゴミが川に流れ、拾わなければどうなるかを考える時間にしたいと考えた。

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

20/9/1 ~ 21/3/31

数値的成果：

◆ お金の寄付 :

円 個

◆ ボランティア時間 :

時間 100人

◆ インパクトを与えた人数 :

支援先：

工夫したこと 達成したこと

1.文化祭でのレポート作りでは興味を持つてもらえるよう絵を付け足した。参考文献を明確にし、アンケートでSDGsの認知度調査も行った。レポート内容をまとめたクイズや、パープルリボン配布で、女性暴力反対運動も行った。多世代の人達にSDGsのことを知ってもらえた。

2.全ての人が性被害者の立場になって考えることが出来る思考を持てる人間になって欲しいという気持ちを込めて議論する議題を決めた。性被害者の立場を理解し、新たな問題を発見できた。

3.制服のスラックスの必要性について訴えた要望書を明確に記した。

困難だったこと 次回に活かすこと

- レポートの正当性があるかどうか、参考文献は明確に記しているかを確かめるのに苦労した。来場者が興味を持ってくれるようなレポートにするのが大変だった。これからは知識を活かした経験をもっとつんでいきたい。
- 伊藤詩織さんのことを知ってから、性被害の問題点について話し合い、セカンドレイプ問題は自分達も加害者になりうることを、どうみんなに理解してもらうかを考える事に一番苦労した。これからは新しい形での性教育の必要性を訴え、性被害をなくすための方法を探っていくたい。
- スラックス導入について生徒会と議論し、導入の必要性を理解してもらうために自分達の意見を訴えた。実現に向けて頑張りたい。

メッセージ

こんにちは。玉川聖学院高等部に通う生徒です。去年の9月に結成されたサーバントフレンズ「カタリバ」は、今月で結成7か月となりました！まだまだ活動は少ないですが、私たちの学校で学べる人間学やキリスト教の教え、国際教養の授業、さまざまな課外活動を通して知識と経験を積んできました。結成から7か月の間でやってきた活動をここに記しました、これからも今まで学んだ知識とこれから学習していく知識を活かして、日々SDGsの目標達成のため前進してまいります！

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 3人 東京都 高校生

名前 / グループ名：
SOS

報告者

グループメンバー：
鈴木利彩 小澤愛美 清水優菜



取り組んだ社会問題 教育に対する意識

-理由-

高校生の力では金銭面での解決に限界があるため教育に対する意識の低さに目を向けました。この問題に目を向けた契機は、FTCJの方の「教育の重要性を理解していない人がいる」というお話を。私たちの多くは、「教育を受ける」ということを当たり前に感じてしまっているのではないかと思います。となると、それと同じように、教育を受けることができない人々は、「教育を受けないこと」を当たり前に感じているのではないかと考えたからです。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

教育の重要性を伝えるためのアニメーションの制作

なぜこのアクションなのか：
わかりやすく誰にでも伝わる物を制作したかったため

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

20/12/3 ~ 21/3/3

数値的成果：

◆お金の寄付：

◆物の寄付：

個

◆ボランティア時間：

円

◆インパクトを与えた人数：

人

時間

◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

文字を一切使わないアニメーションの作成

困難だったこと 次回に活かすこと

文字を使わなかったので絵での表現の仕方に苦労しました。

メッセージ

よろしくお願いします！！！

形態： 人数： 活動地： 区分：
個人 1人 東京都 高校生

名前 / グループ名：
大橋礼実

報告者

グループメンバー：



ドナルド・マクドナルド・ハウスは
病気と闘う子どもとその家族の
ための滞在施設です。



ドナルド・マクドナルド・ハウス・
チャリティーズ・ジャパン

取り組んだ社会問題 長期入院している子どもと家族

-理由-

私が小学生の頃に入院していた国立病院に、難病の子供が多数入院していました。その子供達の家族が長期の看病をするために費用等でご苦労をしていると聞いたことがあります。昨年、そんな人々をサポートするマクドナルドハウスがあることを知り、何かお手伝いをしたいと思ってボランティアに登録しました。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

マクドナルハウスのボランティア登録

なぜこのアクションなのか：

私が小学生の頃に入院していた国立病院に、難病の子供が多数入院していました。その子供達の家族が長期の看病をするために費用等でご苦労をしていると聞いたことがあります。昨年、マクドナルドハウスを知り、何かお手伝いをしたいと思ってボランティアに登録しました。

アクションの種類：

ボランティア

実施期間：

20/3/6 ~

数値的成果：

◆ お金の寄付：

◆ 物の寄付：

円

個

◆ ボランティア時間：

◆ インパクトを与えた人数：

時間

人

◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

初回のボランティア日程についての相談中に最初の緊急事態宣言が出て、活動中止となりました。ボランティア活動可能になり次第、改めてご連絡を頂くことになっています。（そのまま一年近くが経過しています。。）

困難だったこと 次回に活かすこと

早くコロナが収束し、実際に活動できるようになればいいなと思っています。

メッセージ

実際のボランティア活動はできていないのですが、アクションは起こしたという事でご報告しました。（活動報告のご依頼メールをいただきましたので、無理矢理ひねり出しました。。。）このような中途半端な状況ですので、2020年度のアクションレポート公開については辞退させてください。その代わり、コロナ禍にでも出来るアクションを探そう！と決意する良いきっかけとなりました。見つかりましたら、またご報告したいと思いますので、よろしくお願い致します。

形態： 人数： 活動地： 区分：
個人 1人 静岡県 高校生

名前 / グループ名：
こまちゃん

報告者

グループメンバー：



取り組んだ社会問題 SDGsへの意識を高める

-理由-

コロナ禍の今、改めてSDGsに向き合う必要があると思った。私たちがしなければならないのは、SDGsに設定されたゴールを達成することだけではなく、個人がSDGsにどう向き合っていくかを考えることだと思った。



ソーシャルアクション

実施したアクション

地元で行われた2030SDGsカードゲームに参加し、ゲームを通して未来の世界について話し合った。普段話す機会が少ない地域の大人とSDGsについてディスカッションできた、とても貴重な体験だった。

なぜこのアクションなのか：

SDGsのカードゲームを既に一度学校で開催した時、参加出来なかった友人から「またやってほしい」と言われた。私自身も色んな人にカードゲームを体験して欲しい思いもあり、このカードゲームにもっと深く触れようと考え、学校外で行われると言うのに魅力を感じ二回目の参加を決意した。

アクションの種類：

自己行動変革

実施期間：

20/11/28 ~

数値的成果：

◆お金の寄付：

◆物の寄付：

円

個

◆ボランティア時間：

時間

人

◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

自分の意見をしっかりと伝えることも大切だと思うが、今回のアクションでは他人の言葉を聞き取る姿勢を崩さないよう意識した。普段自分と関わりのない「普通の大人」がSDGsにどのような考え方を持っているのかを知れて良かった。

困難だったこと 次回に活かすこと

SDGsは世界平和を目指す上での指針となる明確な目標だと思っていたが、今回のディスカッションから、もしかしたらSDGsは凄く抽象的なものかもしれないと思った。まだ上手く言語化することは出来ないが、自分の認識が改まるきっかけになった。これからボランティアに参加するときも、参加する意義と目的をしっかり頭に入れて活動していきたい。

メッセージ

SDGsってなんだろう。
社会問題ってなんだろう。
解決する方法だけじゃない、それ自体にどう向き合っていくか。何かアクションを起こす前に自分の中の気持ちと向き合ってみてほしいと思う。意識の改革から向上へ！

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 45人 兵庫県 高校生

名前 / グループ名：
零の会

報告者

グループメンバー：
新岡寿々乃



取り組んだ社会問題 教育の機会平等、つかう責任

-理由-

自分たちと同じ子どもなのに、十分な教育の機会がない子たちがいることはすごく悲しいことです。そんな子の力に少しでもなりたいと思いました。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

日興商会さんを通じて、フィリピンにまだ使えるけれど捨てられてしまう文房具を校内で集めて送りました。フィリピンの方と心の交流ができればと思い千羽鶴も折りました。「善意の行動が押しつけになっていないか」「ボランティアをする意義は何なのか」ということを、月一回テーマを決めてメンバーと話し合いました。今年はオンライン開催もしました。事前に本を読んだり卒業された零の会の先輩にお話を聞いたりして、「ボランティアの意義」について有意義な話し合いができたと思います。学校では毎朝礼拝があるのですが、その時間に全校生徒に向けて「ボランティアの意義」や活動についてお話しもしました。

なぜこのアクションなのか：

以前、フィリピンから「なぜこんなに文房具を送ってくれるの?」という手紙が届きました。文房具を使えることは当たり前ではないこと、すぐに新しいものを買ってしまいものを大切にしていないことに気付かされました。まだ学生で多くの支援はできないので、ただ相手を支えるだけではなく自分たちを省みる機会を持つような活動、等身大の活動をしていきたいと思っています。

アクションの種類：

物資調達

実施期間：

20/9/25 ~ 20/2/22

数値的成果：

◆ お金の寄付：

◆ 物の寄付：

円

962個

◆ ボランティア時間：

時間

◆ インパクトを与えた人数：

人

◆その他：

支援先：

フィリピン

工夫したこと 達成したこと

回収ボックスは當時設置していましたが、「回収強化週間」をつくって持ってきてもらえるよう工夫しました。

困難だったこと 次回に活かすこと

ものを大切にすることについて考える機会にしてほしい、という呼びかけがあまり伝わっていなかったように感じました。興味がない人に対してどう伝えるか、難しいことですがこれからも工夫ていきたいです。

メッセージ

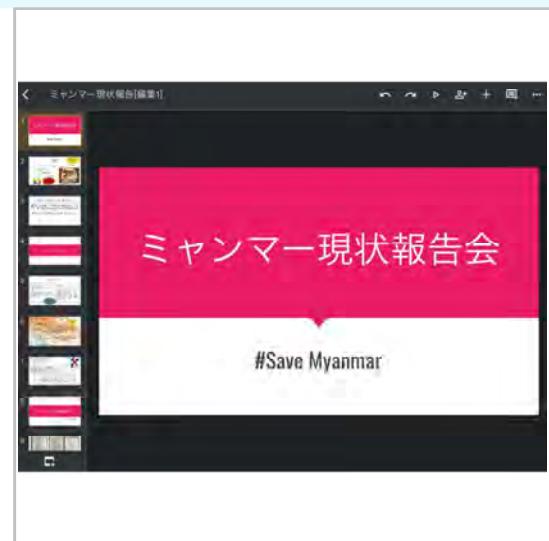
どんなことでも、やりたいと思ったことはやってみてください！応援しています。

形態： 人数： 活動地： 区分：
個人 1人 東京都 高校生

名前 / グループ名：
モリヤケイナ(仮名)

報告者

グループメンバー：



取り組んだ社会問題 ミャンマーのクーデター

-理由-

学校で参加しているプロジェクト、「Connect to the period」は、現在ミャンマーに布ナップキンを送る計画をしている。だが、ミャンマーの現状は連日の報道でも知るように、悲惨なものである。先ほどのプロジェクトでは、ミャンマーの現状を知るために、ミャンマー現状報告会の場が設けられた。現地の様子、現地にいるNLDの国会議員、在日ミャンマー人の方々から現状を教えてもらった。このプロジェクト内に納めるのではなく、学校の友達に知ってもらいたいと思ったため。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

学校の学年集会で、ミャンマー現状報告会の様子や内容、現地に現場についてスライドを用いて説明した。また、ミャンマー現状報告会のスライドを再編集し、誰でも分かるミャンマーの現状をまとめた物を、学年のclassroom(教師と生徒がWeb上で交流できるWebサービス)に配信した。

なぜこのアクションなのか：

ミャンマー現状報告会についてミャンマーの現状について知りたいと思う人がいたため。また、ミャンマーのクーデターまでに流れは、何も知らない人からすると何が起こっているのかよく分かっていなかったり、使われている言葉の意味がわからず情報収集の段階で、挫折してしまう人もいると考えたため。

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

21/2/8 ~

数値的成果：

◆お金の寄付：

◆物の寄付：

円

個

◆ボランティア時間：

◆インパクトを与えた人数：

時間

200人

◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

私自身、今までミャンマーのことを深く考えたことがなかった。ミャンマーの現場について、「難しそうだから、分からぬ」という人をなくせるように、ミャンマーについて調べていく中で、知っておいた方がいい言葉や背景をわかりやすくまとめるようにした。学校の中で、もともと交流のあったミャンマーの今を知つてもらって、関心を持ち続けてもらえて嬉しい。ミッショナリースクールなので、朝の礼拝などのお祈りの中に、毎日ミャンマーについての祈りも含まれていることなど。

困難だったこと 次回に活かすこと

信じられる情報とそうでない情報の見極め。元々のプロジェクトは、布ナップキンの普及と「生理の貧困」を無くすことだが、送り先でもあるミャンマーについてこれからも学校を通して発信していきたい。

メッセージ

これから、もっとミャンマーのクーデターを辞めさせる活動や、「生理の貧困」について、具体的なアクションを起こしていくでの、同世代を中心に、大人からのアドバイスを積極的に取り入れていきたいです。学生だからできないではなく、学生だからこそできることを模索していきます。

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 7人 鳥取県 高校生

名前 / グループ名：
総合探究 募本活動有志

報告者

グループメンバー：



取り組んだ社会問題 校内での募本活動と、その寄付

-理由-

本を集めて近隣の施設に寄付することで、本からたくさんのこと学ぶ機会をつくるだけでなく、読まなくなつたものを廃棄処分することなくリサイクルに貢献できる。また、本の寄付に協力してくれる人もこの機会を社会貢献のきっかけにしてもらいたいから。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

学校内で生徒や先生から家で読まなくなつた本を持ってきてもらい、市内にある保育園や公民館にその本を寄付した。認知度を上げるために毎日校内放送をし、集まつた本を消毒し、寄付先に連絡を取り寄付した。

なぜこのアクションなのか：

総合的な探求の授業で、S.M.A.R.T.目標の立て方を練習した。そのときの題材が募本活動だった。それをきっかけに、ただ本を売却し、その収益を募金するのではなく、本そのものを寄し、本を読んでもらいたいと思い至ったから。また僕自身、本が好きでその思いを共有できれば良いと思ったから。

アクションの種類：

物資調達

実施期間：

21/1/22 ~ 21/2/5

数値的成果：

◆お金の寄付：

◆物の寄付：

円

150個

◆ボランティア時間：

時間

人

◆インパクトを与えた人数：

◆その他：

支援先：

近隣の保育園3か所、公民館1か所（絵本・幼児童話・小説）

工夫したこと 達成したこと

昼休憩に毎日みんなで順番に校内放送をして全校生徒に呼びかけたり、ポスターを自分たちで作って、掲示したりした。本をアルコール消毒して氏名などが書いてある箇所に作成したステッカーを貼った。

困難だったこと 次回に活かすこと

寄付先との連携や確認が困難だった。

メッセージ

計画は、S.M.A.R.T.目標をもとに計画したが、複数人で無いと気付かない問題点もあり、実際に活動している際も、協力することが大切だと気付いた。また、計画していても活動してからわかる修正点も続々出てきて、実際にやってみないとできないこともあるのに気付けた。案じるより産むが安し、という言葉があるが、とりあえずやってみるということも大切だと思う。

形態： 人数： 活動地： 区分：
個人 1人 東京都 高校生

名前 / グループ名：
安達碧瑠

報告者

グループメンバー：

子どもの貧困



取り組んだ社会問題 貧困

-理由-

相対的貧困について日本で取り扱う機会は少なく、少しでも多くの人に知って欲しいと思ったから。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

相対的貧困について調べ、大綱や支援団体の意見をもとに考えた解決策を学校の人に提案する

なぜこのアクションなのか：

コロナ禍で実践的な活動ができない中で、身近な人に問題について知ってもらうことならできるのではないかと考えたから。

アクションの種類：

政策提言

実施期間：

20/7/10 ~ 21/3/13

数値的成果：

◆ お金の寄付：

◆ 物の寄付：

円

個

◆ ボランティア時間：

◆ インパクトを与えた人数：

時間

人

◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

ポスターだけでは分かりづらいところを、よりわかりやすくするために口頭で説明を加えた。

困難だったこと 次回に活かすこと

ボランティア活動を行いたかったが、コロナ禍だっただけでなく、高校生にはできる活動が限られていたために思うような行動は出来なかった。

メッセージ

大学生になったらコロナも落ち着いて、様々なボランティア活動などを幅広くしていきたい

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 2人 千葉県 高校生

名前 / グループ名：
Let's be the First Penguins (LFP)

報告者

グループメンバー：
成毛亜梨樹、谷嶋一美



取り組んだ社会問題 環境問題

-理由-

プラスチックはマイクロプラスチックとなって海に流れ込み海洋生物の暮らしを破壊している為プラスチックの量を蜜蠟ラップの使用で少しでも減らし、プラスチックを少しでも使わないことやそれによって減る温室効果ガスのことを考えると使う責任や陸の豊かさを守れることに繋がるから。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

蜜蠟ラップを作ろうというイベントを学校の講座やオンラインイベントとして開催しました。具体的にどのようなことをしたかと言うと環境問題特に海洋汚染などについて学んだり、蜜蠟や蜜蠟ラップとは何かを詳しく学んだり、実際に蜜蠟ラップを自分の手で作ってみるという作業を行いました。

なぜこのアクションなのか：

あまり、身近には感じられない海洋汚染の問題と環境問題の一因であるプラスチックゴミについて深く知ってもらい、プラスチックの使用を少しでも減らした生活スタイルを提案し、プラスチックの使用を減らしたいと考えたから。

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

20/11/21 ~ 20/11/28

数値的成果：

◆お金の寄付：

◆物の寄付：

円

個

◆ボランティア時間：

時間

個

◆インパクトを与えた人数：

36人

◆その他：

工夫したこと 達成したこと

- 常に参加者一人一人に目を配り、誰かが遅れたり、失敗する人がいないように心掛けたこと。
- 学校での参加者を集めため、クラスを周り宣伝をしたこと。
- スライドにクイズを入れたりなどをして、参加者が楽しめるようにしたこと。
- 参加者に海洋汚染・蜜蠟ラップについて深く知つてもらえたこと。
- 参加者の方が、友達に蜜蠟ラップのことを紹介してもらい、プラスチックを減らした生活スタイルを広めることができたこと。

困難だったこと 次回に活かすこと

- オンライン開催で、思うように参加者を集められなかったこと。
- オンライン開催では、早めに参加者を集めること。
- スライド発表で、クイズ形式や質問を投げかけるなどして、参加者に積極的に参加させる。
- 蜜蠟ラップの材料の到着を、イベント実施の3日前までには終わらせておく。

メッセージ

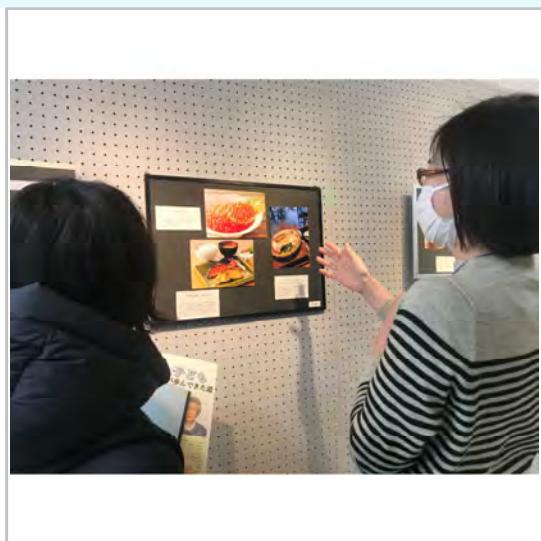
イベントに参加してくださったみなさん！ありがとうございました！！！イベントを通して蜜蠟ラップを知って興味を持ってくださった人がたくさんいて、私たちの行動で少しでも環境のいいものを知ってもらえてとても嬉しかったです。蜜蠟ラップに限らずプラスチックの使用量を減らすことはマイバッグの持参や紙袋を使うなどまだまだたくさんあります。環境問題に必死に取り組んでいる方や企業は沢山あってどんどん色々な方法で環境に優しい物や方法が生まれているので、皆さんも是非蜜蠟ラップに限らず新しいものを見つけてみて下さい！！！

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 4人 東京都 高校生

名前 / グループ名：
小川花怜、小峰結、高崎晴菜、渡邊貴子

報告者

グループメンバー：



取り組んだ社会問題 地域の繋がりの希薄化

-理由-

「6年間桐朋女子に通ったけど、地域のことは全然しらない」この気づきが、私たちの企画のはじまりだ。現在、さまざまな地域で「繋がりの希薄化」が呼ばれている。これはSDGsの11『住み続けられるまちづくりを』という項目の達成を阻むものだ。私たちの学校がある調布でも自治体への加入率は年々減少をしているという。地域との結びつきを学校から変えることができるのではないか、その様に考え、この社会問題に取り組むことにした。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

地域で精力的に活動をなさっている方に取材をし、記事を書き、一冊のものにまとめた。後日、学校のホームページ、ラジオによりまとめたものを公開する。

統合失調症や強迫性障害など、心の病気を抱える人たちが、食事を通して交流をする場所である「クッキングハウス」、中高生の学びやイベント開催を支援する「調布市青少年ステーションCAPS」、市民の方の多くが交流をする調布市東部公民館、調布市選挙管理委員会、山内ぶどう園を取材した。また桐朋女子高校社会科教員の吉崎先生や、生徒の生の声も取材をした。記事を読むことで、地域と学校、地域と地域が繋がるきっかけとなり、SDGsの11にある「住み続けられるまちづくりを」を達成することを目指すアクションである。

なぜこのアクションなのか：

我が校は地域との結びつきが弱い。それは「桐朋女子が地域にひらかれた学校になる努力をあまりしていない」ことに原因があると考えた。最終目標を「地域に根づいた学校にすること」と設定。桐朋生が地域の魅力に気づき、地域の方が桐朋の魅力、そして地域の魅力を再発見できる、その様な活動が繋がりを再構築することになり、SDGsの11の項目を達成に近づくのではないか。

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

21/1/22 ~ 21/3/10

数値的成果：

◆ お金の寄付：

◆ 物の寄付：

円

個

◆ ボランティア時間：

時間

人

◆ インパクトを与えた人数：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

SDGsの11『住み続けられるまちづくりを』という項目の達成だけでなく、取材をした記事を読むことで、他の項目のSDGsも考えられる。例えば、クッキングハウスの記事であれば3の項目、CAPSの記事であれば4の項目などだ。地域と桐朋、お互いの視点に立って考えることを意識し、記事を書いた。またひとり一人が取材に行くことで、実際に自分の目でみて記事を書くことを意識した。

困難だったこと 次回に活かすこと

今回のこの活動は、まだはじまりに過ぎない。今回限りとならずして交流をこれから先も繋いでいくこと、それが結果として「繋がりの強いコミュニティ」を作っていくことになるのではないか。学校と地域を結びつかせたいという私達の想いを後の世代にも引き継ぎたい。私たち高校生は地域から沢山のことを学べるはずだ。

メッセージ

今回の活動を通して、1人でも多くの人がよりよい生活を送るために行動を起こしてくれたら嬉しい。私達は「地域に根付いた学校になるために」を目標に活動を始めた。取材先に、高校生に求めるものは何か質問した時、ほとんどが、地域のイベントや施設に参加して欲しいと言っていた。行動を起こすことで、沢山の人と出会い、視野も広がる。そして新たな課題が発見できるだろう。いろいろな環境で育った人がいて、いろんな悩みを抱えている人がいる。このような多様性を受け入れ、SDGsの3番もあるように、誰もが健康で幸せな生活を送れるように努力していきたい。そして、ボランティアやイベントに参加することで、SDGs達成の一歩に繋がるのだなと思った。

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 4人 鳥取県 高校生

名前 / グループ名：
総合探究 勉強募金有志

報告者

グループメンバー：

世界の教育を勉強で救おう！

勉強募金

〈勉強募金とは？〉

自分達の学習時間・内容に応じて募金するというもの
〈なぜ勉強募金をするのか？〉

「基礎教育」が貧困や児童労働を終わらせるキーと言われていますが、世界には学校に行きたくても行けない子ども達がたくさんいます。そんな子ども達が学校に行けるようになるため、少しでも手助けをするために勉強募金をします！
（ルール）

● 金額	1時間	10円
	30分	5円
	BLEND学習記録入力	5円

取り組んだ社会問題 世界の子どもたちの教育問題

-理由-

世界の様々な問題を調べていく中で「基礎教育」が貧困や児童労働を終わらせるキーとなることを知りました。そこで、SDGs④質の高い教育をみんなにに関しての活動をすることにしました。私たちが持っている能力を最大限に活かして使えるのはなんだろうかと考えたときに「勉強」ということにたどり着きました。世界には学校に行きたくても行けない子ども達がたくさんいて、そんな子ども達が学校に行けるようになるため、少しでも手助けをするためにこの社会問題に取り組むことにしました。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

自分が勉強した時間に応じて、その分のお金を貯金するという活動。
1時間勉強したら10円を貯金するという感じ。

なぜこのアクションなのか：

世界には、貧困によって教育が受けられず小さい子どもでも働かなくてはいけない国がある。そこで私達はFTCJが行っている募金活動に参加することにした。募金をすることは、自分のお金がなくなるということでもある。そういう考えをなくすために私達自身にもプラスになるようなことをしようと勉強募金に取り組んだ。

アクションの種類：

資金調達

実施期間：

21/2/1 ~ 21/2/21

数値的成果：

◆ お金の寄付： 9,475 円

◆ 物の寄付：

個

◆ ボランティア時間：

◆ インパクトを与えた人数：

時間

人

◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

ポスターを貼って呼びかけた
目標金額の5000円を達成できた

困難だったこと 次回に活かすこと

ポスターを貼って呼びかけたけど参加してくれた人が少なかった。
なんのために活動しているかをわかつてもらい、呼びかけをする。

メッセージ

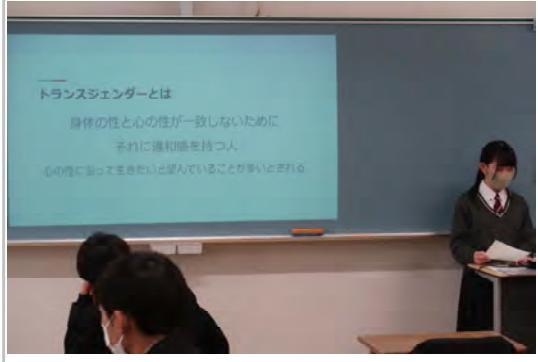
この活動は、世界の教育問題を少しでも助けられると同時に自分たちの勉強に対する気持ちを高めたり勉強時間を増やしたりなど、自分のためにも相手のためになる活動です。自分が感じる達成感が大きいときは相手が感じる感謝は同じくらい大きいと思います。自分より小さい子どもが働いているという現状を知り、自分たちでアクションを考え行動をしてみて自分たちでも力になることができるんだなど実感しました。勉強募金というアクションができるまで自分たちの意見がなかなか通らず活動できるか不安だったけど結果的には目標の5000円を達成することができたので良かったです。これを機に自分にできる活動に取り組んでいきたいです。

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 8人 鳥取県 高校生

名前 / グループ名：
総合探究 制服チーム有志

報告者

グループメンバー：



取り組んだ社会問題 ジェンダー問題

-理由-

- ・ジェンダー問題について簡単に知ってもらうため
- ・制服の多様化に対する生徒の意見を伝えるため

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

SDGsの目標の1つである「ジェンダー平等を実現しよう」に焦点をあて、ジェンダーの問題について簡単に知ってもらい、そして制服の多様化に対する生徒の意見を伝える活動をした。具体的には、制服やジェンダーについての現状を分析し話し合って、アンケートを作り全校生に対して考え方や意見を聞いた。225件の回答が集まり、制服を増やすべきかに対しての回答に増やすべきだと答えた人が約6割いた。生徒のジェンダーに関する制服の在り方の考えを知ることができた。そしてプレゼンを作り、学校の先生方に生徒の声やジェンダーについて知ってもらうためプレゼンを行った。

なぜこのアクションなのか：

- ・ジェンダーの多様化が進んでいく中で制服は男女の差が別れており、SDGsの「ジェンダー平等を実現しよう」にそぐわないと思ったから。制服の選択肢を増やすことで学校がもっと自分らしく過ごせる環境になっていくと思ったから。

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

20/11/16 ~ 21/2/22

数値的成果：

◆お金の寄付： ◆物の寄付：

円 個

◆ボランティア時間： ◆インパクトを与えた人数：

時間 人

◆その他： アンケート225件回収

支援先：

工夫したこと 達成したこと

- ・アンケートをとって全校生徒の意見をプレゼンに取り入れた。
- ・ポスターを作成し、校内の目のつくところに貼った。
- ・生徒会の活動としてこれから実現に向かうことになった。

困難だったこと 次回に活かすこと

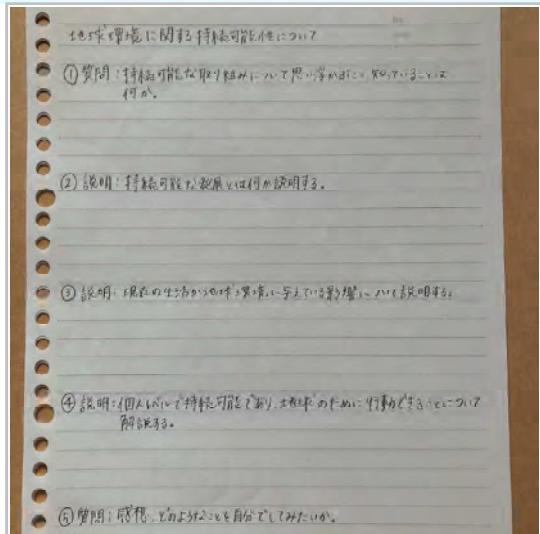
- ・アンケートの回答が中々集まらなかった。アンケートの存在に気付かない人もいたと思うので、活動を知ってもらう為にポスター掲示の他、校内放送を行うなど、もっと多くの人の目につくようにする。
- ・期間が短かったので、駆け足になる所もあった。

メッセージ

制服の多様化という大規模なものだったので、様々な困難がありました。自分たちの力で計画し、実行し、考えを人に伝えることの大変さを学びました。この活動が制服の多様化実現に向けての第一歩になればなと思います。

形態： 人数： 活動地： 区分：
個人 1人 大阪府 大学生/大学院生

名前/グループ名：
肥田 季美佳



報告者

グループメンバー：

取り組んだ社会問題 持続可能性への理解不足

-理由-

2020年3月に実施されたSDGs認知度調査では、「あなたはSDGsという言葉を聞いたことがありますか」という質問に対して、「ある」と答えた人は32.9%であり、過去最高の高さになりました。一方で、SDGsの内容について、理解の程度を尋ねた項目では約3割が内容は知らないと答え、SDGsの言葉のみが広がっている状況を知りました。加えて、「社会的な認知度が高まっていない」ことも問題に上がっていることを知りました。このような現状を理解したことと、大学でのSDGsの学びが合致したため、取り組みました。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

家族を自分のアクションに巻き込み、地球環境の持続可能性についての教育活動を行いました。具体的には、地球の持続可能性の専門的な知識や問題点を、3つ説明し、2つ質問しました。1.(質問)持続可能性の取り組みについて思い浮かぶこと、知っていることは何か。2.(説明)持続可能な発展とは何かを解説する。3.(説明)現在の生活が地球環境に与えている影響について説明する。4.(説明)個人レベルで持続可能であり、地球のために行動できることについて解説する。5.(質問)感想、どのようなことを自分でしてみたいか。以上5項目を10代、40代の家族に教育しました。

なぜこのアクションなのか：

大学の授業にて、SDGsに触れ、地球の持続可能性について深く学びました。また、「日本語をどのように調整すれば、分かりやすく外国人に伝えられるか」を学ぶ団体にも所属しています。この2つを活かして教育を普及させることで、少しでも多くの人が社会問題の解決への意識を高めてもらうために実施しました。

アクションの種類：

ボランティア

実施期間：

20/12/1 ~

数値的成果：

◆お金の寄付：

◆物の寄付：

円

個

◆ボランティア時間：

2時間

◆インパクトを与えた人数：

2人

◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

教育を広めることができましたが、今回教育した2人はゼロからのスタートのため、伝える方法に工夫が必要でした。地球の持続可能性についての専門的な知識や問題点を分かりやすく言い換えることを工夫しました。

今回の活動を通して、身近な人に対する少しの教育の提供でそれぞれの固定観念やイメージを変えることができることに気づきました。また、持続可能の大切さを実感してもらうことを達成することができました。少人数に対してでも、持続可能な取り組みについて深く知つてもらうことができ、社会を変える上でとても良いきっかけを作ることができました。自分自信が与える影響を可視化したことと、取り組みを継続するステップの1つとなりました。

困難だったこと 次回に活かすこと

1人1人持っている知識の量が異なるため、説明の質を保つつゝ、大切なポイントを抜かさずに伝え分けることが難しかったです。説明において、「1つ目の質問：持続可能な取り組みと聞いて思い浮かぶものは何か」という質問において想定していたよりも少ない答えしか返ってこなかったことが驚きました。ほとんど知らない人も多いことが分かり、授業で学ぶことの影響の大きさを実感しました。また、ニュース等で目にすることもありますが、基礎知識がないと注目して見ない、あまり記憶に残っていないことが分かりました。次回からは、このような想像以上に質問の受け答えが進まなかった時も上手く対応し、議論を進めることができるよう成長したいです。

メッセージ

持っている知識を知らない人に伝えることは、両者ともに成長させ、社会をより良いものに改善することができます。自分のできる範囲で行動することは小さなことでも、後に大きな影響を持つようになるかもしれません。私の中、個人レベルでも実行に移すことができたことはとても貴重な経験でした。また、実行に移す際に様々なことを調べたことから、自らの視野を広げることもできました。これからは、改善を働きかけたり、周囲の人々や企業などが行っている取り組みへの協力を積極的に実行する予定です。

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 6人 東京都 大学生/大学院生

名前/グループ名：
小松龍世、渋川雅人、西村尚、
白土百合子、杉山佑、菌部夢有人

報告者

グループメンバー：



取り組んだ社会問題 海洋プラスチック問題

-理由-

海に流出するプラスチックの量は年々増加していて、深海でもレジ袋などのプラスチックが確認されています。海洋プラスチックは、海の環境を汚して生き物の数を減らします。また、魚がプラスチックをエサと間違えて食べて、その魚を私たちが食べるという恐れもあります。海洋プラスチックはこれほどの脅威を持っているにもかかわらず、世間ではあまり知られていません。私たちは、海洋プラスチック問題が世間での認知度が低いことと、地球環境と人間の両方に悪影響を及ぼすことを重く受け止め、今回の取り組むきっかけとなりました。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

私たちは衛星設計コンテストに参加し、海洋プラスチック観測衛星「立鳥」（たつとり）という、50cm立方に収まる小型衛星を設計しました。海のプラスチックを観測するのに特化した衛星は、私たちが設計した立鳥が世界初です。

6人メンバーで2019年11月から活動を始め、2020年10月の最終審査会をもって設計を終了しました。最初は衛星が行うミッションを決め、それを実現するために必要なカメラや機器を選び、設計と修正を繰り返し行いました。

今のところ、立鳥を開発して宇宙に打ち上げる予定はありません。将来、海のプラスチックを減らす活動のきっかけになって頂きたいというのが、私たちの想いです。

なぜこのアクションなのか：

海洋プラスチックは世間ではありませんが、年間800万トンのプラスチックが海に流入していて、2050年には海洋プラスチックの重量が全世界の魚の合計重量を越えると考えられています。

このアクションは、海洋プラスチックの認知度を広めること、そして海洋プラスチック問題を解決する新たなアクションのきっかけになって頂ければと思い、実施しました。

アクションの種類：

その他

実施期間：

19/11/17 ~ 20/10/31

数値的成果：

◆ お金の寄付：

◆ 物の寄付：

円

個

◆ ボランティア時間：

◆ インパクトを与えた人数：

時間

人

◆ ソリューション：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

私たちは、世間では注目されておらず、取り組み実績が少ないテーマを選ぶことに、工夫を凝らしました。あえて注目されていないテーマを取り組むことで、私たちがそれを発信する側となり、世間に広めるという重要な役割を経験できました。また、取り組み実績が少ないという事は多くの可能性を秘めていると考えられるので、解決するために自分たちで様々なアイデアを出して新しいものをつくる経験ができました。

困難だったこと 次回に活かすこと

衛星を設計する際に、プラスチックの観測方法、衛星が通る軌道などについて、非常に多くの意見を出し合いました。しかし、それらをまとめるまでに時間がかかってしまいました。意見をしっかりと記録して整理をする時間を十分にとることで、次回は会議時間をもっと有効に使えると思いました。

メッセージ

海洋プラスチック問題に限らず、地球温暖化、貧困、教育など、私たちが考えなければいけない問題は数多くあります。世界の問題を解決に導くには、問題について考える環境を増やすことや、意識を途切れさせないことが大切だと思います。人生一度きりですので、是非色々なことに挑戦してみてください！

形態： 人数： 活動地： 区分：
個人 1人 東京都 大学生/大学院生

名前/グループ名：
中村伊希

報告者

グループメンバー：



取り組んだ社会問題 食糧問題

-理由-

社会を変えたいから。困っている人になぜ食糧が行き届かず、困っていない人は残すのかを考えたかった。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

FTCJのハーベストのフードロスを考える会や、フードロスの勉強会に参加した。
賞味期限に近い商品となるべく買うようにした。
八百屋で売り残った野菜を自分で使っている。

なぜこのアクションなのか：

自分の胃袋を満たす方法は一つじゃない。
少しに見えて、自分も少しだと思っていることが、少しづつ輪が広がるのを知っているから。
自分が変われば、周りも少しづつ変えられると思う。

遠くの国に住む人に届けられない代わりに近くの人に分けたり、その分ける行為がだんだん広がればきっと地球の裏側にも広がると思うから。

アクションの種類：

自己行動変革

実施期間：

20/3/1 ~ 21/2/28

数値的成果：

◆ お金の寄付：

◆ 物の寄付：

円

個

◆ ボランティア時間：

時間

人

◆ インパクトを与えた人数：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

頑張らない、自分ができる一生懸命をする。
周りに押し付けない、背中で見せる。
楽しむ！
毎日野菜を山盛り食べることを達成した。

困難だったこと 次回に活かすこと

周りに聞かれて説明するのが大変。なんでそんなことをするのかって言われても、自分が好きでしていることに変わりはないから。
自分が好きでして、興味があるなら一緒にやろうってもっと言えるようになればいいかな。

メッセージ

Be the Change

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 2人 東京都 大学生/大学院生

名前/グループ名：
YOSHIKI MATTHEW

報告者

グループメンバー：
中村伊希、寺澤知奈



取り組んだ社会問題 児童労働 環境破壊 気候変動 労働問題

-理由-

自分たちが日々使う製品に対して責任を持つということの必要性、自分たちが自覚することで周りを変える可能性を見出したから。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

T-shirtの制作、デザイン、販売によるファンドレイズ。
オーガニックコットンを100%使用した生地のTシャツに、自分でデザインした平和平等のイメージのロゴを縫い付け、それを商品として販売した。Tシャツの売り上げの三分の一を寄付に回します。現在は寄付先を検討中です。

なぜこのアクションなのか：

自分にできること、ファッショントデザイン、支援したい先、解決したい問題が密接に関わっているから。

アクションの種類：

資金調達

実施期間：

20/9/1 ~ 20/9/30

数値的成果：

◆お金の寄付：

15000円

◆物の寄付：

10個

◆ボランティア時間：

30時間

◆インパクトを与えた人数：

100人

◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

伝わりやすいデザイン、
実際に着心地も良くなるように生地を選んだ。
自分にできることをした。
自分の興味のあることを支援に繋げることができるので、面白い。

困難だったこと 次回に活かすこと

資金調達が大変だった。
もっとお金を貯めてからやること

メッセージ

好きなこと、得意なことが仕事だけでなく、支援にもつながるので、ぜひやってみてほしい。

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 2人 オンライン 大学生/大学院生

名前 / グループ名：
WE Talk SOCIAL

報告者

グループメンバー：
青山琴海、谷崎敏彦



取り組んだ社会問題 児童労働

-理由-

子どもの生まれた国・地域が違うだけで子どもの権利が奪われていたり、労働を強制され、教育が受けられなかったり、身体的・精神的苦痛を多く受けていたりします。同じ子どもであるのにもかかわらず、扱われ方が違い、未来に苦痛を感じる人生を送ることに疑問を感じました。先進国である日本に住んでいる私たちは直接的に児童労働を目にすることができることは少ないと思います。そこで、より多くの子ども達に自分たちと同じような年代の子ども達は毎日学校にも通えず、働いていることを知ってもらうため、アクションを起こしました。

-関係するSDGS-



ソーシャルアクション

実施したアクション

コロナ渦と呼ばれる時代に新たにイベントチームとしてできたWE Talk Socialではオンラインイベントを行っています。私たち二人は大学生企画として計5回の児童労働に関するゲームディスカッションやゲストスピーカーを読んだ講義を行いました。ゲームディスカッションとは児童労働に関係する登場人物と彼らのそれぞれの思いが書かれたカードを参加者にあらかじめ配布し、ひとり一役で登場人物になりきってディスカッションを行うゲームです。誰が悪いのか、何が一番の原因なのかを考えながら行いました。ゲームディスカッションや講義の後には必ずディスカッションの時間を設け、参加者自身が何を思い、何を感じ、何を学んだのかをお互いに共有することで、新しい発見や視点を学ぶことができました。

なぜこのアクションなのか：

コロナ渦で外出が難しい中、ZOOMという機能を使い、普段なら出会うことがないような同年代の仲間たちと今ある児童労働問題について考えてもらいたくこのアクションを起こしました。

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

20/11/15 ~ 21/2/6

数値的成果：

◆お金の寄付：

0円

◆物の寄付：

0個

◆ボランティア時間：

時間

◆インパクトを与えた人数：

45人

◆その他：

工夫したこと 達成したこと

- ・一回のイベントで2時間の時間を設けていたので、なるべく参加者が暇にならないよう、飽きてしまわないように、休憩を長めに入れたり、ディスカッションの時間を長くしたりしました。
- ・ディスカッションではスムーズに行えるように、私たちの友達からファシリテーターを数人お願いしました。それによって、参加者も安心して参加できたと思います。
- ・5回のイベント全て時間内に終わることができました。
- ・ゲームディスカッションの情報カードではあまり情報を入れすぎないよう、参加者の考えも述べられるように工夫しました。

困難だったこと 次回に活かすこと

- ・参加者の募集に大変苦戦しました。しかし、ファシリテーターを頼んでいたので、参加者の人数が少なくてもゲームディスカッションを行うことができました。
- ・イベントとイベントの間隔が短すぎてバタバタしてました。これからは余裕をもって企画を進めていきたいです。
- ・私たちの役割が固定されてしまった部分があるので、次回からは固定せずに色々な経験を二人でしていきたいと思います。

メッセージ

オンラインイベントということでZOOMの使い方や、ブレイクアウトの部屋分けなどとても難しかったです。しかし、慣れてしまえばできます。パワポを一から作ったり、広告画像を作ったり、ゲームディスカッションの情報カードを作ったり初めてで骨の折れる仕事ばかりでしたが、とてもやりがいを感じられます。私たち二人だけで作り上げたものではなく、ファシリテーターや参加者みんなで作り上げたイベントという思いが強いです。学びを与えている立場ですが、自分たちも学ぶことが多いと思います。

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 10人 日本 大学生/大学院生

名前 / グループ名：
ナミセン

報告者

グループメンバー：
あやな



取り組んだ社会問題 ジェンダー問題

-理由-

日常生活で感じていた、ジェンダーに関するモヤモヤを解消することが、日本のジェンダー問題解決に少しでも貢献できるのではないかと思ったから。また、数ある社会問題の中で、最も自分が間近にふれているものだと思ったから。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

大学生10人で、あらゆるジェンダー問題について考え方としてSpotifyチャンネルを立ち上げました。自分たちが問題視しているトピックについてフリートークをし、それを全世界に配信しています。

なぜこのアクションなのか：

ジェンダー問題は、身近であるからこそ周りの友達と活発に議論を交わすのには気が引ける話題かもしれません。知り合いが雑談しているようなゆるい雰囲気で聴ける、Spotifyを利用すれば、気軽に多くの人にジェンダー問題について考えてもらえるきっかけになるのではと思いました。

アクションの種類：

実施期間：

21/2/21 ~

数値的成果：

◆お金の寄付：

◆物の寄付：

円

個

◆ボランティア時間：

◆インパクトを与えた人数：

支援先：

時間

人

◆その他：

工夫したこと 達成したこと

普段、疑問に感じたりモヤモヤしたりしても見逃しているような些細なことや、当たり前になりすぎて問題だと思っていたことをも取り上げることで、現代社会の根強く存在するジェンダー問題に光を当てています。そうすることで、今まで気づいていなかったジェンダー問題に興味をもってもらえるようにしました。

困難だったこと 次回に活かすこと

現時点では、まだ自分の知り合い以上に視聴者を増やせていないのが現状です。ジェンダー問題に興味をもっていない人も聞いてもらい、ジェンダー問題について少しでも考えてもらえるよう、ターゲットの拡大にも力を入れていきたいです。

メッセージ

ナミセン、ナミセンは、現在SpotifyとYoutubeでジェンダー問題について語る座談会の様子を配信中です！公式Instagramは公式Twitterアカウントでは、ジェンダー関連の知識や時事問題、おすすめの書籍等を紹介しています。是非チェックしてください！私たちの小さな第一歩がより大きな波になれるよう、これからもがんばっていきます。

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 10人 ケニア その他

名前／グループ名：
FTCJケニアスタディーツアー参加者

報告者

グループメンバー：
マスザワセイジ カワバタサユキ
ウメモトヒカル、サカグチクリカ、マエダタエ、カドカ
ワホツマ、カトウナツミ、イソガイウタ、オオバレオ、
ミゾシタナナミ



取り組んだ社会問題 SDGs全般

-理由-

教育・文化・農業・水・貧困・自然・医療の問題を見るスタディーツアーで、すでにスケジュールとして確立していた。短い期間の間に少しでも見聞を広げ、地域の人たちのためになるような働きをなんでもしたかったから。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

教育・文化：マサイの文化の体験
ラフィキ（ビーズネックレス）作り・マサイ／キプシギ族の文化の講演・マサイ族の武器体験（棍棒と弓矢）・スワヒリ語の授業・近隣の学校の訪問&教師用の寮施設の基礎作り建設・WEの後援で設立した女子校の訪問・社会問題についての授業（講義）・現地でギャング更生活動を行なっている『Accept International』の山崎琢磨さんによるプレゼンテーション
農業・水：WEの後援でできた農場訪問・水運び体験
貧困：わずかなお金で地元の市場で買い物（競も行った）・その後に貧困についての授業
自然：近くの自然保護区でサファリ見物、道中で自然保護についての説明
医療：日本からの医療物資寄付・WE後援で設立した欧米基準の病院の訪問／施設紹介

なぜこのアクションなのか：

当時高校1年生だった僕は、いかに自分が恵まれた生活を送っていたのかを直接実感、体験するため。その上で、一人の先進国出身の人間として、自分より恵まれていない人たちをどのように支援していくのかをアクションを通じて学ぶため。

アクションの種類：

ボランティア

実施期間：

19/8/8 ~ 19/8/17

数値的成果：

- ◆ お金の寄付： 円 個
- ◆ ボランティア時間： 時間
- ◆ インパクトを与えた人数： 人
- ◆ ソリューション： 人

支援先：

FTCJ、WE

工夫したこと 達成したこと

ケニアという遠方の地で言語、文化を超えた交流の上で現地の生活やWEの活動によってどのように変化／進化を遂げたのかを学ぶことができた。

スタディーツアーのボランティア活動、授業／講演などを通して少しでも現地の人々を支援できること。

困難だったこと 次回に活かすこと

英語での会話、日本語と英語でのやり取りの切り替えが難しかった。

スタディーツアー以降なかなか時間が作れなくてボランティア活動ができていない。せっかくいい経験をしてもらったので、その経験を活用したボランティア活動を日本でもしたい。

メッセージ

私はケニアに行ったことで、今までの価値観が180度変わったと行っても過言ではありません。特に伝えたいメッセージとしては常に何事にもありがたみを持つことです。日本で生活している私たちは、他の国々、特に私が訪問したケニアよりもそれはそれは恵まれた生活をしています。私たちにとっての当たり前はもしかしたら他の人にとっては渴望して、どんなに頑張っても得られない特別なものかもしれません。だからこそ、日々の日常、物事に感謝し、自分より恵まれていない人たちに少しでも手を差し出すべきだということを忘れずに生活してほしいです。

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 4人 日本 その他

名前 / グループ名：
SDGs週間オンラインキャンプ

報告者

グループメンバー：
越野天音、小板橋瑛斗、湯本飛鶴、大沼彩乃



取り組んだ社会問題 SDGs

-理由-

2020年は、SDGs達成期限まで10年という節目の年だ。SDGs知名度は向上している（朝日新聞,2020）ものの、その水準は世界レベルで見ると低く（World Economic Forum, 2020）実際にアクションを起こしている人数も少ない（損保ジャパン日本興和, 2018）とされている。この現状を鑑み、そもそも「SDGsを良く知らない」層、そして「アクションを起こしたいけど、どうアプローチをすれば良いか分からない」という2つの層に対して、SDGsのターゲットを手引書としながら身近なアクションを生み出し、行動を起こすことのサポートをしたいと考えた。



ソーシャルアクション

実施したアクション

参加者はそれぞれ興味のあるSDGsの分野を選択し、キャンプ期間中にアクションを考え、実行した。また、それらのアクションを通じて感じたことを言語化し、企画メンバーはイベント後にそれを元に政策提言を行った。

例) 森林火災（環境問題）についての認知度向上のためのポスター作成、日本のCO2排出量削減を推進するための具体的なアクションプランの作成・企業への提案など。

なぜこのアクションなのか：

自分自身が興味ある分野について調べ、実際に自分で行動を起こすことは、SDGsと私たち、そして自分の周りのコミュニティには密接な関わりがあること、そして行動を起こすことは必ずしも大規模でなくてもいいということを知ってもらえる有効な方法だと考えるから。

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

20/12/20 ~ 20/12/26

数値的成果：

◆ お金の寄付：

◆ 物の寄付：

円

個

◆ ボランティア時間：

時間

4人

◆ インパクトを与えた人数：

工夫したこと 達成したこと

参加者全員が自分の興味のある社会問題にアプローチする自分なりのアクションプランを作成し、それを実際に行動に移すことができた。

困難だったこと 次回に活かすこと

オンライン上のみでの活動だったので、オフラインイベントと同じ質のフィードバックを準備するのが大変だった。

メッセージ

SDGsは私たちが思っているよりも身近なもので、解決するための直接的な手段は確かにいろんな人や政府企業の力がないと取れないかもしれません、身近な問題を少しずつ解消するためのアクションは自分でも起こすことが出来ます。これからも、このことを皆さんに伝えていきたいです。

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 7人 オンライン その他

名前 / グループ名：
imI

報告者

グループメンバー：
ガク・キヨウカ・コモモ・シオリ・ナナ・レイチェル・
ワカ



取り組んだ社会問題 性別や属性のステレオタイプ

-理由-

性別などの属性によって差別を受けたり、ステレオタイプに基づいて言動を強要される事は社会で珍しくない。表向きな差別は少なくなっているが、無意識において形成された「普通」や「常識」によって差別的な言動をしてしまったり、他人を傷つけてしまったり、存在を消してしまったりする。それらの問題について言及するのがフェミニズムだと捉えている私たちは、これらの見過ごされがち（気づきたくない）問題を議論しながら、誰もが一人一人尊重されるコミュニティを作りたいと考えている。今回はフェミニズムをコラムとして表現するというアウトプットをメインにイベントを構成した。

-関係するSDGS-



ソーシャルアクション

実施したアクション

イベント内では、まず、「表現」が一部の属性の人を傷つける可能性、一部の人を排除している可能性、ステレオタイプを押し付けている可能性などについてまず議論し、「表現」の影響や難しさなどを議論した。しかし、当然ながら「表現」は人ひ温かい気持ちを与えることも、居場所を与えることができる。後半のディスカッションでは、5人程度のグループでフェミニズムを雑誌の1ページのように表現した。その参加者によるアウトプットを実際に紙の発行物として製本した。製本にあたっては、ゲストのみたらし加奈さんへのインタビュー記事、imIメンバーの個人ページ、参加者が自由に使えるページなどを加え、imIとしての表現をした。

なぜこのアクションなのか：

左記の通り、「表現」は「言葉」のように武器にも癒しにもなりうるものだ。だからこそ、表現によって傷ついてしまった人も、imIではその心配なく安心して居られると感じて欲しいと思った。今回の雑誌を創刊するというアクションは、イベント終了後も参加者が創刊にあたって協力してくださった。イベント限りではなく、持続的にimIと交流し、暖かさを感じられると思った。

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

20/12/1 ~ 21/2/20

数値的成果：

◆お金の寄付：

0円

◆物の寄付：

40個

◆ボランティア時間：

30時間

◆インパクトを与えた人数：

不特定多数人

◆その他：

『アイアム・アイ』創刊、参加者へ無料配布

支援先：

イベント参加者やイベント運営に協力してくださった皆様など

工夫したこと 達成したこと

フェミニズムを軸としている団体であるため、ただ思いや疑問を詰め込んだ雑誌にするのではなく、それぞれのフェミニズム観がしっかりと表現されるようにした。参加者にとってのフェミニズムはもちろん、imIメンバーのフェミニズムを表現し、正解と誤りがある考え方ではない、二極論ではない、多様な考え方があるというメッセージを伝えたいと思った。実際、読者からは、フェミニズムを理解できたという感想はもちろん、全てのページから様々な個性や違うようで同じ暖かさが感じられたという感想が寄せられている。

困難だったこと 次回に活かすこと

参加者ページの編集（著作権の関係による）において、参加者の意図を汲み取り、参加者が納得できるページに再編する必要があった。用いられる画像やイラストを変え、一部の補足をしつつ、参加者の製作意図に干渉しないようにするのは難しかった。再編後、改めて参加者の方にお送りし、意見を煽り、意図が異なる場合は指摘してもらい、最終的に参加者の納得するページが完成した。

メッセージ

私たちは、フェミニズムを「見た目や性別、属性に関係なく、誰もがひとりとして尊重される考え方」と捉え、アクションをしています。いろんな人のいろんな悩みを包括して考え、寄り添い、手を取り合える、そんな場所になれるよう、日々あり方を模索しています。imIのイベントに参加してくだされば、きっと何か気づきがあるはずです。ぜひ、少しでも関心を持ってくださった皆様、ぜひimIのコミュニティの一員として社会を少しづつ変えてみませんか。

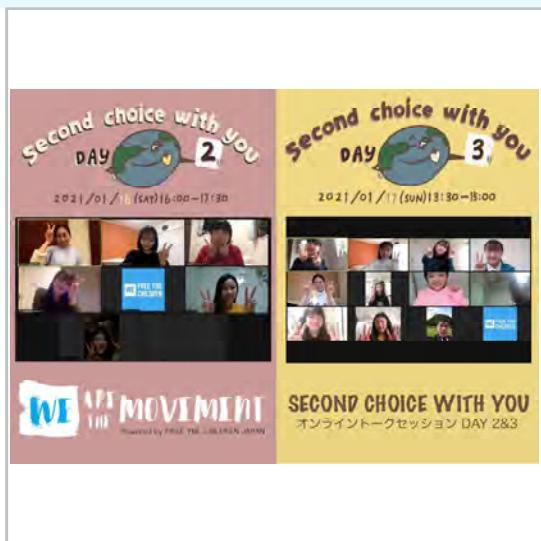
HP : <https://thefeminismevent.wixsite.com/imifeminism>

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 5人 東京都 その他

名前 / グループ名：
Second Choice (大学生&高校生グループ)

報告者

グループメンバー：
河合実卯、林夏美子、柿沼小巻、
渡辺涼、森川祐羽



取り組んだ社会問題 気候変動・環境問題

-理由-

日々加速する地球温暖化とそれに伴う環境破壊、人間・生物とともに居住地の消失が世界各で発生していることに強い危機感を感じている。それにもかかわらず日本では環境問題に対する意識が低いと考えた。特に、これから社会を担っていく若い世代の人々にとって、気候変動の問題は自分ごととして捉える必要があり、意識変革が必要だ。同じ世代だからこそ呼び起こせる共同意識があると考えるため、自分たちが先頭に立つことで得られる支持や賛同を活用しながら皆で環境問題にアプローチしていきたいと考えた。

-関係するSDGs-



ソーシャルアクション

実施したアクション

私たちは、二つのイベントの開催を行った。一つ目がオンラインによるトークセッション Second Choice with you Dayである。4回にわたって行ったSecond Choice with youでは、2月中旬に開催を予定していたエシカルマーケットSecond Choice for youで販売をする商品の紹介とともに、それらの商品に関連する気候変動を中心とした環境問題へのアプローチや参加者の環境問題に対する意識変革などを行った。二つ目のイベントは、エシカルマーケットSecond Choice for youである。Second Choice for youでは、環境に配慮をしている商品などを10種類ほどを集め、オンラインでの販売を行うことで、参加者の環境問題への意識を高めた。

なぜこのアクションなのか：

商品を販売するだけでは人々の環境問題に対する理解が深まらないと考えた。私たちが販売している商品がなぜ環境に良いとされているのかや様々な環境問題を紹介・説明することで、環境問題に対する理解を深めることができ、"商品の購入"という意味のあるアクションにつなげることができると感じたためである。

アクションの種類：

その他

実施期間：

20/12/21 ~ 21/2/12

数値的成果：

◆お金の寄付： 17,183 円

◆物の寄付：

個

◆ボランティア時間： 時間

30 人

◆その他：

支援先：

WWF 地球への処方箋

工夫したこと 達成したこと

【Second Choice with you】

- 時代（コロナ）にあった宣伝の仕方で集客
→SNSやネットの活用
- 環境問題に興味があった人と交流できた
- 繰り返し参加してくれる人がいた
- 毎回内容を変えることで新鮮な情報を届けた
- 視覚障害の方への配慮・対応の工夫

【Second Choice for you】

- 利益を募金に回すことで付加価値をつけた
- 環境でビジネスしている人たちと関われた
- 商品決めから取引まで初めての経験ができる
- 多くの人に私たちの商品を届けられた

困難だったこと 次回に活かすこと

【Second Choice with you】

- 参加者を集めること
- 一方的になりすぎないようにすること
- オンラインで間を読むこと
(気まずい時間を作らないようにする工夫)
- イベント中の時間の使い方
(長く感じないようなコンテンツ作り)
- 初めて参加してくれる人との打ち解け方

【Second Choice for you】

- 取引人数を集めるのに苦労した
- 会場での開催にこだわらない（今回は配送での対応に変えて正解だったため）

メッセージ

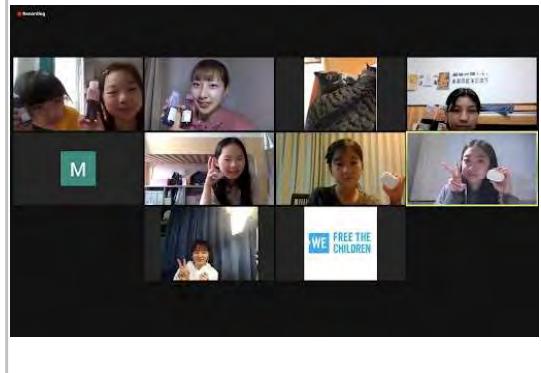
ただ環境に配慮した商品を購入するだけでは、気候変動や環境問題の直接的な解決にはつながらないと思います。様々な商品の作られた背景やそれに関連する環境問題、なぜその商品が環境や地球に良いとされているのかを理解した上で購入することで、意味のある行動になり、環境問題の解決につながると考えます。また、環境問題へのアプローチの仕方は数え切れないとあります。食やファッショントレンドや日用品など毎日の生活には欠かせないものなどからアプローチすることで、より身近に感じることができ、楽しく学ぶこともできると思います！自分の好きなものを通して、私たちと一緒に楽しく環境問題にアプローチしてみませんか？

形態： 人数： 活動地： 区分：
グループ 6人 東京都 その他

名前 / グループ名：
KAERU

報告者

グループメンバー：
柿沼亜里沙、漆畠とわ、高松もも花、
大沼彩乃、岡本恵実、坂口くり果



取り組んだ社会問題 環境問題

-理由-

留学先で環境問題への取り組みが当たり前のように行われていること、食料廃棄や食料を包んだり入れたりしているプラごみの量、“海の色の違いや汚い海”を目の当たりにしたこと、海の生物が大好きで、どんどん被害を受けていく生き物たちを見ることの心苦しさ、小さい頃に行った動物園で知ったシロクマの現状など理由は様々だが、それぞれ環境問題が深刻な問題であると感じ、何か自分にできることをしたいという想いをもったメンバーの集まった団体であるから。

-関係するSDGS-



ソーシャルアクション

実施したアクション

- ①着なくなった衣服をタイダイ染めしよう！
②環境にやさしい石けんを作ろう！

なぜこのアクションなのか：

普段からよく使う日用品から意識を変えていくことは重要だということを同年代の学生にも伝えたいと思ったから。特に、タイダイ染めは服の再利用が可能になるので、服の大量生産、廃棄の悪循環を抜け出す一歩になる、また、石けんづくりは流すと環境に悪い化学物質のないものを使うことで肌にも環境にもやさしいものを作れると思ったから。

アクションの種類：

啓発活動

実施期間：

20/7/2 ~ 19/11/23

数値的成果：

- ◆お金の寄付：
円
◆ボランティア時間：
2時間
◆インパクトを与えた人数：
人
◆その他：

支援先：

工夫したこと 達成したこと

計画から団体SNSの始動、フォームの製作、材料の購入、予行演習、郵送、イベントでの実践や参加者への説明まで大きな失敗もなく円滑に進めることができたので良かった。特に、オンラインでの開催だったので参加者が手こずってしまったり失敗してしまったりしたときに、直接手順を説明したり製作セットをもう一度渡してやり直すことができないので、そのような場合の対応が臨機応変にできるか心配だったが、その面に関しても口頭での説明で問題が解決し、失敗せずにできたので良かったと思う。また、材料をほぼすべて郵送したことによって参加しやすいワークショップになるよう工夫した。その点は参加者の方からも良かったと思うとの評価をいただくことができた。

困難だったこと 次回に活かすこと

なかなかメンバーの予定が合わない中で、LINEで話し合ったり、参加できるメンバーでミーティングを重ねて準備してきたものの、予定が少し遅れ気味になってしまったので次回からは現実的な予定をたてて、それを確実に実行できるようにしたいと思う。また、イベント当日については、ワークショップを開催するのが初めてで全体的に少し緊張してしまったためか、動画の画面共有で音声が入っていなかったり、画面共有をするのに時間がかかってしまったり、間違えて参加者をブレークアウトルームに飛ばしてしまったりと運営上でのミスをたくさんしまったので、その点についても次回ワークショップを開催するときには成功できるように気をつけたいと思う。

メッセージ

このワークショップは、私たちの団体のモットーである“意識をKAERUことから世界をKAERUことへ”を達成するための第一歩となれたのではないかと思う。今回のワークショップには、環境問題に興味はあるがアクションをどう起こせばいいかわからないというような方が多く参加してくださったため、日常でよく使うものを環境にやさしいものに変える、かつそれを自分の手でつくることで環境問題に対して身近なことからアクションを起こせるということを知っていただけだと思う。これを機に、参加者の方やその周りの方々に環境問題に対してアクションを起こすことは難しいことではないのだということを知って、次のアクションに活かしていただけたら嬉しい。

その他のアクション

(報告者分のみ記載)

FTCJ子どもアンバサダー（ボランティア／啓発）

松田佳乃子、石川実桜、河合はな、松田和馬、刈屋彩乃、小原りん、坂口くり果、波田野優

WE ARE THE MOVEMENT / WE TALK SOCIAL（啓発）

イベント企画//越野天音、湯本飛鶴、立松みどり、長田大和、成毛亜梨樹、青山琴海、柳堀花怜、溝口和愛、堀田岳、仲條ゆうな、谷崎敏彦、大沼彩乃、柳堀花怜、川田すみれ、谷嶋一美 イベント参加//庄結愛、出野誠悟、出野智基、須賀円香、秋山響、フィセット慶、関口真那、小澤メイ、島田夕海、猪瀬万結香

「子ども基本法」制定への意見提出（政策提言）

松田紘

WE SPEAK UP（政策提言）

/ 子ども・少入ロビイング(SDG4教育キャンペーン)

朝倉凜花、鹿内あかり

児童労働反対世界カードアクション（啓発）

池谷麻菜、柴田眞子、稻垣智華、吉尾桃佳、宮島京子

ソニータハツシユタグアクション（啓発）

王林思遙、今野菜優、奥川空、植岡優里奈、柴田麻央

仮装フードドライブイベント（物資調達）

齋藤美月、友成勇介、岡田剛、佐藤友愛

ライク・アクション・キャンプファシリテーター（ボランティア）

石谷小蒔、笹野文香

CHANGEネットワーク（自己行動変革／啓発／政策提言）

（中学生～社会人30人）

取り組んだ社会問題：移民、難民、差別、人権

実施したアクション：オンラインでのイベント開催、参加（2020/4/1～12/31）

ボランティア時間：3000時間

インパクトを与えた人数：3000名(SNSでのリーチ含む)

WAKE UP JAPAN

（ボランティア／自己行動変革／啓発／政策提言／ソーシャルビジネス）

（高校生～社会人110人）

取り組んだ社会問題：食、ジェンダー、市民的不服従、気候変動、人種差別、基地問題、アイデンティティ、消費者教育、アジアと共生、慰安婦をめぐる対立、メンタルヘルス、他

実施したアクション：出展、講演、オンラインイベント、現地調査（2020/4/1～12/31）

お金の寄付：83,526円

ボランティア時間：21,600時間

インパクトを与えた人数：54,385(SNSアウトリーチ)*、1520(イベント参加者)

- 
- ・小学生（6件）
 - ・中学生（25件）
 - ・高校生（105件）
 - ・大学生／社会人（15件）
 - ・団体（9件）
 - ・その他

アクションレポート
19-20

その他メンバー：家族

報告者

波田野優

関連SDGs
1 貧困をなくす
2 飲食をセロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 賢い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 積み重ねでより良い社会をつくる
8 繁栄がいる経済成長
9 産業と技術革新の基礎をつくろう
10 人や国の不平等をなくす
11 住み分けられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさも守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

汚れた水を飲料水として飲んでいる人々のこと。教育環境が整っていない地域に暮らす子供たちのこと。

第23回全国調べる学習コンクールの「アフリカがわたしに教えてくれたこと」で奨励賞を受賞した。その中でSDGsの貧困、水と教育について扱い深い学びに取り組めたことと、作品を読んでくれた人にメッセージを伝えることができた。また、取り組みの一つに自分の活動を交えた募金活動を行い、ユニセフ支援ギフトを送ることができた。

期間：2019年7月24日～2019年8月31日



アクションの種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

寄付12,755円（約30人が協力してくれた）
ケニアの兄妹の通学路体験のために歩いた距離19.9km(27,298歩)

なぜこの問題&アクションなのか

汚れた水を飲むことで衛生的な環境が保たれない。多くの人が病気になる。貧困環境により子供たちが十分な教育を受けられず、貧困から抜け出せない地域社会ができる。理解を深めれば行動につながる。

工夫したこと/達成したこと

多くの人に自分の調べたことや気持ちを伝えることができた。

困難だったこと/次回に向けて

今年は貧困、水と教育以外のSDGsのことについて調べて、また沢山の人にメッセージを伝えるためにがんばりたい！！

学びメッセージ

自分が日本で何の問題もなく普通に学校に行き、勉強していることが世界的に見るととても恵まれていて、自分は幸せなんだと気づいた。自分1人ではできないことも、自分の考えや取り組んだことを伝えて、賛同してもらえれば大きな力に繋がることが分かった。

報告者	白井咲羽	その他メンバー：家族
社会問題 & アクション	貧困で困っている地域の子供たちを助けるため、募金用の貯金箱にお金を貯めてユニセフに寄付した。	
	期間：2020年2月5日	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	寄付1,250円	
なぜこの 問題 & アクション なのか	栄養が足りなくて亡くなってしまったり病気でもきちんと治療が受けられない子供をすこしても助けたい。少しでも安全に暮らせる子供を増やしたい。	
工夫した こと /達成した こと	貯金する為に家族にも協力をお願いした。	
困難 だったこと /次回に 向けて	世界の困っている子供たちの事について、まだまだ勉強が足りないと感じる。もっと世界の事について勉強したい。	
学び メッセージ	継続して支援することが大切だと言うこと。	



報告者	澤田京之介	その他メンバー：家族
社会問題 & アクション	<p>①食品ロス問題：こども食堂や学校の仲間への啓発、自由研究で食品ロスを扱い啓発、食べ残しNOゲームのマスターとしてゲームを通じ同世代の小学生から意識を高めるリーダー活動</p> <p>②発達障害、凸凹だからこそ未来創出：自身の経験も踏まえ発達特性を社会貢献へと親子でSNS発信、発達障害児のマイクラ会（週一）/ミニ四駆会/粘土陶芸会企画開催</p> <p>③環境問題：WWFジュニア会員として主に野生生物の保護活動について勉強、多摩川生態保護活動：絶滅危惧種、外来種生物を調べ保全</p> <p>その他イベント多数参加・定期的にフリーマーケット活動を実施</p>	在住：東京都
期間：2019年11月28日～12月7日	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア
なぜこの問題 &アクションなのか	自己行動変革・啓発活動・アドボカシー	ソーシャルビジネス
数値成果	約50人へ啓発、12か所で活動	
地球環境破壊につながる一つ一つのことを常にリンクして考えていかないとSDGSさえ矛盾してしまうと考え、各分野の問題意識が高い子供たちがしっかりタッグを組んで話し合い行動を共にしていかねばと思います。	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと/ 次回に向けて
まず自らの生活に問題を持ち、学校や地域で発表するように心掛けました。また、大人の活動家と出会うためイベントに積極的に参加するため学校に許可を頂いて休みをもらったりしました。そのお陰で知識だけではなく、実際自分ができることが増え、大人に認められ求められるようになっていけばと思う。	時間が圧倒的に足りません。学校に行く時間さえ問題です。活動と学業の両立が難しい。また、仲間を募ることが困難です。	学び・メッセージ
常田祐大	その他メンバー：家族	
在住：東京都		
社会問題 & アクション	予防接種をみんなができるようになればいいなと思い、本棚お助け隊へ本を送り、寄付にしました。	アクションの種類
期間：2020年2月11～12日	資金支援・物資支援・ボランティア	自己行動変革・啓発活動・アドボカシー
なぜこの問題 &アクションなのか	ソーシャルビジネス	
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。	困難だったこと/ 次回に向けて	学び・メッセージ
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		
どういう本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。		
本10kg		
なぜこの問題 &アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと		
おうちの本を一生懸命みんなで探しました。		

報告者	片岡嗣葉	その他メンバー：家族 在住：東京都		
		アクションの種類	数値成果	
社会問題 & アクション	<p>学習レベルの格差問題 小学校一年生のときからやっているロボティクスとプログラミングの知識を使って、世界に仲間をつくり、将来問題を解決していくこうと思ったので、友達作りの第一歩に2019年の冬、エストニアとオランダに行って作品のプレゼンをしてきました。</p> <p>期間：2019年11月28日～12月7日</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス</p>		
			エストニアで100人と交流 オランダで30人に対しプレゼン	

関連SDGs

1 貧困をなくす



2 飲食をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 築の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 繁栄がいる経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 入学率の不平等をなくす



11 住む場所が安全で永続的



12 つくる責任つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 地の豊かさを守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナーシップで目標を達成しよう



実施メンバー：計4人

報告者

読売新聞 ジュニア記者
塚原瑠奈、齊田歩、伊藤志穂菜、青木咲良

**いじめ問題**

読売新聞のジュニア記者として山崎聰一郎さんの「こども六法」を取材・夕刊にて紹介した。

**社会問題
&
アクション**



期間 2019年10月22日

**アクション
の種類**

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・**啓発活動**・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

読売新聞夕刊1記事

**なぜこの
問題&
アクション
なのか**

いじめによって失われる命を減らす
自分には生きる権利・愛される権利があるということを伝える

**工夫した
こと
/達成した
こと**

**困難
だったこと
/次回に
向けて**

- ・いじめの多くはいじめだという自覚がなく、自分の言動を振り返ることが大切
- ・いじめを目撃したら/被害に遭ったら一人で解決しようとせずに第三者にも相談をするべき

**学び
メッセージ**

報告者	坂口くり果	実施メンバー：個人
社会問題 & アクション	<p>日本の家庭内暴力やいじめなどの子どもの権利条約侵害問題 ⇒母子手帳に子どもの権利条約を載せるために、区に対してアドボカシーを実施し、2019年4月から世田谷区の母子手帳に掲載されるようになりました。</p> <p>期間：2017年11月～現在</p>	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	世田谷区の1区で掲載が開始	
なぜこの 問題& アクション なのか	やはり最近よくニュースで耳にするような家庭内暴力で子どもが亡くなってしまうケースは、お母さんが子どもの権利条約を知らないということが問題なのだと思います。だから、このアクションによってたくさん的人が子どもの権利条約を知り、少しでも辛い思いをする子どもが減ることを願っています。	
工夫したこと /達成したこと	FTCJの方々のご協力を経て、区長に直接お願いしにいくことができ、実現できた。	
困難 だったこと /次回に 向けて	この活動はまだこれからも続けようと思っています。私がこのアクションを実現できたのはまだ私の住む世田谷区のみです。だから今度は東京都、関東、そして日本中へこの活動を広め、実現させたいです。そして規模を大きくしていくと同時に同世代の仲間も増やしていきたいです。	
学び メッセージ	何かアクションを起こすことはとても時間がかかるし、難しいかもしれないけれど、どんなに小さくてもその力は絶対に社会の役に立っているのだということを学びました。	



関連SDGs
1 貧困をなくす
2 新規をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
5 ジンジャー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 工場をより安全安心してクリーンに
8 働きがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
10 人や国の不平等をなくそう
11 清潔な水と衛生、持続可能なエネルギー
12 つくる責任つかう責任
13 経営変革に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 地の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	Sustainable Game 山口由人	実施メンバー：計18人
	<p>日本においてSDGsの本質である「人が変わること(教育)」を阻む壁、学歴に囚われた信用を得るシステム、地方の教育格差、日本の社会起業家不足を解決しています。また、SDGsアクションを起こしている中高生同士、企業や行政とのネットワークが薄いという課題を解決しています。同時にSDGs全てに関わる各プロジェクトの支援を行うことを通して数多くの社会問題や課題の解決に勤めています。</p> <p>(例： イベントで出す弁当を竹製の容器でウーガン食にする。企業と連携しまちづくりにおいてSDGs達成に対するプロジェクトを動かす。フードロス食材を使って交流会の軽食を提供。小売店と子ども食堂を繋ぎ、フードロスと貧困を解決。福島の風評被害の食材を使いエシカルな弁当を開発。言語支援AIの開発。交通支援アプリの開発。エシカルな服の利用や啓蒙。気候変動に対する啓蒙活動。)</p>	
社会問題 & アクション	<p>2019年5月に中高生による任意団体Sustainable Gameを設立し、SDGsを実践的に学べる教育イベント「課題発見DAY」やアクションを起こしたZ世代が社会に思いを発信するイベント「Z世代のためのプレゼンコンテスト」など計7回(1/9地点)日本の大手企業のオフィスや地方で開催し、240人以上の中高生が参加している。同時に中高生のSDGsアクション支援事業を行い、18歳以下限定SDGsクラウドファンディングサービスやSustainable Odyssey(メディア)、SDGs Network U18(中高生300人が集うSDGs達成のためのオンラインコミュニティー)、テクノロジーサポート、環境コンサルタント等の事業を展開。Be a Social Tackler(愛を持って社会に突っ込め)を理念に日本の社会起業家を増やす活動を行なっています。https://www.sustainablegame.com</p>	期間 2019年5月15日～現在
アクション の種類	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
数値成果	48万円(活動によって得た利益)・300人(イベント参加者)・20人(SDGsプロジェクト支援者)・22社(提携企業数)・9記事 メディア掲載数(1/9地点)・2テレビ取材・4イベント・カンファレンスにてスピーチ	
なぜこの 問題& アクション なのか	主軸事業の教育の対する課題のみ書かせていただきます。SDGsの理解を深めるイベントやワークショップは多くあります。しかしながら一つの成果物を作るだけでは会場から出た参加者がアクションの一歩を踏み出せない。SDGsの本質である地球市民としての意識を高め行動する教育を実現するにはそうではなく、アクションを起こせる学びを提供するべきだと思い、起業とSDGsを実践的に学べる教育イベントを展開しています。参加した中高生の多くは自らSDGs達成に向けての行動を始めています。	
工夫したこと /達成したこと	組織運営の面では社会貢献をしながら利益を得るという社会起業の考え方が浸透していない中で、当初はなかなか企業との連携を取ることが難しかったです。プログラムの設計に一番時間を費やしました。脳科学やゲーム論理、ビジネスフレーム、50以上の既存のワークショップや7回のイベント実践を得て、参加者の行動への意識が確実に変わったSDGsイベントを実現できています。	
困難 だったこと /次回に 向けて	社会は信用で動いています。しかしながら中高生ないしろ中学生は、ほぼ学歴が信用を得る方法となっています。そんな社会の中で全ての人は社会を意識した地点で社会人であり、地球を意識した地点で地球人であると訴え、質の高い行動を積み重ねていくことでこの壁を乗り越えました。	
学び メッセージ	意志があれば、アクションは年齢関係なく起こすことができる。自分が多くの言い訳を作り、挑戦を阻んでいたのだと感じた。	

報告者	S	実施メンバー：計2人	関連SDGs
	貧困や教育格差問題 シリアの貧しい地域にある学校に自ら足を運んでそこの生徒や先生へ文房具や服を寄付しました。物資は、家にあったものを持ち寄り、学校で集めました。		 1 貧困をなくす  2 食糧をゼロに  3 全ての人に健康と福祉を  4 質の高い教育をみんなに  5 ジェンダー平等を実現しよう  6 安全な水とトイレを世界中に  7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに  8 働きがいも経済成長も  9 産業と技術革新の基盤をつくろう  10 人気国の不平等をなくす  11 住み続けられるまちづくりを  12 つくる責任 つかう責任  13 気候変動に具体的な対策を  14 海の豊かさを守ろう  15 地の豊かさを守ろう  16 平和と公正をすべての人に  17 パートナーシップで目標を達成しよう
社会問題 & アクション			
	期間：2018年6月1日～2019年3月27日		
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス		
数値成果	生徒350人、先生15人の学校・生徒1人に2本の鉛筆、先生1人に5本のペン、計775本の鉛筆とペンを寄付・計150着の服を小学生1～3年生の生徒に寄付		
なぜこの 問題& アクション なのか	未だにシリアでは内戦が続いており、それに伴い勉強することが困難な地域が増えました。私はシリアの首都、ダマスカスからバスで約3時間のところにあるとても小さなまち、オスマニアにある唯一の小学校に行き、サプライズでそこの生徒や先生達に文房具や服を寄付しました。このアクションは子供達や現地の先生達にとって思いがけない事であったと小学校の校長先生に言われ、子供達に勇気と希望を少しでも与えられたと思いました。		
工夫したこと /達成したこと	私は学校で文房具を集めることを2019年の6月に開始しました。始めた当初から、多くの生徒やクラスメートがペンや鉛筆などの文房具を寄付してくださり、スムーズに行えました。自分は文房具だけではなく服なども寄付し、それを貧しい子供たちに寄付した瞬間は物凄い達成感を感じました。		
困難 だったこと /次回に 向けて	困難と感じ事は実際に現地に行くこととこれを計画する事でした。実際に学校で文房具を集め始めたのは6月でしたが、中学入学した当初からこのプロジェクトをどう実行するか考えていました。結局2ヶ月かかりでプランニングして詳細が決まりました。私はこのプロジェクトをまた学校で実施しようと考えています。その際は文房具だけでなく他のものも集めてまたシリアに行き寄付しようと考えています。		
学び メッセージ	このプロジェクトのおかげで私は8年ぶりにシリアに行けることが出来ました。実際に自分で頑張って集めた文房具や服を幼い子供たちに寄付するのがとても感動的でした。実際に現地に行くことで現在のシリアの状態がどんな感じなのか、都市から離れたところに住んでいる子供たちはどのように暮らしているのかがシリアにいた2週間でよく分かりました。このプロジェクトを今年もやるのが楽しみです。		

実施メンバー：計2人

報告者

熊谷穂乃香、相賀東子



人や国の不平等をなくし人々が暮らしそうい世の中を作るため、学校で応募した夏休みのボランティアで山梨県にある知的障害者の方達が生活する施設に行き、そこで障害者の方々と一緒に歌を歌ったり工作をしたりしました。

社会問題
&
アクション

期間：2019年8月23日・24日



アクション
の種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

52人の障害者の方々と交流。5枚の感想文を書いた。6曲の歌を披露。
1組につき4個の紙コップ風鈴を作った。42人にスピーチ。

なぜこの
問題&
アクション
なのか

障害者の方々は今の社会では邪魔だと言われたり、迷惑と思われて差別されがちです。その問題で殺人事件が起きたこともあります。私はその事についてとても心が痛みました。なぜ同じ人間で一生懸命に生きているのにもかかわらず差別されなければいけないのかと思いました。そして、学校で夏休みに障害者の方々と触れ合う機会があったのでそれに応募しました。そこで実際に障害者の方々と行動してみて同じ人間であるということと、とても親切だということを、改めて実感しました。このことを発信していくけば障害者の方々が社会に出た際に危険な目に合わなくなると思いますし、また積極的に手を差し伸べられると思います。

工夫した
こと
/達成した
こと

工夫したことはコミュニケーションを上手に取ることと、障害者に対しての偏見を無くそうということです。達成できたことはコミュニケーションを上手に撮ることがですが、障害者に対しての偏見をなくすためにはこれからもっと世界に障害者の方達の実態を発信していくことが大切だと思います。

困難
だったこと
/次回に
向けて

私が対応した障害者の方とコミュニケーションを取るのが大変だった事です。とても大人しい方で無口でした。ですがジェスチャーをしたりして理解してもらいました。今年は私が話した事について答えてもらえるようにもう少しわかりやすい話し方をしたいです。

学び
メッセージ

障害者の方々も我々と同じ人間で私達と同じく一生懸命に生きています。なので、街中などでそのような方々を見かけたら積極的に声をかけたいと思いました。

報告者	東京学芸大学附属国際中等教育学校 ソーシャルアクションチーム jimotoプロジェクト 岡凜奈、植竹ターナースミ、福島友菜、工藤楓莉	実施メンバー：計8人
社会問題 & アクション	地域の人口減少・過疎化の問題に取り組んでいます。私たちは実際に離れた地域に足を運び、東京では滅多に感じることができない地域の問題などを地域の方々に教えてもらい、中高生からこそできるまちおこしの方法を模索しています。これまでたくさんの地域と繋がってきて、部員は地域と関わることの楽しさや地域の人たちの暖かさを知ることができたので、自分たちの活動をより多くの中高生に知ってもらい、中高生が地域問題を解決するための原動力になるような社会を実現したいと思っています。	
ソーシャルアクション部（部活動）の中のjimotoチームでは、地域貢献活動をテーマとしたプロジェクトを行なってきました。スタディーツアーとして人口減少などの問題に直面している地域に足を運び、地域のNPO団体や高校生と、地域の魅力や課題を発信するプロジェクトを立ち上げています。現在はスタディーツアーで3年連続訪れている長野県上田市のNPO法人に協力していただき、上田市の食材と私たちの学校が所在する東京都練馬区の食材をコラボレーションさせたお菓子の開発「コラボ商品開発」に取り組んでいます。お菓子という中高生にとって身近なものから地域の魅力を感じてもらい、地域と関わることの面白さや楽しさを私たちの活動から感じてもらえばと思います。活動としては、2018年11月から商品開発において企画書などを制作し、どのような商品を作りたいかの案だしなどを始めました。共同で開発していく、製造を担当しているNPO法人と連携し、翌年の2019年5月に2種類の商品を販売しました。初販売では合計で100個ほど売ることができ、次は9月に開催される本校の学園祭での販売に向けて新商品の開発を進めると同時に、私たちのプロジェクトについて掲載している小冊子の制作に取り組みました。また、夏休み中は商品開発に必要な資金を調達するためにクラウドファンディングに挑戦し、13万円の支援金を集めることができた。学園祭では、新たに2種類の商品を販売するとともに、作成した小冊子を配布し、商品は300個売り上げました。その後も秋頃には近くで開催されているお祭りや、SEIBU GREEN MARCHEなどに出店し、商品の販売を行なった。コラボ商品の販売をすることによって、購入してくださったお客様には上田市に興味を持って頂けたと思います。多くの人が美味しいと言ってください、使った食材がどのようなものなのかななどの質問を多く受けました。また、作成した小冊子への関心も高く、喜んで受け取ってくださる人が多かったです。		
期間：2018年11月～2020年2月15日		
アクション の種類	資金支援 ・ 物資支援 ・ ボランティア ・ 自己行動変革 ・ 啓発活動 ・ アドボカシー ・ ソーシャルビジネス	
数値成果	累計660個の商品販売、13万円の支援金（クラウドファンディング）	
なぜこの 問題 & アクション なのか	近年地方の地域の人口減少・少子高齢化が深刻な問題となっていて、メディアなどでも多く取り上げられています。この問題の原因の一つは地域と関わる機会の減少だと感じています。最近は都会の中で何でも行うことができる時代となっていて、特に若者は地域と関わること自体が眼中にないことがあります。しかし、これからからの未来を創造していく若者が何かしらのアクションを起こさなければ、地域での問題は深刻になる一方です。私たちは、若者を対象に地域と関わることの魅力や、地域が抱えている問題を発信することによって、より多くの若者に地域に対して関心を持ってもらうことができると思っています。このように若者の意識改革は地域問題解決への道に繋がると考えています。	
工夫した こと /達成した こと	コラボ商品を通して、練馬と上田の魅力を多くの人に知ってもらうのはもちろん、地域が直面している課題も同時に知ってもらいたいと思っています。また、商品開発と聞くと中高生にとってはハードルが高く、難しいと思われがちですが、私たちはその概念を覆し、都内の学生が離れた地域の情報発信や、課題解決の一環として「商品開発」を確立したいと思っています。しかし私たちは初めて商品を販売した際、お菓子のみでは練馬や上田の具体的な魅力がお客さんに伝わりにくいと気づきました。そこで、もう少し率直に情報や想いをお客さんに伝えるためにも私たちは、商品開発のプロセスや、地域の魅力を掲載した小冊子、「jimoto人」を作成し、販売時に配布しました。小冊子にして、具体的に上田市と練馬区のどのようなところが魅力的なのかを記載することによって、より私たちの思いを伝えることができ、目的を果たすことができたと思います。	
困難 だったこと /次回に 向けて	この企画は3年前に出案された企画で、長い間やりたいと思っていたのですが、地域が離れているということもあり、なかなか話が進まないまま2、3年経過していました。2018年の11月から本格始動することができたのは、小まめな連絡を取ったからだと思います。また、企画書などを作成し、具体的な案を提示したこと、やりたいという意志があることを相手側に伝えることによって、企画を実行に移せたのだと思います。相手との距離が離れていることは変わらないものの、小まめに連絡を入れたり、自分たちの案を送ったりすることによって相手との距離が縮まったと感じています。改善するべき点は、商品の発注をする時期が遅くなってしまうという点です。これまで、期日間近に発注をお願いしてしまったことが何度かあったため、今後はもう少し余裕を持って発注できるようにしたいと思います。	
学び メッセージ	この活動を通じて学んだことは、中高生だからといってできないことはないということです。私たちは今、離れた地域に住む方と共同で商品開発を行なっています。活動をする前は、中学生の自分が大人の人と共同で商品開発に取り組むなど夢にも思いませんでした。中高生だからといってできないことはないと思います。逆に、中高生だからこそ、周りの人が興味を持ってサポートしてくれる、応援したいと思ってくれる方が資金を提供して、利益のことをさほど考えず純粋に自分たちのやりたいようにできる部分があると思います。「できないことなどない」というと、少し大きめに聞こえますが、私たち中高生のボランティア活動に興味を持ってくれる方は想像より遥かに多くいます。今後も、「きっとできない」ではなく、「とりあえずやってみよう。」「まずは先生に相談してみよう。」という気持ちで様々なことにチャレンジしていきたいと思っています。	



関連SDGs	
1 経済をなくさない	貧困をなくす
2 食糧をゼロに	飢餓をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を	健康と福祉を
4 賀の高い教育をみんなに	質の高い教育をみんなに
5 ジンジャー平等を実現しよう	ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に	安全な水とトイレをみんなに
7 土壤を保つみんなにそしてリーンに	土壤を保つみんなにそしてリーンに
8 働きがいも経済成長も	働きがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基礎をつくろう	産業と技術革新の基礎をつくろう
10 人や国の不平等をなくさない	人や国の不平等をなくさない
11 住み分けられるまちづくりを	住み分けられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任	つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう	海の豊かさを守ろう
15 路の豊かさも守ろう	路の豊かさも守ろう
16 平和と公正をすべての人に	平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう	パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	東京学芸大学附属国際中等教育学校 ソーシャルアクションチーム GAKUIKU Challenge 高倉仁美、毛千晴、笠神幸花	実施メンバー：計10人
社会問題 & アクション	<ul style="list-style-type: none"> ・発展途上国における教育を受けられない子どもがいる現状（ケニアに焦点を当てました） ・紛争時の緊急支援や保健支援 <p>国際課題の解決に焦点を当て、海外における人道支援、ケニアを中心とする教育支援の活動を行いました。</p>	
期間：2019年5月1日～2020年1月31日		
アクションの種類	資金支援 · 物資支援 · ボランティア · 自己行動変革 · 啓発活動 · アドボカシー · ソーシャルビジネス	
数値成果	<p>ケニアにて学校建設を目的とした募金活動154,725円 / 物販活動1,900円 人道支援を目的とした募金活動95,736円</p>	
なぜこの問題 & アクションなのか	<p>貧困の連鎖を断ち切れない最大の原因は、教育を受けられることです。教育を受けることは正しい知識を身に付けることであり、将来就職できたりする可能性が上がることにつながるので、貧困から抜け出す希望になります。政府同士や組織同士の争いに何の罪もない一般市民が巻き込まれ心身ともに大きなダメージを受ける、という理不尽なことが起きていて、それは決してあってはいけないです。その人たちを助けるとともに、あなたたちのことを見捨ててないということを伝え、希望を持つように励ますこともあります。私たちが活動することはこれらの課題の解決の後押しになります。そしてさらに、我々中高生がこれらの活動に取り組んでいることを周知すれば、課題の重要さについて認識してもらうとともに、自分もアクションを起こそう！と多くの人に思わせることができると信じています。</p>	
工夫したこと /達成したこと	<p>活動するにあたって大事になってくるのは、より多くの人に「応援したい」と思ってもらうことでした。そのために「見せ方」をたくさん工夫しました。例えば、街頭募金をするにあたって、ただの街頭募金ではなく、「世界こどもの日」のような国際デーなどに合わせてキャンペーンを行いながら活動をしたりしました。活動に沿って視覚的アピールとなるような看板を作ったり、掛け声を変えたりしました。また、「中高生がやってる！」ということをアピールするために、必ず制服で活動をするようにしました。途中錯誤しつつ、最後は募金の目標額を越せたり、達成感のある活動ができました！</p>	
困難だったこと /次回に向けて	<p>中高生ということがあります、学業や他の活動との両立、チーム内での仕事の公平な分担を保つのが難しかったです。この活動を経て、しっかり活動メンバー内で共有することと、明確な計画立てをすることの大切さを実感し、学びました。これからは、広報といったちょっとしたことでも、何か動きをすればそれをチーム内に共有し、皆が同じ意識を保てるようにします。また、アクションの共有はお互いへの刺激にもなるのでどんどんお互いを刺激できるチームを作りたいです。そして活動をする前に、学校におけるスケジュールと合わせながら、TO-DOを明確にして細かく計画立てをしたいと思います。</p>	
学びメッセージ	<p>「活動してみないとわからない！」 「中高生だからこそその力がある！」 という二つのことを大きく実感しました。中高生だから信頼を得られるのか、本当に自分たちに活動を成し遂げる力はあるのか、不安になりました。しかし、募金活動をするに当たって「実は私の息子がケニアに住んでいるの！」と声をかけてくださる方もいて、「頑張ってね！」と、多くの方々が応援してくださっていることを知りました。やってみなきゃわかんない！と深く実感しました。また、中高生だから注目してくださってる方々がいたり、若い脳を使っての斬新なアイデアが思い浮かんだり、「中高生だからこそ」できること、「中高生」という肩書きが活用できることも実感しました！</p>	

報告者	相模原市立相原中学校 フリー・ザ・チルドレン 実施メンバー：計5人 高谷みのり、若月晶穂、山田瑞葉	関連SDGs
社会問題 & アクション	衛生問題、教育問題 学校でアメニティグッズや文房具を回収し、届けました。	
	期間：2019年8月26日	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	寄付物資：アメニティグッズ 148個（歯ブラシ62本、タオル18枚、ブラシ14本） 文房具 80個（鉛筆50本、色ペン18本）	
なぜこの 問題& アクション なのか	今回の訪問で、衛生的ではないことが、どれだけ怖いことなのか分かりました。下痢やちょっとした風邪で亡くなってしまう子供がいることは、とても悲しいことです、それを変えていかないといけないと思いました。回収したものには歯ブラシやタオルもたくさんあるので、清潔にして、1人でもそういったことで亡くなる子供が減ると良いなと思いました。また、鉛筆もたくさん回収することが出来たので、現地の学校などで使われて、勉強しやすい環境に少しでも貢献できたら良いなと思います。女の子にも配られたら、もっと良いと思いました。	
工夫したこと /達成したこと	夏休み前にプリントを作り全校生徒に配りました。回収日当日にはたくさんの生徒達がアメニティグッズや文房具を持って来てくれました。また、部活で当日持つてこれなかった子も、プリントを見て後日渡してくれたり、みんながとても協力的で嬉しかったです。	
困難 だったこと /次回に 向けて	夏休み前は2年生と3年生で上手く連携が取れていなくて、バタバタしていましたが、当日は余裕を持ってメンバーで集まれたのでしっかり段取りなど確認しながら出来たと思います。	
学び メッセージ	訪問の際に教えていただいた、世界の子供達のことは、とても勉強になりました。女の子がたくさん働いて学校に行けないことが、平等でないと感じました。女の子だって学校に行きたいと思っている子もいると思うし、それによって将来の可能性が広がるんだなと思いました。衛生問題と教育問題は、すごく近いところにあると思うし、それ以外の社会問題も、連鎖していくと思うので、たくさん的人が協力して、役割分担して支え合うことがどれだけ重要か学びました。	



実施メンバー：計4人

報告者

佐竹郁美



家庭の食品ロスを減らし、必要な人へ届ける事で、皆が平等にご飯を食べられる社会にする。貧困率を減らす。

市内にある特定非営利法人の施設に余った食料をボランティアさんを通して寄付しました。

社会問題
&
アクション

期間：2019年11月～現在



アクション
の種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

18歳以下の子どもが10人程度生活している施設への寄付
月に1度、缶詰やカップスープなど10品程度

なぜこの
問題&
アクション
なのか

食べものが無駄にされている。当たり前に食べる事が困難な人がいる。無駄を無くして、必要な所へ届ける事ができる。

工夫した
こと
/達成した
こと

フードシェアの重要性を友達に伝える事ができました。

困難
だったこと
/次回に
向けて

必要としている施設をピックアップして、更に活動の幅を広げたいです。
生徒会などを通して、生徒全員でこの活動を共有したいです。

学び
メッセージ

小さな力でも集まれば大きな力になる事を学びました。
更に大きな力を生む為に活動を続けて行きたいと思いました。

報告者	井沢百寧、藤澤慶々	実施メンバー：計2人
社会問題 ＆ アクション	<p>子供食堂への支援を目的としたアクションとして子供食堂への直接お金の支援はもちろん、子供食堂を本当に必要としている人に知ってもらい、幸せな子供を増やそうという目的としてチラシ作成をして、小学校に配布をしにいく予定です。お金を作成するためにはクラウドファンディングの動画を作ったり校内で募金活動をしました。また、子供食堂に見学に行き実際の子供たちとお話をしたり開催者様にインタビューなどの活動を行なってきました。</p> <p>期間：2020年1月～3月</p>	
アクション の種類	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
数値成果	<p>5000円を募金活動で集めた。（100人が協力）） 600枚のチラシを配布</p>	
なぜこの 問題＆ アクション なのか	子供食堂を必要としているのに情報が回らず知らない子供が多い中でいかにして知ってもらうかを考えた時にホームページを作成したりするよりも小学校で配るチラシが良いと考えこの活動を始めました。このアクションはそんな必要としているのにいけない子供たちへの貢献に繋がっていると思います。	
工夫した こと /達成した こと	現場の状況をよりリアルに把握するために何軒もの子供食堂に訪問させていただきました。学校がインターナショナルスクールということもあり、チラシや動画は英語バージョンも作りました。子供食堂に行き、現場の声を聞くことができたことが1番より考えるきっかけになったと思います。	
困難 だったこと /次回に 向けて	困難だったことはアポ取りとコロナウィルスによる調整です。大きな団体や人の集まるところでの活動が多くかった為、断られたり延期したりすることがとても多くあり、何度もアポを取り直したりしたことが大変でした。次回行うなら、予定をしっかり確認してからアポを取りたいです。	
学び メッセージ	学んだことは、社会で大人の人たちがアポをとったりする仕事を体験できました。あと、子供食堂で実際に働いているひとにインタビューさせていただいたことで、ネットには書いてない色々なことを知ることができました。	

関連SDGs

- 1 貧困をなくす
- 2 飲食をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 賀の平等教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくる
- 10 人気の子育てをくみ取る
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連SDGs	
1 貧困をなくす	
2 飲食をゼロに	
3 すべての人に健康と福祉を	
4 質の高い教育をみんなに	
5 ジンダー平等を実現しよう	
6 安全な水とトイレを世界中に	
7 土壤を一みんなにそしてリーンに	
8 動きがいも経済成長も	
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	
10 人や国の不平等をなくす	
11 水資源に公平なアクセスを	
12 つくる責任つかむ責任	
13 気候変動に具体的な対策を	
14 海の豊かさを守ろう	
15 陸の豊かさも守ろう	
16 平和と公正をすべての人に	
17 パートナーシップで目標を達成しよう	

報告者	近藤凜、野田えみり、荒木美帆、能重芽実		
	実施メンバー：計4人 在住：栃木県		
社会問題 & アクション	生産と消費の問題 現地の人が心を込めて一生懸命つくったもの（フェアトレードのアクセサリー）を、きれいにラッピングして、販売できるようにするボランティアをしました。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年12月4日・5日	数値成果	70袋 フェアトレード商品ラッピング数
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと 貧困が問題なのは、それによって多くの人が亡くなる人が多いから。生産と消費が問題であるのはそれを販売している場所によって生産者が得られる利益や買ってもらえる量が異なる場合があり、不平等だから。私達のアクションによって少しでも貧困の人たちが減らすことに繋がる。	困難だったこと /次回に向けて フェアトレードの袋詰のとき、少しのずれでも商品の印象が悪くなるので、一つひとつ間違えないよう、丁寧にラッピングするのが困難でした。次回行うとしたら時間をかけてラッピングしようと思います。	学び・メッセージ このアクションを通じて、些細なことでも他国や相手の支援に繋がることを学びました。また、ただ支援を行うだけではなく、自らアクションを起こし、取り組んでいく大切さを学びました。これからは、身近なことからでも積極的に取り組もうと思います。

報告者	聖学院中学校糸魚川運営委員会 檜垣昇馬		
	実施メンバー：計17人 在住：埼玉県		
社会問題 & アクション	日本の東京一極化集中問題 地方の人口減少問題 学校の修学旅行で行った「新潟県糸魚川市」とはどのような所かを知ってもらうべく、様々な広報Projectおよび交流、そのProjectを行うためのクラウドファンディングを実施した。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年4月6日～2020年11月1日	数値成果	237,000円を集めた。 (達成率235%)
なぜこの問題 & アクションなのか	最初は学校行事で糸魚川市という所に行ったからと言う安易な理由だったが、糸魚川市というものを知るために、糸魚川市から若者が減っているという事実だったり、とても快適で楽しかった場所なのにあまり知ってもらえてなかったり、糸魚川市の人口自体も減っていってしまっている。 糸魚川市の魅力を発信するアクションによって、糸魚川市に興味を持ってもらえる人が現れて、少しでも観光率が上昇し、住んでくれる人も現れれば、人口増加が起こせるし、日本全体で問題となっている東京一極化集中の問題も解決できる。		

工夫したこと/達成したこと	<p>SDGs17のパートナーシップの目標は確実に達成できたと思う。 Projectチームがそれぞれの役割を理解して行動できた。 工夫した点としては、文化祭でやろうとしていた糸魚川田植え体験のコーナーが取り決めるに違反する可能性があり、それをどう修正していくかを生徒会本部と掛け合うのが大変だった。</p>
困難だったこと/次回に向けて	<p>諦めない力・誰一人取り残さないというケツイを持っていれば乗り越えられた。 次回以降僕らが行うことはないが、下の学年が全Projectを引き継いでくれるから、その人達にしっかりと引き継いでいきたい。また「もう少し早く映像制作を始めていればよりよくなかったはず」「業者と協力すれば時間短縮になったかも」のような改善書を作って下の学年に引き続ぎたい。</p>
学びメッセージ	<p>糸魚川市は住民全員が笑顔で優しくとても快適です。 東京一極化集中は将来、地方合併とか、東京人口急増により仕事の差が生まれ、貧富の差の拡大の懸念など様々な問題がある。糸魚川市の子供達はとてもかわいい。</p>

報告者	塩塚優有	実施メンバー：個人 在住：東京都	
社会問題 & アクション	<p>日本の食料廃棄率問題</p> <p>学校でクラス全員の前でSDGsの12番目の目標である“作る”責任つからう責任”に対しての自分の考えをスピーチしました。クラス全員の食料廃棄率などに対する考えを深めることができたと思います。</p>	アクションの種類	<p>資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス</p>
	期間：2020年1月29日～2020年2月5日	数値成果	41人へのスピーチ
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと/ 次回に向けて	学び・メッセージ
<p>このスピーチによって、クラスのみんなが日頃から料理をする時に、果物や野菜の皮を薄く剥いて、少しだけも廃棄される部分が少なくなるようにしたり、大根の葉などをアレンジして美味しい料理にしてみたり、自分たちなりの食料廃棄率軽減へのアクションを起こすことができると思います。一人の少しだけのこころがけで、世界は大きく変化すると思います。</p>	<p>スピーチを行いクラス全員の深刻な問題への理解を深めた。</p>		<p>SDGsの環境問題に対して自分たちができるることは些細なことだと思うけど、コツコツと心がけて生活していくことで、未来への責任意識が持てたり、ほんの少しだけ環境問題が軽くなればいいなと思った。</p>

関連SDGs



報告者

松本由理、齋藤美月

実施メンバー：個人

在住：東京都



社会問題 & アクション	児童労働・環境問題 エシカルファッショニベントで、古着リメイクの実施。 グローバルフェスタ2020で、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンのブース運営をボランティア。	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年9月29日・2020年2月8日	数値成果	5,000円の募金を集めた

社会問題 & アクション	なぜこの問題 &アクションのか 児童労働 →安く雇い人権侵害 環境問題 →有害な物質を使って いる	工夫したこと/達成したこと ファストファッショ ンではないものの消費	困難だったこと /次回に向けて ファストファッショ ンで使われている材料は、 児童労働や人権侵害を 含んで、作られたもの なので環境にも人権に も良くないことがわ かった
	期間：2020年2月14日	数値成果	1,000円の寄付

報告者

福森まい

実施メンバー：個人

在住：東京都



報告者	実施メンバー：個人 在住：東京都		
社会問題 & アクション	LGBTへの差別 ・差別や偏見をなくすために、クラスでのスピーチや、SNSで情報を共有している。 ・身近なLGBTの困っている人を助けるためにAlly（味方）だと言うことを発信している。 環境問題 ・海を守るために、プラスチックバッグについてのポスターを作った。 ・イベントに参加や、自分の友人に情報を発信している。	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年9月13日～現在	数値成果	123人に向けてスピーチ
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
日本では、LGBT問題を改善していくのはとても難しいと思います。日本の文化的に、みんなが同じでならないといけないという意識が強くあるからです。そんな中でLGBTを含め、マイノリティが自分らしく生きられる社会を作るために、たくさんの人がみんなが同じでならないといけないという価値観ではない価値観もあることを考えることで、偏見や差別がなくなっていくと考えます。	自分がやりたいことをする様に工夫しました。私はSDGsとSDGsのために活動している若者を知り自分もこの社会を変えられると思い、とてもSDGsの活動にやりがいを感じています。なので、自分の全力を尽くせるよう、やりたいことをしています。近頃、私が環境問題の情報を共有している友人がアクションをおこしてくれるようになりました。	スピーチをした際に、40人に話しても、聞いている人はたった10人ほどに感じたことです。次回からは、相手の年齢や趣味などに合わせて聞きやすく、面白く話せたらと考えています。	学んだ沢山のことの中で、一番自分を変えてくれたのは、自分の得意なことを見つかりました。私は自分を否定的に見てしまうことがよくありました。しかし、このアクションを通じ、私は話すことがとても好きで得意なのだと感じました。この特技を使い、社会問題に貢献することも可能だということに気づきました。
報告者	実施メンバー：計2人 在住：東京都		
社会問題 & アクション	飢餓問題： プレゼンを行った 貧困問題： フィリピンの子供達の為に文化祭で募金、 国境なき医師団のイベントに参加 教育問題： パングラディッシュの子供達の為に絵本を作るボランティアをした 公衆衛生問題： ゴミ拾いを定期的に行っている	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2018年7月20日～現在	数値成果	240人にプレゼンを行った
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
まず、学生は世界を一人で大きく変えることはできません。例えば、学生一人が飢餓の問題について頑張っていても、周りの人が知らないければ意味がないです。そこで私たち学生にできるのは、同じ学生の皆さんに世界の問題について「知って」もらうことが大切だと思い、プレゼンを行いました。	資料などを見やすくすること。 数字など具体的な点をよく調べて、わかりやすくインパクトも大きくなるようにすること。	話すのがどうしても早くなってしまうことや、怖くなってしまうこと	はじめは、自分一人が意識して日々細々としたことをしていてあまり意味がないと感じていましたが、みんなに問題を知ってもらうことでもちろんですが、細々とした日々の意識が家族に伝わり、家族から各友達に広がり、どんどん意識が高まっていくのだということを学びました。

関連SDGs



関連SDGs
1 貧困をなくす
2 飲食をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8 働きがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基礎をつくろう
10 人や国の不平等をなくす
11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさも守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	葛山はるか、ネーソン萌桃子	実施メンバー：計2人 在住：東京都
社会問題 & アクション	<p>SDGs5番「ジェンダー平等」 インスタグラムのアカウントを作り、性差別などに対して考え方を全国に広めるために投稿</p> <p>SDGs16番「平和と公正をすべての人に」 広島の原爆ドームや平和資料館に訪れ、実際のことを学び、外国人に広島に来た理由や、世界が平和になるためにはどういう取り組みが必要かをインタビュー</p> <p>⇒両方の問題について、ポスター・メイキングを行い、外国人留学生40人と同級生180人、先生方20人ほどに私たちが考える意見と、それらを実現するためにはどうすればいいか、事実について様々な人に知ってもらうためにプレゼンテーションを行いました。</p> <p>期間：2019年4月下旬～現在</p>	<p>アクションの種類</p> <p>資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス</p> <p>数値成果 240人にプレゼンテーション</p>
なぜこの問題 & アクション なのか	SDGs5：多様な性に対する理解がなく、ストレートでない人たちを傷つけてしまったりしていることが現状であり、人々の考え方を変えるために偏見をなくし、そのような人たちも同じ人間として尊敬できるようにすらことに繋がるためにアクションをした。	SDGs16：世界では今でも紛争など争い事が続いているが、そのせいでたくさん亡くなったり、怪我をしたり、家族と離れたりするというたくさんの問題点があり、日本でも広島や長崎に原爆を投下されて沢山の方が亡くなったり、たくさんのことがおこったなかで、もうこれ以上、広島や長崎のようにたくさんの犠牲者を出さず、みんなが幸せに日々を過ごせるように行いました。これを行うことにより、平和について学べ、みんなが協調できる人の話をきちんと聞くように戦争も無くなり、小さい争い事もなくなるように願ってやりました。
工夫したこと /達成したこと	SDGs5：偏見を持った人々を否定せず、その人々の考えも受け入れながら投稿やスピーチをした。 SDGs16：たくさんの国の外国人に話を聞いて、それぞれの国の現状を知り、その現実をみんなにも伝えたり、実際に原爆ドームや平和資料館を訪れたりすることにより、さらに理解も深まり、平和について考えられたこと。	
困難 だったこと /次回に 向けて	SDGs5：自分たちはLGBTQの中に入る人でないのに何が言えるんだ、など私たちが何も理解していないかのように言われたこと。そう言われるのはキツかったけれど、自分たちは違っても考えを発信するためにめげずに話した。 SDGs16：みんなが世界の現状が知れていない現実であるためにみんなにきちんと現状を説明したり、平和資料館などで現実をきちんと説明したり、みんなが同じ目標に進むにあたり、それぞれの考える平和が異なり、最初は、私たちの目指す平和についてまとまらなかった。なので、次回行うとしたら、考える前にも一度原爆ドームや平和資料館を見て、現実を学んでから、平和について話し合いたい。	
学び メッセージ	本当に考え方方が違う人が多く存在し、どのような人の考え方を変えるのは至って簡単ではないけれど、やると決めたからこそ、その人達の意見も受け入れながら発信をしていくと自然と私たちの考え方も柔軟になり、解決策も見つけやすくなうこと。 全世界の人々が幸せに日々を過ごせるようにするために、たくさんの困難があり、すべての国と地域が平和になるのはみんなの意見がそれぞれあるわけだから、難しいことだと思う。でも、そこでいかにお互いに話して互いの意見を伝え合い、否定せずにみんなの声に耳を傾けることが重要になってくると思うし、私たちも現実を理解して、友達同士、親同士、みんなでお互いに意見を話してみんなの意見を否定せずに、話し合いをして行きたいと思う。	

報告者	佐野裕馬		
	実施メンバー：計2人 在住：神奈川県		
社会問題 & アクション	貧困家庭の負の連鎖を無くす為に高学歴を手に入れる。格差社会を無くす。 誰でも無料で参加出来るオープン塾、勉強カフェを開催	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年7月20日～8月30日		
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
貧困家庭というのは、高校・大学受験の塾に行くための費用を出すことが出来ず、進学を諦めてしまうことが多いので、無料で誰でも参加出来るようにすることで高い費用を払わなくとも大学生や元教員に教えてもらうことが出来る。	地元の自治会長を開催場所や協力者についてアドバイスを頂けました。	開催場所の確保、協力者の手配。次回は、知り合いの大学生に頼んでもっと多くの人と繋げて協力を呼びかけたい。	貧困家庭の子だけを対象にするとより差別が生まれてしまうので誰でも参加出来るようにした方が貧困家庭の子もより参加しやすくなるということ。

関連SDGs

1 貧困をなくす



2 健康をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 賢い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 繁栄がいる経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくす



11 住む環境を守り育てる



12 つくる責任つかう



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 土の豊かさを守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナーシップで目標を達成しよう



報告者	実施メンバー：計23人 在住：神奈川県		
	自修館中等教育学校インタークトクラブ 加藤陽菜、恒松紗英、村越悠、森裕貴、入野麻央、 酒井慎之介、金丸泰山、瓜生墨、斎藤幸英、皆川佳澄		
社会問題 & アクション	貧困問題/強制労働/児童労働/環境問題 SDGs普及・海洋汚染・プラスチック問題 ・2019年1月から定期的に日韓アジア基金ニュースレター発送ボランティア ・自修館中等教育学校保護者にてフェアトレードイベント開催 ・メンバー代表2人が市長、県知事にSDGsについてプレゼン ・メンバー全員でグローバルフェスタにてカンボジアのための募金活動+プレゼン ・メンバー代表がCMAにてフェアトレードについてプレゼン（銅賞受賞） ・メンバー代表がSDGs普及のためにサンリオピューロランドにて30社企業の前でプレゼン ・茅ヶ崎のハロウィンフェスタで海洋プラスチックについてブースにてプレゼン ・文化祭においてフェアトレード×プラスチックフリーイベント実施 ・ボランティアスピリットアワード受賞 ・東京神谷町にてSDGs普及のための中高生プレゼン大会 ・IDEA collectionを企画、実施	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年1月～12月		

関連SDGs
1 貧困をなくす
2 飲食をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
5 ジンジャー平和を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8 繁栄をもたらす経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
10 人や国の不平等をなくす
11 清潔な水と衛生をみんなに
12 つくる責任つかう責任
13 生態変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

なぜこの問題 & アクション なのか	日本ではSDGsの認知度は欧米などの先進国に比べると認知度が圧倒的に低く対策も練られておらず、火力発電までもを作ろうとしている。SDGsの認知度が上がらないと地球温暖化や差別による終止符を打つことができない。私たちが多くイベントを開くことでより多くの人に楽しくSDGsを知ってもらうことができ、小さなアクションやアイデアを創出するきっかけになるとを考えている。1番多く開催しているフェアトレードイベントは生産者が持続可能な生産ができるようにするためのものである。日本の商品は生産者に不利なものが多く、3000万人ほどの子供が貧困下で暮らっていて強制労働により死んでしまう人も多い。海洋プラスチック問題によって魚たちが死んでしまい、2050年には魚よりプラスチックの方が多くなるとも言われている。プラスチックは海、大地、自然、人までもを傷つけら力を持っているため私たちがプラスチックフリーの商品を提供することで多くの人に楽しくプラスチックレスの生活を促すことができる。
工夫したこと /達成したこと	とにかくお客様の目標に立つことが大事だと考えているため、お客様が見やすい配置、来やすい雰囲気を考え工夫をミーティングで話し合い、よりメンバーの意見を取り入れたイベントを開催しようとしている。商品は委託販売ではないため完売しないと大きな損になってしまうため、完売を目標にしている。毎回多くのお客様とメンバーの協力あって完売を達成することができている。校内では全校生徒の前でSDGsの発表をするため認知度100%は過言ではないだろう。また、外部でも企業とつながりSDGsを伝えることで協力しながら日々SDGs普及への努力と活動を続けている。
困難だったこと /次回に向けて	納品チェックや会計監査：先輩と協力しながらミスの内容にお金を動かした。今後は自分たちでできるようにする。クレーム対応：先生の協力で商品に対するクレームなどは解決することができたが今後は自分たちで解決する。
学びメッセージ	チーム一丸となって目標達成すること・SDGsの普及にはさまざまな手段があること・企業と協力することで大きなアクションが出来ること・個々の能力は全く違うものだが一つになれば大きな力が働くこと

報告者	松田紘	実施メンバー：個人 在住：山梨県
社会問題 & アクション	<p>新年の集まりでWe Day の活動を紹介し、募金を募りました。</p> <p>2020年の東京オリンピックの為に、インドネシアとマレーシアの熱帯雨林がたくさん切られ、大きな環境破壊が起きました。今回のオリンピックではSDGsの掲げる目標を達成することが前提だったのに、それが守られていませんでした。壊してしまった環境を少しでも取り戻すために、選手たちと一緒に何か活動したく、計画しています。</p> <p>期間：2020年1月2日～</p>	<p>アクションの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> 資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス <p>数値成果</p> <p>7,897円の募金</p>

報告者	徳山瑛大	その他メンバー：個人 在住：埼玉県
社会問題 & アクション	<p>東京グレートサンタランにボランティアスタッフとして参加。</p> <p>また、日本にいる病気と闘う子どもたちと海外の貧困の中にいる子どもたちのために募金した。</p> <p>期間：2019年12月22日</p>	<p>アクションの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> 資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス <p>数値成果</p> <p>500円の募金</p>

報告者	実施メンバー：計2人 在住：千葉県		
社会問題 & アクション	ロマの人種差別が起きているルーマニア政府に、ロマの差別を無くすことをお願いする手紙を送った。	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年9月28日～10月1日	数値成果	1通
報告者	実施メンバー：計11人 在住：静岡県		
社会問題 & アクション	放課後や休日に勉強する場所がなくファストフード店にたまってしまい、お店にとても迷惑をかけていたこと。 & 掛川市内の中学生と高校生のための自習室の運営	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年3月26日～現在	数値成果	100人が自習室に参加
報告者	実施メンバー：計17人 在住：東京		
社会問題 & アクション	The target social issue was hunger. Our students worked on a food fair within the CHISPARTY event we held on February 1, 2020, at our school. The students prepared food (tako yaki, crepes, bubble tea etc..) and sold the food in vendor stalls at the school. There were other fun activities in the party such as bingo and dancing. At the conclusion of the party, the entire middle and high school got on stage and gave a presentation to the audience about the social issue of hunger.	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：February 1, 2020. (1 Day)	数値成果	・30,000 Yen



関連SDGs

- 1 貧困をなくす
- 2 飲食をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 算の良い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人を囲む不平等をなくす
- 11 自然を保つから生きづらさない
- 12 つくる責任つかう立場
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 土の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連SDGs
1 貧困をなくす 
2 健康をゼロに 
3 すべての人に健康と福祉を 
4 質の高い教育をみんなに 
5 ジェンダー平等を実現しよう 
6 安全な水とトイレを世界中に 
7 土地を一いもいなくしてアーリングに 
8 繁栄がいもいる成長も 
9 農業と林業革新の基礎をつくりよう 
10 人や国の不平等をなくす 
11 住み分けられるまちづくりを 
12 つくる責任つかう責任 
13 気候変動に具体的な対策を 
14 海の豊かさを守ろう 
15 陸の豊かさも守ろう 
16 平和と公正をすべての人に 
17 パートナーシップで目標を達成しよう 

なぜこの問題 & アクション なのか	We surveyed some people and realized that even some children go to school hungry because no food in their house. We also know many other people are lucky to get one meal a day in Tokyo and other big cities in the world, even if they are considered developed places.
工夫したこと /達成したこと	The coolest thing we did was get community members outside our school to come to our party. Once they were in, we treated them with hospitality and made them food. Our food was not wasted and we did our best to sell everything.
困難だったこと /次回に向けて	It was hard to decide on a "Gift". We had many opinions and it took a long time to decide what all of us could do together as one unit. Maybe next time we will work in a couple of groups when our school is bigger next year.
学びメッセージ	Despite our own fortunate lives, we learned develop empathy for others. Hunger is an issue that is closer to us than we thought.

ACTION REPORTS

-高校生の部-

WE ARE
THE CHANGE

実施メンバー：計21人

関連SDGs
1 貧困をなくす
2 飲食をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 箱の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 さとうこいみらいでモビリティに
8 憲法がいも経済成長も
9 農業と林業革新の基礎をつくろう
10 人や国の不平等をなくす
11 清潔な水と衛生をみんなで
12 つくる責任つかう責任
13 究極変動具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 地の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者 井戸静星	高校生 20 人で、防災啓発活動や災害支援プロジェクトを行う "blossom" という高校生団体を立ち上げました。台風19号の被災地に「アシスト瓦」を届けるプロジェクト、避難所の状況を体験する防災合宿、学校の避難訓練を改革するイベント、バレンタインデーにちなんでチョコレートを被災地に届けるプロジェクト、そして雪かきボランティアを行いました。	実施メンバー：計21人
社会問題 & アクション	期間 2019年8月10日～2020年2月29日	
アクションの種類 資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス		
数値成果 15,000円、60人、瓦80枚		
なぜこの問題&アクションなのか 日本は災害大国にも関わらず、若者の防災意識は低く、日本のどこかで災害が起きても災害支援などに参加しないのが現状です。 私も、北海道胆振東部地震を経験して痛感しました。 私達の災害支援プロジェクトや防災啓発イベントを通して、若者に防災を身近に感じてもらうことが目的です。		
工夫したこと/達成したこと 私達の活動は規模も一人ができるものではなく、知識や最新情報も必要です。 そのため、一人ですべてを抱え込むのではなく、仲間で活動を分散し、広く専門家や社会の人々に知識や支援を呼びかけました。		
困難だったこと/次回に向けて 高校生の組織を社会に根付かせることに苦労しました。大人と同じように組織を立てて、お金を集めて活動するのは困難ではありますが、大人と同じように活動する必要はないのだと気づきました。高校生である私達にしか出来ない方法は必ずあって、背伸びしなくともユニークな方法で活動を広めることができる、そのことに気づいたことが、BLOSSOMの大きな転機となりました。		
学びメッセージ 一番は、そして仲間と一緒に新しいものを創り上げることの楽しさです。 私はもともと自分から主張することが苦手でした。でも自分の理念に共感してくれる仲間ができて、どんどん広まっていって、皆で一つのものを創り上げることの楽しさや頼もしさは私を教えてくれました。 仲間がいること、私達を支えてくれている人々との繋がりに感謝です。		

報告者	篠原彩音	実施メンバー：計6人
社会問題 & アクション	<p>40人以上の生徒や保護者、他の高校の教員に向け、</p> <ul style="list-style-type: none"> JICAやSDGsに関する説明 日本の現状 19年12月に参加した、JICAの「高校生実体験プログラム」の活動報告 それに基づく、私達のアクションプランについて発表した。 	<p>JICA 国際理解教育 高校生実体験プログラム</p> <p>事前準備～プログラム当日 <知る> <考える> <行動する></p> <p>「私が個人・地域でできること行動計画」を 地域や学校で実践する発表する</p> <p>グループ意見交換 発表！実践！ 国際協力 実践者へ！</p> <p>出典：JICA筑波高校生国際協力実体験プログラム</p>
	期間：2020年2月1日	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	スピーチ(発表、30分)をご覧になった方：40人以上 ポスター(展示物)をご覧になった方：100人以上	
なぜこの 問題& アクション なのか	JICAの青年海外協力隊など、発展途上国を支援する機関やSDGsに対する、高校生の認知度の低さが問題だと考えている。どのような行動も、まず知ることから始まるところ。そのため、学校という場で、高校生を中心として保護者や不特定多数の方にJICAやSDGsについて知らない人への理解や、活動に対する共感を得ることが効果的である。	
工夫したこと /達成したこと	多くの方から質問をいただけたことで、自分たちの発表が聴いていた方々にきちんと伝わっていたことが確認できた。発表の際はただ発表するのではなく、クイズなど様々な要素を織り交ぜることで、多くの人に楽しんで、学びながら、聴いていただけるよう工夫した。	
困難 だったこと /次回に 向けて	アクションプランを考えたり、より多くの高校生や地域の方が身近にSDGsを感じてもらうためにどうすべきか考えたりすることが難しかった。次回、このような発表を行う時は、より多くの人が抵抗なく、生活に取り入れられるようなアクションプランを考え、それを行うための準備のようなものをワークショップ形式で行いたい。	
学び メッセージ	現状を知ることと、そこから行動に移すのには大きなギャップがあることを痛感した。SDGsに興味のある人だけではなく、興味のない人々が行動に移すのにはどのようなことが必要なのかを考えるべきだと思った。	

関連SDGs

- 貧困をなくそう
- 飢餓をゼロに
- すべての人に健康と福祉を
- 豊かな教育をみんなに
- ジェンダー平等を実現しよう
- 安全な水とトイレをみんなに
- エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 働きがいも経済成長も
- 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 人との不平等をなくす
- 日本銀行られるまちづくりを
- つくる責任つかう責任
- 気候変動に具体的な対策を
- 海の豊かさを守ろう
- 陸の豊かさも守ろう
- 平和と公正をすべての人に
- パートナーシップで目標を達成しよう

関連SDGs
1 貧困をなくす
2 健康をぜんに
3 すべての人に健康と福祉を
4 賢い高い教育をみんなに
5 ジュニア平和を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8 繁栄がいる経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
10 人や国の不平等をなくそう
11 深み豊かな水をみんなに
12 つくる責任つかう責任
13 生態変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 地の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

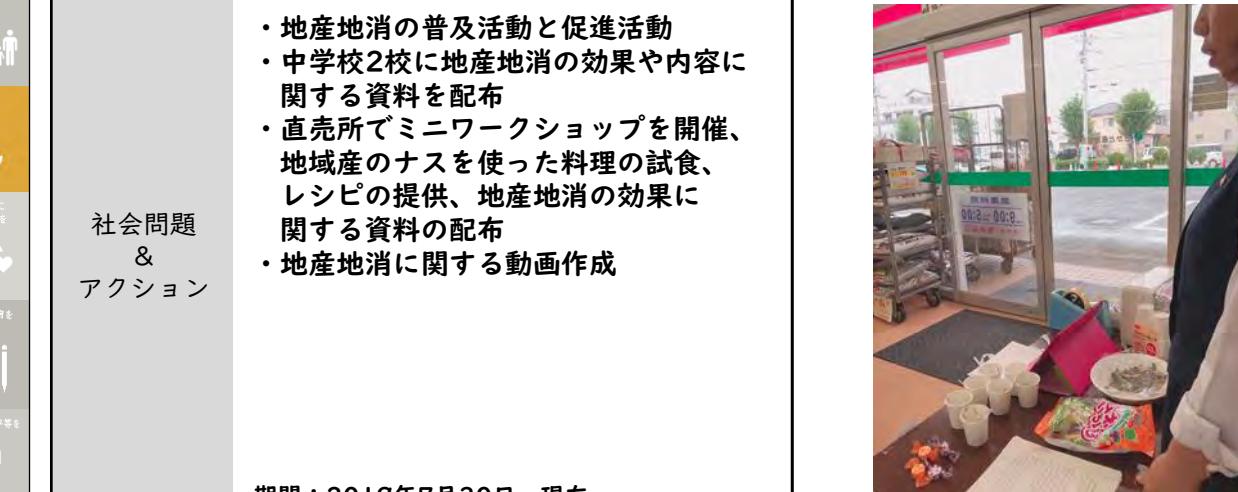
報告者	高務真里杏	実施メンバー：計5人
社会問題 & アクション	インスタグラムのアカウントで、SDGsのゴールや、それらを達成するために私達ができるなどを提示したり、フォロワーの行動を促進したりした。	 tsunamayo.sdg 9 6 投稿 305 フォロワー 536 フォロー中 tsunamayo はじめまして！私達はSDGsについて関心を持ち活動しているJK4人組のツナマヨです！世界をよりよくするために、私たちに出来ることを一つでも多く見つけたい、そしてそれをSNSの力を使って発信したい！という思いをキッカケに...続きを読む
期間	2019年8月11日～現在	
アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	2月1日現在：フォロワー305人　いいね数最大503	
なぜこの問題&アクションなのか	SDGsのゴールを達成するには多く人に認知をしてもらい、さらに行動につなげてもらう必要があると考えたから。	
工夫したこと/達成したこと	チームのみんなに定期的に個人的な声かけをして全体が楽しく活動できるようにする。	
困難だったこと/次回に向けて	企画段階がなかなか進まず困難だったが、みんなが助けてくれたので実行に移せた。	
学びメッセージ	リーダースキル、コミュニケーションスキル、SDGsについて、発信力など	

報告者	実施メンバー：個人	関連SDGs
長壁楓華		
社会問題 & アクション	<p>2019年8月の夏休み中、フィリピンでボランティア活動を行いました。12/28に報告会を自分で主催・開催しました。3/23に、きらめき作文コンクールの最終審査で貧困に関する作文をスピーチします。現在、報告会で得たお金をフィリピンに還元するための方法を考えています。</p> <p>期間：2019年8月20日～現在</p>	
アクション の種類	資金支援 · 物資支援 · ボランティア · 自己行動変革 · 啓発活動 · アドボカシー · ソーシャルビジネス	1 貧困をなくす 2 組織をゼロに 3 すべての人に健康と福祉を 4 賢い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 6 安全な水とトイレを世界中に 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8 機械がいる経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 10 人や国の不平等をなくさく 11 住む環境を守り育てる 12 つくる責任つかう権利 13 環境変動に具体的な対策を 14 生の豊かさを守ろう 15 種の豊かさを守ろう 16 和平と公正をすべての人間に 17 パートナーシップで目標を達成しよう
数値成果	<p>報告会参加費：8,500円（社会人のみ） 参加人数：30人（満員）</p>	
なぜこの 問題& アクション なのか	私は主に子どもの貧困問題について取り組んでいます。そこで、私は身近な大人や同級生に貧困状況とはどういうものなのか知ってもらい、今後の活動に協力してほしいと思い、報告会を開きました。今後の目標としては、群馬で学生団体を開き、貧困状況から抜け出すため、学校に行けない子どもたちに本を送る活動をしたいと思っています。また、スマーキーマウンテンでゴミ拾いをして生活をしていた人を見たので、その人達のためにできる活動を考えていこうと思っています。	
工夫した こと /達成した こと	まず、上毛新聞社に営業をかけて、フィリピンの報告書を掲載していただきました。その後、チラシを300枚刷り、県内の高校・大学・飲食店・病院などに貼っていただきました。そして、報告会には、会場の最大人数である30人の方々にお越しいただきました。	
困難 だったこと /次回に 向けて	改善点は、ディスカッションの内容を私自身があまり詰められていなかったことです。また、大人の方々の議論になってしまったので、学生限定の報告会も開きたいと思います。	
学び メッセージ	この報告会は、ボランティアアクションinフィリピンを、ボランティアのみで満足しないために行いました。このおかげで、毎日のようにフィリピンの貧困問題について考えることができています。そして、貧困問題を解決するには継続が大切だと思うので、今後も続けていきたいと思いました。また、多くの人が貧困問題に関心がないわけではなく、行動の起こし方がわからないというだけだと分かりました。そういう人々を導いていけるようにしたいと思っています。	

実施メンバー：計4人

関連SDGs
1 貧困をなくす
2 食糧をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 管理の高い教育をみんなに
5 ジンジャー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 さとうこーみじみとしてアーリング
8 惣きがいも経済成長も
9 農業と林業革新の基礎をつくろう
10 人や国の不平等をなくす
11 清潔な水と衛生をみんなで守り合う
12 つくる責任つかう責任
13 究極的行動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 脳の豊かさを育む
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	澤田のどか、島田明日美、高橋瑞貴、加藤飛鳥
社会問題 & アクション	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消の普及活動と促進活動 ・中学校2校に地産地消の効果や内容に関する資料を配布 ・直売所でミニワークショップを開催、地域産のナスを使った料理の試食、レシピの提供、地産地消の効果に関する資料の配布 ・地産地消に関する動画作成 <p>期間：2019年7月30日～現在</p>
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス
数値成果	直売所では26人にワークショップを実施＋ナス購入率前週比5%UP 中学校2校、271人に資料を配布
なぜこの 問題& アクション なのか	地産地消をすることでフードマイレージを削減することができ、二酸化炭素の排出量を削減することができるため、気候変動の阻止にもつながる。気候変動は、自然災害と密接で、自然災害による被害は人々を苦しめている。地域の農産物が活発に流通することで地域活性化につながる。地域活性化が不足すれば、地域の設備が整わず、健康被害につながったり、住みやすい街にならず、人口が減少したりしてしまう。日本の食糧自給率は低く、今後を見据えた自給率の向上が必要である。
工夫した こと /達成した こと	直売所のワークショップは、対象である主婦が多く、忙しい方が多いことから、時間を長く取れないので、できるだけ短く地産地消の内容を伝えるため、動画や試食で興味を持つてもらうよう工夫した。地産地消の再認識を目的に、中学校で資料配布を行った際は、具体的な効果や取り組みを提示した。その後のアンケート調査では、「小学校で習ったけれど忘れていたことを思い出すことができた」「地産地消に取り組みたいと思うようになった」というコメントをいただけた。
困難 だったこと /次回に 向けて	ワークショップに人を集めることが大変だった。忙しい主婦の方が多かったことから、2回実施のうち1回目はお昼時に実施したのに対し、2回目は夕方4時から開始した。短期的な活動になってしまったので、長期で回数を重ねて活動しようと思う。 地産地消を行うのは1回ではなく繰り返しの継続性が必要なため、スーパーでのポスター掲示などを考えている。直売所での活動は主婦向けに、中学校での活動は学生向けだったため、若い大人向けの活動もしていきたい。
学び メッセージ	このような課題を見つけてアクションを初めて起こし、自分にも出来ることがたくさんあるのだなと実感できた。自分の自信にもなった一方で、活動する中で上手くいかなかかったことや、結果をうまく出せなかったこともあります。現実は甘くないのだなと感じた。色々な人と関わる機会にもなって人の輪もひろがり、新しい考え方なども受け取ることができ、嬉しかった。自然環境に興味があり、具体的なアクションを起こすことができて嬉しい。これを機にもっといろんな活動をしてみたいと思った。



報告者	大野中菜	実施メンバー：個人
社会問題 ＆ アクション	<p>子ども達が選択肢を多く持ち、笑顔のある未来を築くために、高校生ができるこをする！を目標に、NPOの子ども食堂で高校生による学習会、経験作りを企画実施しました！子ども食堂とは貧困家庭、ひとり親家庭の子どもと親が集ってご飯を食べたり、遊んだりするところです。</p> <p>学習会は4回実施し、毎回高校生5人くらいに中学生4人くらい・小学生15人くらいで、勉強を教えたり、中学生に高校生活や受験の話をしたり、スポーツをしたり、それぞれ得意なことを披露したりしました。</p> <p>また、大人に向けて私の活動の重要性を講演しました。</p> <p>期間：2018年3月1日～2020年2月23日</p>	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	講演会と学校のサミットで計100人くらいにスピーチ 子ども50人くらいと活動	
なぜこの 問題＆ アクション なのか	自分が中高の生活や受験を経る中で、お金がないとできなかったことや、情報が遅くてできなかったことがあり、多くの子どもたちがそのような事態に合うことなく、やりたいことを追求できる学生生活を送ってほしいと思い、活動を始めました。貧困、教育格差、情報格差は子どもたちの未来や選択肢の数に大きく関わります。これからの時代を担う子どもたちが自由に活動できることが大切だと思います。目の前の子ども達を相手にした事より、子ども達が高校生の姿から学んで可能性を増やして欲しいと願っています。	
工夫した こと /達成した こと	内容を充実させること、子どもたちの反応を見ながら改善していくこと、協力してくれた高校生への活動目的や注意することを徹底しました。 子ども達本人やお母さん方から、楽しかった！すぐに活用できる情報を得られた！といった感想をいただきました。高校生の姿から良い影響を与えられたと思います。	
困難 だったこと /次回に 向けて	高校生の連携です。次回から、事前に参加メンバーの打ち合わせで、目的や注意事項などの確認をよりしっかりとします。	
学び メッセージ	子どもたちは状況を変える力が弱いため、差し伸べる手が必要であること、家庭内にはまだ多くの問題があることを体感しました。もっと良い影響を与えられるようにしていきたいです。	

関連SDGs

- 1 貧困をなくす
- 2 飲食をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 算の良い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレをみんなに
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 繊維をいちども浪さず
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくす
- 11 水と緑けあわせまちづくり
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 地域の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連SDGs
1 貧困をなくす
2 飲食をゼロに
3 すべての人へ 健康と福祉を
4 箔の高い教育を みんなに
5 ジェンダー平等を 実現しよう
6 安全な水とトイレ を世界中に
7 さとうこいみらい としてリーンに
8 惣がいも 経済成長も
9 農業と林業革新の 基礎をつくろう
10 人や国の不平等 をなくす
11 住み分けられる まちづくり
12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に 対応する 具体的な対策を
14 海の豊かさを 守ろう
15 陸の豊かさを 守ろう
16 平和と公正を すべての人に
17 パートナーシップで 目標を達成しよう

報告者	吉川美輝、吉村紫織、吉村美香、神津日路乃、吉澤純、山田莉緒、田中羽美、堀内愛海	実施メンバー：計8人
社会問題 & アクション	台風19号による大雨、暴風、洪水により多くの人が避難生活を強いられ、今まで通りの生活が困難になっている中、少しでも被災地の力になることができればと思い、今回の街頭募金を企画した。	
	期間：2019年11月27日	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	募金で集まった金額：15,134円	
なぜこの 問題& アクション なのか	近年、日本では異常気象になることが多く、毎年のように災害が起こっている。この募金で集めたお金が少しでも支援につながると考えている。また、私たち自身がこのような問題に目を向けるきっかけとなった。	
工夫した こと /達成した こと	何のための募金なのかをできるだけわかりやすく表示し、大きな声で呼びかけるようにした。目標金額を達成できよかったです。	
困難 だったこと /次回に 向けて	初めて道路使用許可の申請をしたので、書類の作成などが難しかった。また、寒い中での活動だったので、募金がなかなか集まらず辛いときもあったが、優しく声をかけてくれる人々に救われた。次行うときには活動時間帯と場所を工夫したい。	
学び メッセージ	このアクションを通じてたくさんの人の優しさに触れることができた。また、小さなことではあるが、私たちにもできることがあると知れたので活動を続けていきたい。	

報告者	湯本飛鶴	実施メンバー：個人
社会問題 & アクション	タイの孤児院での日本語と日本文化を教える授業をおこなった。	
	期間：2019年8月20日～27日	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	20人	
なぜこの 問題 & アクション なのか	タイには日本企業が多く存在するが、タイ人で日本語を話せる人が少ないと雇用が生まれず、また日本語教育も満足ではなかった。	
工夫した こと /達成した こと	日本語を楽しく学べるように、日本の文化のクイズを出しながら授業をすすめた。	
困難 だったこと /次回に 向けて	日本語を教えるという経験がなかったことと、現地に教材が少なかったこと。 次回行くときには絵本を持っていきたい。	
学び メッセージ	教育をすることはとても大変だということを学んだ。また、タイの人々はとてもあたたかく、親切な人ばかりだった。	

関連SDGs

- 1 貧困をなくす
- 2 食糧をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 算の良い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 繁栄と inclusion のための経済成長
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 入れの不平等をなくす
- 11 住み分けられるまちづくり
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 地の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

実施メンバー：計12人

関連SDGs
1 貧困をなくす
2 食糧をゼロに
3 すべての人々に健康と福祉を
4 築の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 さとうこーいみらいをモビリーンに
8 憲法がいも経済成長も
9 農業と林業革新の基礎をつくろう
10 人や国の不平等をなくす
11 清潔な水と衛生をみんなに
12 つくる責任つかう責任
13 究極変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 種の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	田中萌子
社会問題 & アクション	<p>ボーイスカウト活動を通しての募金活動(緑の募金)</p> <p>地球上の森林の面積は減少の一途にある。また、森林が成長していたとしても、整備が追いつかず、災害の原因となってしまう可能性も高い。最近の若者は、森をはじめとした自然との関係が徐々に薄れつつある。森が、自然がどのように私たちを助けてくれるのか、どのように関わっているのか学ぶべきである。</p>
	
	期間：2019年4月14日
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス
数値成果	70,780円
なぜこの 問題& アクション なのか	自然災害を防ぐために森林を間伐している林业の方々の高齢化が進むと共に、担い手も減ってきている。このままでは私たちを守ってくれる森自身も減っていってしまう。この募金は、植林のための費用となったり、小学生をはじめとする、未来を創る子どもたちに自然と私たちの生活のつながりについて学べる『森の教室』を開催する手助け(資金)となったりしている。
工夫した こと /達成した こと	より多くの人に募金していただくため、人通りの多い道路やスーパー、駅前中心で活動した。また、一人でも多くの人にこの募金を知ってもらうため、大声を出して、注目してもらうきっかけを作った。 達成できたことは、例年よりも多くの募金が集まることである。例年は6万円代後半だが、今年は7万円代に突入することができた。
困難 だったこと /次回に 向けて	寒い中、大きな声を出し続けることである。募金をしてくださる方がいることで、私たちの活動も後押ししてくださる気がして元気が出た。応援してくださる人の想いに応えたいと思い自然と頑張れた。次回行うとしたら、もっと多くの人に目を向けてもらうため、何が目的かも含め呼びかけをしていきたい。
学び メッセージ	私が思っていた以上に、周りにはボランティアやこのような募金に参加してくださる人が多いということである。そして募金をしてくださる方々は森林を守りたいという想いだけではなく、私たちのような若者の活動を支援したいという想いもこめられているという、人々の優しさも体感できた。

報告者	毛千晴	実施メンバー：計4人	関連SDGs
社会問題 & アクション	<p>世界では紛争や自然災害、貧困、感染症の流行など、医療が不足する地域が多くある。医者は不足し、衛生環境は劣悪である。5秒に1人が亡くなっている世の中で、まだ助けを求めている人がたくさんいる。国境なき医師団は、その人たちのために世界各地での医療・人道援助活動をしている。私は仲間とともに募金活動を行い、国境なき医師団へ寄付した。</p>		
	期間：2019年8月26日～2019年9月25日		
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス		
数値成果	95,886円		
なぜこの 問題& アクション なのか	より多くの人を助けたいという思いと、国境なき医師団という素晴らしい活動をしている団体を知ってもらいたいという思いから募金活動を始めた。このアクションは、私たち中高生がやっている。そのため、世の中の多くの中高生のモデルになれるのではないかと思っている。私たちが集めた寄付で救える人はごくわずかかもしれないが、私たちが宣伝した分、少しでも多くの人が貧困、紛争、飢餓などの問題に興味を持ち、国境なき医師団や他の団体に寄付をしてくれると考えている。		
工夫した こと /達成した こと	子どもの写真が写っているパネルや、ボランティア部独自で活動内容をまとめたボードを持って募金を行なったことで、多くの人の目に留まった。忙しい通勤・通学・帰宅ラッシュを避け、比較的に落ち着いている時間帯に活動した。人数もちょうどよく、掛け声も簡潔でわかりやすかった。中高生なりにファンドレイジング活動を頑張れたので、中高生の見本になれた。		
困難 だったこと /次回に 向けて	<ul style="list-style-type: none"> 実際に話しかけられた時に答えを返さなくてはいけないこと。しっかり自分たちの寄付先を調べ、相手に信頼してもらいたい。 短い言葉で募金の要項を説明すること。 中高生に募金してもらうこと <p>次回行うとしたら、少ない金額でも是非募金してもらうよう伝えたい。また、「何円集まれば何ができる」や、「昨日集まった金額」など示し、興味を持ってもらいたい。</p>		
学び メッセージ	正直募金は大変だった。怒られたり、無視されたり、挫けそうになったこともあった。しかし、これらを全て乗り越えて成果を出せた瞬間この活動の楽しみが体に伝わった。常に全力で、積極的に物事を進めていけば必ず認められる。これからも社会貢献に全力で参加していきたい。		

実施メンバー：計12人

関連SDGs
1 畜産をなくす
2 飲食をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 賢い教育をみんなに
5 ジンジャー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 さとうこ－イみらいをもつてリーンに
8 挑戦がいる経済成長
9 産業と技术创新の基礎をつくろう
10 人々の不平等をなくす
11 住み分けられるまちづくり
12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 地の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	椎野はな
社会問題 & アクション	海岸に落ちているゴミが海に入らないように、ゴミを拾うなどのビーチクリーンアップを逗子海岸で行った。
期間	2019年7月21日
アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス
数値成果	ゴミ袋3袋
なぜこの問題&アクションなのか	海洋生物が海水に紛れ込んだゴミを食べて窒息してしまったり、マイクロプラスチックを知らぬ間にたくさん飲み込んで病気になってしまったりする例があるので、自分が少しでも海に流れ込んでしまうゴミやプラスチックを減らすことができれば、海洋生物が被害に遭う確率を少しでも減らすことができる。
工夫したこと/達成したこと	12人の参加者の方と、協力して一度にたくさんのところでゴミを拾って効率よく拾った。そして、合計で3袋ぶんのゴミを集めることができた。ゴミ捨てを促す声掛けをすることができた。
困難だったこと/次回に向けて	見ていないところで、ゴミをポイ捨てしたり、ゴミの分別をしないで捨てようとする人が多いたので、その一つの行動が私たちの健康にも、そして漬瘍生物の命に大きく関わっているということを伝えるようなアクションを起こしたいと思う。
学びメッセージ	一人一人が海洋生物の命に自分の行動が関わっているという意識が薄いということを知った。そして価値観の違いというのは大きなギャップになるということを知った。

報告者	三好里奈	実施メンバー：個人
社会問題 & アクション	流暢な言語を用いてのコミュニケーションを遠い存在だと感じている人が多い。 そこで、タイへの短期留学について、パワーポイントを用いてプレゼンを行った。	
	期間：2019年3月24日、6月8日ほか	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	10人、30人、150人にそれぞれスピーチ	
なぜこの 問題 & アクション なのか	日本がグローバル化の波に乗り遅れるかもしれないから。 グローバル化を、少しでも近い存在だと感じる人が増える。	
工夫した こと /達成した こと	聴衆に呼びかけたり、グループワークを行なって対話の場を作ったりする。 留学体験のイメージが湧きやすい写真を用いる。	
困難 だったこと /次回に 向けて	グループワークを行わなかったプレゼンテーションでは、聴衆の反応を聞き取りにくかった。次回は聴衆に感想を聞く機会を設けたい。	
学び メッセージ	プレゼンテーションの楽しさと難しさ。この活動に意味があるということ。	

関連SDGs

- 1 貧困をなくす

- 2 飲食をゼロに

- 3 すべての人に健康と福祉を

- 4 算の良い教育をみんなに

- 5 ジェンダー平等を実現しよう

- 6 安全な水とトイレを世界中に

- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

- 8 繁栄がいる経済成長も

- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう

- 10 入り口の不公平をなくす

- 11 日本語をみんなに教える

- 12 つくる責任つかう立場

- 13 気候変動に具体的な対策を

- 14 海の豊かさを守る

- 15 地の豊かさを守る

- 16 平和と公正をすべての人に

- 17 パートナーシップで目標を達成しよう


実施メンバー：計11人

報告者

高橋優月



高校2年生の頃、同年代の人に男女平等について知ってほしい、意見交換をしたいという思いで、友人とTFEという団体を結成。男女平等の活動をしている人たちへインタビューをしたり、校内で高校生に男女平等の実現について考察やディスカッションをするワークショップを開催したりしている。そしてその活動を、SNSを利用して情報発信している。

社会問題
&
アクション

期間：2017年10月1日～現在

TFEの活動

TFE for equalityは、中高生を対象に男女平等・ジェンダー問題について考え、議論する場を設けることを目的とした。学生有志団体。

参加者にあって、男女平等問題を意識するようになつた友人との間話を立ち上げてからは、校内ワークショップの企画運営や、活動をはじめていた人のインタビューを通じて見聞を深めてきた。

TFEのホームページ（ページ2に掲載）にはこのグループの活動目的やビジョン、そしてこれまでの活動を記載してまとめたものを掲載している。

また、FacebookやInstagramを用いて広報活動を行っている。

また、2019年7月に行われた学校説明会では、TFE活動紹介のプレゼンテーションも行った。



NANAMI
KONO
ON SELF LOVE AND IDENTITY

表



裏

アクション
の種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

150人

なぜこの
問題&
アクション
なのか

ジェンダーによって自分のしたいことが無意識に制限されている環境であるから。進路・職業選択でも同じことが言える。私は、今取り組んでいる活動を通じて、参加者に固定化されたジェンダー観念に基づく表現や慣行を疑問視する視点を提供し、今ある環境が改善すべきものであると啓発している。この啓発活動が男女平等における個人の価値観の変化につながると考えている。

工夫した
こと
/達成した
こと

フェミニズムはセンシティブなトピックであるため、学校内でその活動を行うことは、生徒や先生の理解と支援を得ることが難しかったが、同時に欠かせなかった。多くの活動家の方へのインタビューを通じて男女平等を多角的に知ることができた。それを校内ポスターやSNSを通じて仲間に共有できた。

困難
だったこと
/次回に
向けて

私たちのグループの目的を理解してもらうことが一番難しかった。ワークショップで男女平等について自由に思考、発言のできる機会を提供する団体として活動していることを先生方に理解してもらうために、パンフレットなどを作成し、結果的にサポートを得られた。次回、別のコミュニティでこの活動を行うとしたら（開始しようとするなら）、スローガンなど用いてグループの趣旨をわかりやすくしたい。

学び
メッセージ

未だにフェミニズムに対する抵抗が大きいということ。しかし、同時に関心を持つ人も多く、知る機会を提供することで、男女平等に関する理解を深め、先入観をなくすことにつながると知った。一方で理解するだけでは行動につながらず、男女平等は先鋭的な関心のある人のみに向けたワークショップだけでは解決できない問題であると感じた。

報告者	駒沢学園女子中学高等学校　社会福祉部 梅澤真穂、苅谷美月、笠原清加、秋山風香、工藤愛梨、本間香織（教員）	実施メンバー：計9人
社会問題 & アクション	不要になった、新品に近い文房具、新品の歯ブラシセット、石けんなどを回収し、途上国の子どもたちへ寄付した。	
期間：2019年10月7日～11月9日		
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	文房具類 312点、歯ブラシ 7点、石けん 31個などを回収	
なぜこの 問題& アクション なのか	勉強をしたいという気持ちがあっても、必要な道具が十分でないため勉強の成果に影響がある。正しい歯磨きの仕方を知らない子が多いため、歯や体の健康を保ちにくい。寄付した道具を使ってもらい、少しでもそのような子どもたちの数を減らすことが目標である。	
工夫したこと /達成したこと	チラシを作成し、校内やクラス内に掲示をしてもらった。校内放送で活動への参加を呼びかけた。生徒だけでなく、教員や事務の職員にも参加を呼びかけた。	
困難 だったこと /次回に 向けて	集めているもの以外の物を持ってくる人がいた。次回からは校内放送やチラシに、回収できないものをより詳しく説明する。	
学び メッセージ	世界にはまだまだ助けを必要としている人が沢山いると改めて実感した。	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 
- 2 飲食をゼロに
- 
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 
- 4 算の良い教育をみんなに
- 
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 
- 8 機械学習も経済成長も
- 
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 
- 10 人や国の不平等をなくさく
- 
- 11 住み分けられるまちづくり
- 
- 12 つくる責任つかう責任
- 
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 
- 14 海の豊かさを守ろう
- 
- 15 地の豊かさを守ろう
- 
- 16 平和と公正をすべての人に
- 
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう
- 

実施メンバー：個人

関連SDGs
1 貧困をなくす
2 飲食をセイジ
3 すべての人に健康と福祉を
4 賢い高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 さとうきびのない循環型社会
8 繁栄がいる経済成長
9 農業と林業革新の基礎をつくろう
10 人や国の不平等をなくす
11 自みぬけられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 地の豊かさも守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	山本千聖
社会問題 & アクション	法政大学で行われた、「世界こどもの日 ユースフェスティバル」において、子どもの教育を受ける権利についてスピーチを行った。
期間：2019年11月16日	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス
数値成果	50人
なぜこの 問題& アクション なのか	教育は子どもの将来にとって多大な影響を及ぼすものであり、教育を受ける権利は当たり前に守られるべき大切な権利である。私自身、病気の治療のために学校に通えなくなると知った時、将来への希望を失った。しかし、院内学級に通えたことで、希望や夢を取り戻すことができた。だからこそ、私の経験を伝え、教育が希望を与える存在であることをより多くの人に理解してもらうことで、少しでも多くの人が教育を重要なものとして捉え、多くの子ども達が教育を受けられるようになることに繋がる。
工夫した こと /達成した こと	どのように言ったら、多くの人に教育の大切さや、それは子どもの希望や夢に繋がるということを理解してもらえるのかを考え、スピーチの原稿を練った。私のスピーチは優秀賞に選んでいただき、様々な人が「感動した」と言ってくださいました。
困難 だったこと /次回に 向けて	自分の病気の経験を話すことは正直ためらいがあり、かなり勇気が必要だったが、私の経験が多くの人々に希望を与えることに繋がることを願い、公の場で話したこと。次回は、自分の経験をためらうことなく多くの人に伝えていきたい。
学び メッセージ	自分しか分からぬ、自分の経験を伝えることの大切さを学んだ。また、私のしたことには小さいことだったが、その規模ではなく、行動したことに意味があり、それによって少しでも他の人に影響を与えることができるということ。

報告者	山内郁輝	実施メンバー：個人
社会問題 & アクション	子どもの権利条約フォーラムで、国内で子どもの権利がどのように守られていないのか、どうしたら守られるようになるのか発信した。	
	期間：2019年11月16日	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	300人	
なぜこの 問題& アクション なのか	国外だけでなく、先進国である日本でも子どもの権利が守られていないことが問題。虐待や理不尽な校則、体罰など。今回の取り組みでは、子ども視点で何が守られていないのか、どうしたら守れるのか大人に発信することで教育の変化や、子どもを守る新しい施設などのアイディアにつながると思う。	
工夫した こと /達成した こと	参加者で、どうすればより大人に現場の意見を伝えられるかミーティングを重ね議論した。結果、なるべく多くの視点からの意見を伝える方向に決まった。私立や公立、フリースクールなど、様々な環境に置かれている子ども達の権利が守られていないことを発信できた。	
困難 だったこと /次回に 向けて	決められた時間内で自分の訴えたいことをまとめ、子どもの権利に関心を持ってもらうために、聴く人の心にどう印象付けるか考えることが大変だった。次回行うとすれば、司会進行のタイムテーブルをより細かく決め、もっとテンポよく聴くひとを飽きさせない話をしたい。	
学び メッセージ	子どもはそれぞれ、校則も家庭環境も全て違う環境に置かれている、子どもの権利が守られないために、ある人は毎日笑っていられるけど、ある人は毎日家に帰れないような格差が生まれている。理不尽な不幸を子どもから取り除き、みんなが笑って安心して生活できるようにしなければならない。	



実施メンバー：計7人



報告者

野口駿

痴漢を防止する活動の情報の拡散をした。

社会問題
&
アクション

期間：2020年1月10～19日

アクション
の種類資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・**啓発活動**・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

244人

なぜこの
問題&
アクション
なのか

現在、社会では痴漢が横行しているが、紛れもない性差別であるから。痴漢が悪いことであるということの再認識、痴漢の減少を目的としている。

工夫した
こと
/達成した
こと

まだできたばかりの団体だったので、いかに宣伝するか工夫した。多くの人に宣伝し、イベントの参加者を集めることができた。

困難
だったこと
/次回に
向けて

いかに痴漢に馴染みのない人を巻き込むか詳しく説明した。

学び
メッセージ

行動すれば何かが変わるということ

報告者	実施メンバー：個人
沖美智子	
インドネシアの孤児院に行き、日本文化を伝えると共に、子どもたちと深く関わった。	
社会問題 ＆ アクション	期間：2019年5月2日
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス
数値成果	80人
なぜこの 問題＆ アクション なのか	貧困により、親が子どもを捨てているせいで、多くの子どもが孤児院にいるが、学校へ行くことができていないことが問題。
工夫したこと /達成したこと	日本の折り紙などを用いて子どもたちと接することができた。
困難だったこと /次回に向けて	現地の人とのコミュニケーション。英語がうまく伝わらなかったり、逆にこちらも勉強不足で上手く話が聞き取れなかったりしたこと。
学び メッセージ	孤児院にいる子どもがピアノ(拾ってきた電子ピアノ)でいろんな曲を私に聞かせてくれた。この子たちには素晴らしい才能があるのに、学校に行きたくても行けない。そんな発展途上国の現実を感じた。しかも、私が行ったところは首都だったので、農村の方はもっとひどい状態なのかもしれない。

関連SDGs

- 1 貧困をなくす

- 2 健康をぜひとも

- 3 すべての人に
情報と通じ

- 4 算の良い教育を
みんなに

- 5 ジェンダー平等を
実現しよう

- 6 安全な水とトイレ
をみんなに

- 7 エネルギーをみんなに
もってリージョンに

- 8 繁栄と inclusion
をみんなも

- 9 産業と技術革新の
基盤をつくろう

- 10 入れの不公平
をなくす

- 11 住み分けられる
まちづくりを

- 12 つくる責任
つかう責任

- 13 気候変動に
具体的な対策を

- 14 海の豊かさを
守る

- 15 地の豊かさを
守る

- 16 平和と公正を
すべての人に

- 17 パートナーシップで
目標を達成しよう


実施メンバー：個人

関連SDGs
1 貧困をなくす
2 飲食をセイフに
3 すべての人々に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 さとうきびの生産と販路の拡大
8 繁栄がいも経済成長も
9 農業と林業革新の基礎をつくろう
10 人や国の不平等をなくす
11 自由に棲む場所をつくる
12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 地域の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者 北園愛果	障がい者に対しての偏見を解決するための団体「smile」にボランティアとして参加、雑誌へ感想文も掲載した。また、障がいのある子ども達と一緒にウォーキングのレッスンに取り組み、お互いの理解にも努めた。	期間：2019年4月28日
社会問題 & アクション	アクションの種類 資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果 500冊以上を配布		
なぜこの問題&アクションなのか	学校の近く（練馬台）に事業所や養護学校などがいくつかあり、通学時に多くの障がい者の方をお見かけし興味を持ったため。また、以前ボランティア部に所属していた際に事業所の方と交流もあり、その時に楽しさを覚えたため。	
工夫したこと/達成したこと 先入観を持たずに、ただその場にいる全員と楽しい空間を作りながらも、講師の方の姿勢を見習いながら、障がい者の方と接することを目標とし、達成する事が出来た。		
困難だったこと/次回に向けて 私が友達に対し、初めて会う人という事で不信感を抱かれている方や、沢山話しかけてくださる方など三者三様で、それぞれどのように対応すべきか悩んだが、笑顔で対応する事が一番だと分かった。次回からは最初から困った顔をせずに笑顔で自分から話しかけていきたい。		
学びメッセージ 人間は何かで分け隔てされるべきではない。しかし、全ての人と同じように扱えれば良いという訳でもなく、何かで括りをつけるよりも、一人一人に先入観無いく向き合うことが、新たな出会いや発見に繋がることを実感した。		



報告者	山田寧々	実施メンバー：計9人
社会問題 & アクション	<p>カンボジアに行って、フリースクールの子どもたちに英語の単語や言葉、日本語などを教えた。また、勉強方法についても、ジェスチャーなどを交えて教えた。</p> <p>途上国と言われる国で、学校に行けない子達に、勉強やその楽しさを知ってもらい、自ら勉強する姿勢を身につけてもらう。</p>	
	期間：2019年12月26日～12月31日	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	20人に英語を教えた	
なぜこの 問題& アクション なのか	カンボジアなどの途上国では、教育の質が良くなく、貧困の家では学校に行けず、フリースクールに行っている子どもも多い。しかし、その子たちが将来子どもを育てる時、学校へ行く事の大切さや勉強の大切さを学べない。カンボジアでは、それが原因で学校に行かせてもらえない子も多く、国の繁栄や成長の後れに繋がるという悪循環が生じていると考える。そのため、子どもたちが学校に行く楽しさを学び、勉強の大切さを知れば、親になった時に自分の子どもたちにも学ぶ大切さを伝えられ、悪循環を断ち切り、国もより成長していくと思う。	
工夫した こと /達成した こと	なるべく楽しみながら勉強を教えるようにした。その方が勉強の楽しさを感じることが出来、長く続けられると思う。最後に勉強した英語を使って、私たちにメッセージをくれた子もいた。	
困難 だったこと /次回に 向けて	人数が少なく、一人一人と向き合えなかったので、次回はもっと大人数でやりたい。また、もっといっぱいプリントとか英語が書いてある本があれば、もっと分かりやすく教えられたかなと思う。	
学び メッセージ	勉強を教えることはとても難しい。勉強できているこの環境に感謝しなければならないと思った。	

関連SDGs

- 1 貧困をなくす
- 2 飲食をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 算の良い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中の誰かんに
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 繰きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 入口の不公平をなくす
- 11 住む場所が安全でまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 地の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連SDGs

1 貧困をなくす



2 熱帯をゼロに

3 すべての人に
健康と福祉を4 質の高い教育を
みんなに5 ジンジャー平野を
実現しよう6 安全な水とトイレ
を世界中に7 まちから一歩みらい
まちづくりに8 惣きがいも
経済成長も9 産業と技術革新の
基礎をつくろう10 人や国の不平等
をなくす11 住み分けられる
まちづくりを12 つくる責任
つかう責任13 気候変動に
対応する対策を14 海の豊かさを
守ろう15 障の豊かさを
守ろう16 平和と公正を
すべての人々に17 パートナーシップで
目標を達成しよう

報告者

猪野二幹、神保琴音

実施メンバー：計2人

「寄付ナビ」のLINEアカウントを友だち追加し、かものはしプロジェクトに30円寄付

社会問題
&
アクション

期間：2020年2月4日

寄付ナビへの友だち追加。ありがとうございます。
猪野つぐみさまにご登録いただいたお気持ちを、ご参加人数×30円分の支援金に変えて、認定NPO法人かものはしプロジェクト（2020年3月までの支援先団体）にお届けいたします。



かものはしプロジェクトは、インドなどで人身売買の被害にあう女性を支援する団体です。
詳しい活動は、このページをぜひご覧ください！
<http://bit.ly/2QmTNhK>

たった2万円で売られて…
「みんなと同じように、夢想に行って勉強したかった」

アクション
の種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

30円

なぜこの
問題&
アクション
なのか

人間が2万円で売られている国が存在していることが単純におかしいと思いました。
人間は物ではありません。人身売買が現実に行われていることに衝撃もありました。
30円だけではまだ足りないと思いますが、その金額が増えれば、人身売買を行っている人の取締り強化であったり、サバイバー（被害者）の女の子の心のケアなど、少しづつ貢献できると思います。

工夫した
こと
/達成した
こと

まずは、自分でも出来る寄付について調べました。アルバイトをしたら、今度はお金を寄付したいです。

困難
だったこと
/次回に
向けて

大学入学後にアルバイトで稼いだお金を継続して寄付したいです。

学び
メッセージ

自分は今日、大学受験を終えました。受験料や大学の授業料は全て親に払ってもらいます。当たり前に進学出来る状況が、世界で考えたら当たり前でなく、また学ぶことすらできていない同世代の子どもがいることに驚きました。直接現地に行くことは、まだ不可能ですが、今日本に住んでいても出来る支援を見つけられて良かったです。
まずは調べ、その上で今の自分にできることを考える。今後も出来ることを一つずつ探し、行動に移していく感じました。そして、親にありがとうと伝えたいです。

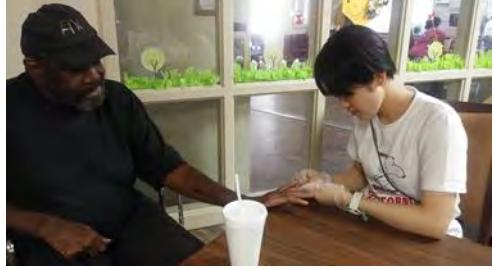
報告者	木暮柚花、西陽香	実施メンバー：計2人
社会問題 & アクション	<p>ひとり親家庭など、経済的困難にある人へ食事を提供する施設で商品管理を行った。 (西島陽香)</p> <p>ハンガー・フリー・ワールドのワークショップで飢餓を学び、飢餓ゼロに繋がる寄付をするために用いる切手貼りを手伝った。</p> <p>「earth garden 秋」にて、iPledgeの環境ボランティアで再利用できるお皿やカップを洗い、ゴミをゼロにする活動を手伝った。また、外国人も多かったこともあり、英語力をいかして外国語ボランティアをした。 (木暮柚花)</p> <p>期間：2019年3月22日～2019年12月21日</p>	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	100人	
なぜこの 問題 & アクション なのか	私たちができる身近なことからやることで、貧困や飢餓など慢性的な問題の解決の一歩になり、その一歩を増やしていくことで世界が目指すべき持続可能な社会を築いていける。	
工夫したこと /達成したこと	周りや自分の知らない人とも繋がりを持って絆を深めるために、色々な人に話しかけた。	
困難 だったこと /次回に 向けて	一回のアクションで終わりではなく、これからも継続してアクションを取り続けていく。	
学び メッセージ	どれだけ小さなアクションでも、積極的に起こしていくことがとても大切で、世界中がそれをしたらもっと問題解決につながると思いました。その1人として、私たちもやるべきことをやっていきたいと思う。	

関連SDGs

- 1 貧困をなくす
- 2 飲食をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 環の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレをみんなに
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 繁栄がいる経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくす
- 11 汚染緩和をめざすつくりかず
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 地の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連SDGs
1 貧困をなくす
2 飲食をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 築の高い教育をみんなに
5 ジンジャー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 さとうこーみじんことしてアーリングに
8 繁栄がいる経済成長
9 農業と林業革新の基礎をつくろう
10 人や国の不平等をなくす
11 自み抜けられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 地の豊かさも守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	H.A.R. 野田さや香、野田愛莉、桧佐みゆき、野田りや子	実施メンバー：計4人
社会問題 & アクション	<p>障害のある人たちへの偏見や差別意識の軽減を目指し、ダウン症の妹と二人でとても小さな会社『H・A・R』ハルを作りました。12/4のあるマーケットで、お菓子と、私が撮った、妹の雑誌を売りました。ダウン症の妹はダンスをしています。そのダンスのクラブにはダウン症の人しかいません。誰も他の人を憎んだり、ひどいことを言ったりしません。私は彼らの素晴らしさを伝えたくて妹の写真集を作りました。優しく、かっこよくて、私は妹が大好きです。売上はそこそこでしたが、作ってよかったです、と思います。</p> <p>期間：2019年11月1日～2019年12月4日</p>	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	2,100円（7人が私の作った雑誌を購入してくださった）	
なぜこの 問題& アクション なのか	私は、健常者の人たちの障害者に対する差別や偏見のせいで、障害者の活動の幅がうんと狭まっていると思っています。マインドチェンジを少しでも多くの人たちがしてくれたら、ダウン症の妹の魅力を知ってもらえたなら、きっと未来を生きる障害者の人たちはもっと楽になると考えます。妹たちが輝く未来をつくりたいです。	
工夫した こと /達成した こと	私の作った雑誌を7人の方々が買ってくださいました。一人でも多くの人に妹の魅力を知ってもらう、という目標を達成しました。その雑誌の中に私から見た妹を書きつづりました。	
困難 だったこと /次回に 向けて	妹はダンスでNHKの「パプリカ」のフリースタイルバージョンに出演しました。雑誌を作ったときは載せられなかったので、次作るときは掲載したいです。	
学び メッセージ	高校の友達に障害者の話をすると、「別の話しよう」と言われてきました。そのため、世の中の人は無関心で、踏み込みたくない世界なのだとっていましたが、協力してくれた人たちや学校の先生が「こんなに素晴らしいこと無いよ」「この雑誌買うね」とおっしゃってくださいり、自分のしている事は間違っていないと実感しました。	

報告者	山口万由子	実施メンバー：個人
社会問題 & アクション	老老介護問題に関する国際ボランティア	
	期間： 2019年8月4日～20日	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	50人	
なぜこの 問題 & アクション なのか	老老介護は限界がある。わたしの行った国際ボランティアによって、外国人労働者の方の受け入れ促進に繋がる。	
工夫した こと /達成した こと	なし	
困難 だったこと /次回に 向けて	なし	
学び メッセージ	外国人労働者の方の気持ちになれた。外国人労働者の方の受け入れ環境をどう整えれば良いのか学べた。	

関連SDGs

1 貧困をなくす



2 異性をゼロに

3 すべての人に
健康と福祉を4 賢い教育を
みんなに5 ジェンダー平等を
実現しよう6 安全な水とトイレ
を世界中に7 エネルギーをみんなに
もってリードに8 働きがいも
経済成長も9 産業と技術革新の
基盤をつくる10 入れの不公平
をなくす11 民主化をめざす
まちづくりを12 つくる責任
つかう責任13 気候変動に
具体的な対策を14 海の豊かさを
守ろう15 地の豊かさも
守ろう16 平和と公正を
すべての人々に17 パートナーシップで
目標を実現しよう

実施メンバー：計14人



報告者	神作拳吳
社会問題 & アクション	児童労働、平和、教育、貧困問題を同世代に知ってもらうため、都内での映画「バレンタイン一揆」上映会、ワークショップ実施、グローバルフェスタ出店、カンボジアフェスティバル出店を行った。
期間：	2018年4月1日～2020年2月16日
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス
数値成果	65人
なぜこの 問題& アクション なのか	何かについて考えさせるアクションを起こすことによって、新しい発見や価値観が生まれる。その影響の輪を大きくしていくことで、よりよい社会になる。若者が社会問題に真剣に考えることは少なく、学校外で触れる機会も多くないのが現状であるため、そこからの変化が必要である。
工夫した こと /達成した こと	同じ高校生に対してイベントを行うことで親近感が湧くため、参加者はその後の行動にすぐにつながると考えた。また、体験型ワークショップや映画上映会では、ガーナの子ども達が毎日運んでいるカカオ豆と同じ重さを米袋とダンベルで用意し、実際に同じ距離を歩いて運ばせた。毎回のイベントで自分たちの活動に興味を持ってくれた子が、自分たちの活動に参加したいと言ってくれたことや、様々な人との交流があり、コラボレーションもできたことは大きな成果であった。
困難 だったこと /次回に 向けて	様々な興味関心を持つ仲間たちの意見をまとめ、どのようなイベントにするか決めることが困難なことであった。多くの時間を使い、参加者目線からも来て良かったと思えるようなイベントにしなければいけないため、アンケートなどを用いてイベントをより良くしようとした。これらの経験をいかし、今後は基本的なスケジュール設計をしっかりと進め、PDCAを何度も回せるほどの時間と気持ちの余裕もって臨みたい。
学び メッセージ	社会問題や国際問題に興味関心がある同世代の少なさにとても驚いた。自分は様々な人の出会いによって、貧困や児童労働、福祉や教育、哲学に興味もった。それにより中高生になった時に、学校を越えて活動するようになった。自分たちがアクションを起こし、知ろうとしたからこそ、多くの社会問題や学ぶことがあった。また、自分たちの伝えたい、広めたい、知って欲しい、という気持ちの大切さも学ぶことができた。

報告者	箭内美緒、佐藤凜、新出彩夏、大出ザマン紗良	実施メンバー：計4人
社会問題 ＆ アクション	<p>私達は「GLOBAL Social Leaders」という大会に出場しています。プラスチック汚染問題の解決、日本のレジ袋削減を目指し、少しでも多くの人にエコバックを持ち歩いてもらえるよう、学校で使用済レジ袋からオリジナルのエコバックを作るワークショップを行っています。地球温暖化が進む中で、若者である自分たちに何ができるかを考えて活動しています。</p> <p>期間：2019年11月29日～2020年5月</p>	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	約1,000人の前でスピーチ 使用済レジ袋からエコバックを作るワークショップを2回実施	
なぜこの 問題& アクション なのか	プラスチックゴミによる動物や環境への影響が大きいのにもかかわらず、あまり知られていないので、改善の必要があるからです。	
工夫した こと /達成した こと	カナダ人の先生と英語でたくさんのミーティングを重ね、ワークショップもどうしたらみんなが楽しく参加できるか考えたり、学校のある杉並区の区役所やカナダのヴィクトリア市に連絡をとって自分たちの活動を広めたり、環境問題に取り組む組織に報告をして、アドバイスを貰ったりしました。	
困難 だったこと /次回に 向けて	日本では環境問題に対する取り組みがまだ大々的に行われていません。また、学校で、全校生徒の前で自分たちが何の活動をしているか、ワークショップに来もらうためにプレゼンテーションをしましたが、自分たちのクラスメイトと先生しか来てくれなかったので、全員にこの問題を自分たちの問題だと真剣に捉えてもらうまで時間がかかると実感しました。私たちの活動を他人事だと考えている人たちの興味をどのように引くか試行錯誤しています。	
学び メッセージ	日本ではまだ意識が低く、環境に対する対策が進んでいないと実感した。一人一人が環境に対して真面目に捉えないと、いくら国が活動してもなにも変わらないと思いました。	



実施メンバー：計20人

関連SDGs
1 貧困をなくす
2 飲食をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
6 爰委な水とトイレを世界中に
7 安全なエネルギーとしてリーンに
8 繁栄がいる経済成長も
9 産業と技術革新の基礎をつくろう
10 人や国の不平等をなくす
11 住み残されるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 路の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	坂本亮
社会問題 & アクション	東京オリンピック・パラリンピック組織委員会主催の「みんなの表彰台プロジェクト」の校内、地域での実施
期間：2019年11月20日～2020年2月29日	
アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス
数値成果	プラスチック空容器 2kg
なぜこの問題&アクションなのか	海洋ゴミは海洋生物を物理的に傷つけるだけでなく、化学物質を吸着させ、生体に悪影響を及ぼす可能性が指摘されている。生物濃縮によって人間の体内に入る可能性もある。綺麗なビーチが汚染されることで観光にも影響がでてくる。
工夫したこと/達成したこと	公式ポスターでは補いきれない情報について、独自のポスターを各校で制作・配布した。また、回収対象が頻繁に排出されるものではないので、一定の周知期間を設けた。
困難だったこと/次回に向けて	家庭のゴミ事情に詳しいのは主に保護者のため、保護者に伝えるのが最も困難であった。生徒に向けて、集会で「保護者の方にお伝えください」と繰り返し呼びかけたが、効果は分からなかった。保護者へのメール配信システムがあったため、教員にお願いして流してもらえばよかった。
学びメッセージ	回収プロジェクトは、家からわざわざ持ってきてもらわなければならず、ハードルが高い。みんなの表彰台プロジェクトは通常、イオン系列店舗など限られた場所でしか回収していないため、利用客以外はなかなか集めづらいと思った。それを今回、学校に広げたが、さらにフレキシブルに広められると成果が期待できると思った。

報告者	宮地杏奈、西脇礼奈、神谷果歩、岩月はな乃、時田穏佳、横田理沙子、藤川和輝、根上侑己	実施メンバー：計10人
社会問題 & アクション	SDGs文化祭での発表 SDGs講演会でのプレゼン 学生団体の立ち上げ ベジプロジェクトジャパンでのお手伝い	
期間：2019年9月3日～2020年1月20日		
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	20人にスピーチ、20人にワークショップを行った	
なぜこの 問題& アクション なのか	ベジタリアンの人が来日時に困ることが多い。また、日本人の中にも自分を押し殺す「隠れベジタリアン」が存在する。 このアクションによって、ベジタリアンの選択肢がある社会を目指している。また、この思いの原点には「誰もが自分に合ったライフスタイルを選べる社会を創りたい」という思いがある。	
工夫したこと /達成したこと	「ベジタリアン」という言葉に対して、拒否反応を示す人や全く興味を持たない人もいる。その中で少しでも自分ごとにしてもらうために、”東京2020”や”だし文化”などの人々が身近に感じやすい言葉を使うことを心がけた。また、ワークショップではヴィーガン菓子を参加者の人達に試食してもらった。	
困難 だったこと /次回に 向けて	学生団体の立ち上げにあたり、集まってくれたメンバーをまとめることがまだ上手くできていません。また、自分の活動によって逆に取り残されてしまう人もいるのではないかという悩みもあります。	
学び メッセージ	とにかく一歩踏み出してみること。特別な人じゃなくていい、とにかく自分が出来る小さなことから始めることが大切。	



関連SDGs
1 貧困をなくす
2 飲食をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 賀の高い教育をみんなに
5 ジンジャー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 空から一歩みないまでアーリングに
8 繁栄がいる経済成長も
9 産業と技術革新の基礎をつくろう
10 人や国の不平等をなくす
11 自由通行されるまちづくり
12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさも守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	法政大学第二高等学校 国際交流委員会 宮地杏奈	実施メンバー：計16人
社会問題 & アクション	<p>教育は、子どもたちが自分たちの道を切り拓いていくために重要な要素です。しかしトーゴ共和国では、日本等の国と比べると、子どもたちが学ぶ機会が十分ではない現状があります。</p> <p>文化祭で国際交流委員会として、トーゴ共和国に向けて募金活動を行いました。内容は、トーゴ布と日本の酒屋さんの前掛けを使ったポーチとコースターの販売と募金の呼びかけです。集まったお金はトーゴ大使館に送り、大使館の方が現地のNGOに送り、本に変えて子ども達に届けられます。</p>	
	期間：2019年10月26日～2019年10月27日	
アクション の種類	<input checked="" type="radio"/> 資金支援 <input checked="" type="radio"/> 物資支援 <input type="radio"/> ボランティア <input type="radio"/> 自己行動変革 <input type="radio"/> 啓発活動 <input type="radio"/> アドボカシー <input type="radio"/> ソーシャルビジネス	
数値成果	募金：62,001円、45セットのポーチとコースター販売。 合計80,001円の寄付金額。	
なぜこの 問題& アクション なのか	トーゴでは、特に田舎の地域には図書館があまりありません。図書館があっても、十分な書数がなく、子どもが読める本もあまり置かれていません。私たちは、子ども達の教育のために、本という半永久的に使えるものを送ることで、単発的な支援ではなく、長く子ども達を支えることができると考えました。	
工夫した こと /達成した こと	コースターの裏地には酒屋さんの前掛けの生地を使い、日本とトーゴがコラボしたコースターにしました。私（宮地）がアフリカ開発会議に伴って開催されたExpoで、トーゴ大使館広報の方と酒バックを販売する方にお会いしたことが始まりです。前掛けの生地は、ご好意で酒バックを作るときに端切れを無償で頂きました。コースターニ枚セットで400円と少し強めの金額設定にしたので、売れるか心配でしたが、コースターもポーチも完売で嬉しかったです。	
困難 だったこと /次回に 向けて	文化祭前がテスト前だったので、限られた時間の中でどれだけ良い企画にできるか悩みました。準備はテスト前からやっていましたが、テスト後一週間の文化祭準備期間で皆で分担し本気で頑張りました。改善することは、今度は皆で企画を考え始めることです。今回の企画は思いついてから文化祭までの期間が短く、委員会全体で話し合うことなく実施が決まりました。そのため当日は沢山の委員が参加してくれたのですが、準備の段階での参加者が少なくなってしまいました。	
学び メッセージ	この企画は色々な人が関わってアドバイスを下さり、とても素敵なものになりました。私一人では絶対に成し遂げられませんでした。ありきたりかもしれませんのが一つ、協力することの大切さを学びました。そして、とにかく尋ねることの大切さも学びました。端切れの件も、酒バックを見た私が、端切れについて尋ねたことで実現しました。自分がやってみたい・面白そうだなと思うことを話すと、年齢や性別、職種関係なく人が集まってくれるので、無謀と思ってもとにかく誰かに伝えることが大切だと思います。	

報告者	陸杜緒子	実施メンバー：計20人
社会問題 ＆ アクション	<ul style="list-style-type: none"> ・福島県いわき市幼稚園へのハンドベル演奏奉仕 ・St.Mary's International Schoolで福島県へ復興資金のためにキャンドルを作成し販売、情報発信 ・Make A Wish Japan のメンバーとなり、情報発信 ・バングラディッシュに寺子屋を作る活動への募金（中1～） <p>期間（上から） 2018年7月30日～ 2017年5月～現在 2020年1月～現在 2015年～現在</p>	
アクション の種類	資金支援 · 物資支援 · ボランティア · 自己行動変革 · 啓発活動 · アドボカシー · ソーシャルビジネス	
数値成果	90,000円程度・80人程度	
なぜこの 問題＆ アクション なのか	東日本大震災から9年が経ち、復興への関心は薄れています。しかし、福島県へ演奏奉仕へ行った際、お話を聞いて震災前と同じ生活ができる人は少ないことがわかり、復興はまだ必要だと感じています。また、難病の子供の夢を叶えるお手伝いをするMake A Wishは、日本ではまだ知名度が低く関心も高くありません。情報発信をすることは、少しでも多くの人がその存在や支援の必要性を知り、支援が活性化することにつながると思います。	
工夫した こと /達成した こと	福島の演奏奉仕では、まだ外で遊べない子もいる中で、ハンドベルの体験など室内でも楽しめるような工夫をした。室内でもたのしい遊びもあると伝え、その一つが音楽だと伝えるため、子どもたちが楽しめる曲を選んだ。 St. Mary's の支援金集めについては、福島のチャリティの先生に、自分も協力したいとお願いして参加させてもらった。	
困難 だったこと /次回に 向けて	ハンドベル体験の際、子どもたちにとってハンドベルは難しいとわかったので、より簡単に鳴らせるようなものを取り入れたいと思います。 キャンドルによる支援金集めについては価格設定に苦労しました。容器の必要なジェルキャンドルは量を少なくし、原価を抑えることで沢山の方に買っていただきました。 次回行うときは、キャンドルを販売する際、福島県の現状をもっと知ってもらえるようなビデオを作成し、横で流したいです。	
学び メッセージ	自分にできることは小さいけれど、自分のアクションが力になれる実感しました。また、福島の復興の現状やMake A Wishなど知名度が低いことも実感し、情報発信の必要性を痛感しました。	

関連SDGs

- 1 貧困をなくす

- 2 飲食をゼロに

- 3 すべての人に
健康と福祉を

- 4 算の良い教育を
みんなに

- 5 ジェンダー平等を
実現しよう

- 6 安全な水とトイレ
世界中に

- 7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

- 8 繁栄がいる
経済成長も

- 9 産業と技術革新の
基盤をつくろう

- 10 人を囲むの平等
をくみくみ

- 11 住み分けられる
まちづくりを

- 12 つくる責任
つかう責任

- 13 気候変動に
具体的な対策を

- 14 海の豊かさを
守ろう

- 15 地の豊かさも
守らう

- 16 平和と公正を
すべての人に

- 17 パートナーシップで
目標を達成しよう


関連SDGs
1 貧困をなくす
2 飲食をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 環の高い教育をみんなに
5 ジンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 さとうこいみらいをモビリーンに
8 繁栄がいる経済成長
9 農業と林業革新の基礎をつくろう
10 人や国の不平等をなくす
11 自み抜けられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	アレセイア湘南高等学校 文化祭実行委員 柳生水樹、渡部駿吾、松田暁、吉澤駿、ガス希安ダグラス、小松美詠、小西愛由美、山村実、山下新司	実施メンバー：学校のみんな
社会問題 & アクション	アレセイア湘南高等学校では、毎年平和をテーマにした文化祭ですが、近年のテーマが「青春」など、楽しむこと重視なテーマになっていました。そこで、友人と共に文化祭実行委員会に参加、私は委員長をさせて頂き、その上で「Smile World」～世界一周の旅～というテーマを掲げ、全クラスの出し物にテーマとなる国を各クラス一つ選んでもらうという形をとりました。少しでも外国に興味を持ち、偏見や差別を無くす切っ掛けにしてほしいと思ったためです。約7ヶ月かけて文化祭を準備しました。	期間：2019年2月～9月
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	《平和祭実行委員長より》 平和祭へようこそ!! 今年度の平和祭のテーマは「smile world」～世界一周の旅～になりました。今回は統一感を出し、企画を行いやすくするためという理由で一クラスにつき一つ国を決めてもらい、その国の文化や特徴に沿った企画にしてもらいました。自分たちで決めた国について調べることにより、多民族への偏見などを少しでも無くす事や本校の理念の一つであるグローバル人材の育成にも繋がります。そのうえで「SmileWorld」を実現出来たら良いと思っています。 本日はお越しくだりありがとうございます。 世界一周の旅をお楽しみください。高校二年 柳生水樹
数値成果	来場者：約5,000人	
なぜこの 問題& アクション なのか	戦争や紛争の中には国や宗教間で、自分たちの文化や教え・他者との違いを肯定するために行われるものがあると思います。また、個人間の争いにも同様のことが言えると思います。争いは人種差別や偏見は他者との違いを認めないことから生まれます。参加者が日本以外の国を調べることによって、海外に興味を持ったり、たとえ国が違っても、同じ人間であることを知る機会になったと思います。少しでも人種差別や偏見を無くそうという意識改革になったと思います。	
工夫した こと /達成した こと	各クラス一つ国を選んでもらう上で、アメリカなどの有名な国に偏りがちだったので、偏らないよう、高校3年生から順に決めていきました。	
困難 だったこと /次回に 向けて	全員を巻き込んで文化祭を準備することです。これからは、先ず全員のモチベーションをあげてからやるべき事に向かおうと思いました。	
学び メッセージ	参加者側として、様々な国の文化に触れることが出来てすごく楽しかったです。同時に、来場者の皆さんにこのアクションを広め、少しでも異文化に対する印象が良くなっていたら良いと思いました。運営側としては、私は今回初めてこのような大きなイベントを運営したので、人を動かすことの難しさを知りました。特に何かを頼む際は相手の考え方やモチベーションを大事にしなければならないことを痛感しました。	

報告者	根本真里	実施メンバー：個人
社会問題 ＆ アクション	<p>FTSN関東高校生支部に所属し、フェアトレードをもっと身近に感じてもらうためにワークショップを開催したり、フェアトレードフェスタのボランティアに参加したりした。</p> <p>個人では、NPO法人の方とコンタクトをとって、お仕事について伺ったり、NPO主催の活動にサポート役として参加した。また、学校内でSDGsをもっと知ってもらうきっかけを作れるように『tacklers』というグループを設立し、始動に向けて準備している。</p>	
	期間：2019年7月26日～	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	65人	
なぜこの 問題＆ アクション なのか	私たちが普段何気なく購入したり使用したりしているモノによって、世界のどこかの人々が悲しんだり苦しんだりしていることが不平等なことだと思った。フェアトレード商品が普及すれば、少しでも搾取されている人を減らし、公平な世界に変えられると感じたためアクションを起こしてきた。	
工夫したこと /達成したこと	受け身でいるのではなく、自分から意見を述べたり、活動に参加したりすることで、新しいつながりができて、自分の活動の幅が広がった。	
困難 だったこと /次回に 向けて	snsやポスターで活動をアピールしたが、まだまだ足りていなかった。次回からは、フェアトレードをあまり知らない人でも興味をもってもらえるように伝え方を変えたり、学校で使っているアプリを使ってPRしたりしたい。	
学び メッセージ	フェアトレードを普及させるには、まだまだ時間も努力も必要である。また、個人で活動もしていたが、SDGsに興味を持っている人が実は学校内にも居ることが分かったため、規模を広げてグループで活動をしてみたい。	

関連SDGs

- 1 貧困をなくす
- 2 経済を図る
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 賢い高い教育をみんなに
- 5 シュレーダー平和を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 繁栄がいる経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 入れの不公平をなくさく
- 11 住み分けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 地の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

実施メンバー：計2人

関連SDGs
1 経済をなくさない
2 飲食をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 賢い高い教育をみんなに
5 ジンジャー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 さとうきび農業で世界に貢献する
8 機械がいる経済成長
9 農業と林業革新の基礎をつくろう
10 人や国の不平等をなくす
11 自み抜けられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさも守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	紀平真珠、狩野楓乃
社会問題 & アクション	学校で使わなくなった文房具を集め、カンボジアの子どもたちに寄付した。
期間：2019年9月10～2020年1月20日	
アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス
数値成果	500個
なぜこの問題 & アクションなのか	文房具が足りず教育を受けられなければ、将来なかなか職につけず、お金を得られないため貧困は続いてしまう。
工夫したこと /達成したこと	友達に啓発活動をした。
困難だったこと /次回に向けて	友達に現状を伝えることで、多くの寄付品を集められることが出来た。次は、文房具以外の物も集めたい。
学びメッセージ	途上国の現状を知らない人が多い。

報告者	由良水沙、和氣友理恵	実施メンバー：計2人
社会問題 & アクション	<ul style="list-style-type: none"> ・草木染のトートバック作り ・エコラップ作り ・フェアトレード商品の購入 	
	期間：2019年11月18日～2019年11月25日	
アクション の種類	資金支援 · 物資支援 · ボランティア · 自己行動変革 · 啓発活動 · アドボカシー · ソーシャルビジネス	
数値成果	3,500円	
なぜこの 問題& アクション なのか	<ul style="list-style-type: none"> ・エコラップを使うことで、プラスチックを原料とするラップの使用量を減らせる。 ・機械の進歩により、伝統技術が衰退している。トートバック作りでは、新万葉染にすることで伝統技術を支援し、さらにオーガニックの草木を染物に使うことにより、生産者や環境に優しい、エシカルな形で行った。 ・フェアトレード商品の購入により、その人たちに公正な賃金が支払われ、少しでも貧困の解決につながるだろう。 	
工夫した こと /達成した こと	フェアトレードでは、マサイ族の方たちに公正な賃金が支払われた。 また、エコラップ作りとトートバック作りでは、作り方や材料を学ぶことにより、エシカルにつながる消費や生活について深く学べた。	
困難 だったこと /次回に 向けて	エコラップ作りは初めてだったので、蜜蠟を溶かすのに苦労し、時間がかかってしまった。アイロンの長時間使用により節電ができなかった。 今度はエネルギー問題も考慮したい。	
学び メッセージ	プラスチックが原因で死んでしまう魚や鳥がたくさんいることを知った。その他、アマゾンの森林火災の進展など、様々な環境問題も学べた。フェアトレード商品の購入が簡単に行えることだとわかり、もっと簡単にできることが、自分にあるのではないかと思った。	



実施メンバー：個人



報告者

近藤杏南

渋谷駅で、センター試験を狙って痴漢する人が増えるということで、痴漢から受験生を守るために、私たちの痴漢に対する思いを標語にして、黄色のコスチュームをつけて訴える活動に参加した。

社会問題
&
アクション

期間：2019年1月18日



アクション
の種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

3,735人が情報にコメント

なぜこの
問題&
アクション
なのか

痴漢はどんな日でも決して起きてはいけないもの。ましてやセンター試験日に、受験生が試験に遅れてはいけないために抵抗できないという卑劣な考えで犯行に及ぶことは、受験生にとっての未来の選択肢をゆるがす、安全を脅かすものもある。このアクションは個人で痴漢を否定するだけでなく、団体で連帯感を持って、共通した黄色を通して訴えることで、痴漢をはたらく者へ、皆見張っていると表すことができる。

工夫した
こと
/達成した
こと

連帯感を生むため黄色いものを身につけた。また、標語をなるべく短く、わかりやすく表現した。寒い中、自分の思いを世間に表現できたと思う。新聞記事などを通して、大人ばかりの中、高校生は1人で記事にも私の思いが記載されていた。

困難
だったこと
/次回に
向けて

標語をどう表せば、痴漢をはたらく者へ伝わるかということに悩んだ。

学び
メッセージ

団体の強み。個人で騒ぎ立てても、それを世間に訴えることはなかなか難しい。私はこのようなアクションに参加することで、より力強く社会問題に取り組めると感じた。

報告者	市原中央高等学校 インターアクト部 平間みゆう、プロミニツ林慶南、高澤悠奈、高山蒼生、大塚麻衣子	実施メンバー：計20人
社会問題 & アクション	<ul style="list-style-type: none"> 子ども服を全校から回収、難民キャンプへ寄付 子ども服回収時に出た紙袋はスケッチブックに加工 使わなくなったクレヨンを回収、マーブルクレヨンに加工、スケッチブックと共に孤児院に寄付 ハーブを校内栽培、文化祭で販売、売上は熊本地震復興へ募金 ポリオワクチン調達のためのペットボトルキャップ回収 	
	期間：2018年4月～現在	
アクション の種類	資金支援 · 物資支援 · ボランティア · 自己行動変革 · 啓発活動 · アドボカシー · ソーシャルビジネス	
数値成果	7,359円（ミャンマー募金） 1708枚（服） 100本（クレヨン） 約210枚（スケッチブック） 約70,000個（ペットボトルキャップ）	
なぜこの 問題& アクション なのか	<ul style="list-style-type: none"> 紛争地域には必要な服が手に入らない子どもがたくさんいる。 短くなったクレヨンをマーブルクレヨンに、紙袋をスケッチブックに作り替えることで、ごみの削減にもつながり、孤児院で暮らす子どもたちに笑顔を届けられる。 教育を受けられないことは生活の質の悪化に通じる。 募金をすることで、被災地の復興に繋がる。 ポリオワクチンで救える命が増え、プラスチックごみ削減、資源有効活用にもなる。 	
工夫した こと /達成した こと	<ul style="list-style-type: none"> 服の回収時、服を入れるための紙袋が大量に余り、使い道に困ったが、紙袋の紐を通してスケッチブックに作り替えるというアイデアでごみを極力減らした。 ハーブ班、キャンプ班とグループを分け、効率よく活動している。多くの募金やクレヨンが集まるなど、全校生徒を巻き込めたことに達成感を感じた。 学校通信のメールを使い、先生や保護者にもキャップ回収活動を知らせた。 	
困難 だったこと /次回に 向けて	<ul style="list-style-type: none"> クレヨンを作る際、明るい色に偏りがちになってしまい、暗い色が余ってしまった。 活動を続けていく中で、意見の違いなどで仲間とぶつかり合うこともあったが、思い切って自分の意見をはっきりと伝えることで思いが通じ合い丸く収まった。これからはより活発にコミュニケーションを取り合い、互いに行なっている活動を理解しあうようにしたい。 	
学び メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアと聞くと大きなものをイメージしがちだが、本当にちょっとしたことが支援になるのだと思いました。また、私が支援をすることで支援先でどのようなことが起きるのか、ただ募金をしてお金を送ることだけが支援ではないのだと学びました。 地道な作業の繰り返しによって多くの子どもたちの命が救われていることを知るととてもうれしいです。作業が終わったあとはとても達成感があります。また、活動を通じ、友達との友情が深まるだけでなく、世界の現状や問題を解決することについて友達と想いや考えを共有しあえると思う。 	

関連SDGs

- 1 貧困をなくす

- 2 順應をゼロに

- 3 すべての人に健康と福祉を

- 4 算の良い教育をみんなに

- 5 ジェンダー平等を実現しよう

- 6 安全な水とトイレをみんなに

- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

- 8 繁栄がいる経済成長も

- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう

- 10 人を団結の平等をもとなくする

- 11 日本語をみんながつくりたい

- 12 つくる責任つかう責任

- 13 気候変動に具体的な対策を

- 14 海の豊かさを守ろう

- 15 種の豊かさを守ろう

- 16 平和と公正をすべての人々に

- 17 パートナーシップで目標を達成しよう


報告者

高橋沙也加、高橋景子、賤機楓花、
福岡早紀、寺澤実紗、水野佑美、伊藤心優

実施メンバー：計10人

関連SDGs
1 貧困をなくす
2 飲食をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 箱の高い教育をみんなに
5 ジンジャー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 太陽エネルギーをみんなでソーラーパネルに
8 繁栄がいる経済成長
9 産業と技術革新の基礎をつくる
10 人や国の不平等をなくす
11 自みぬけられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 地の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

カリフォルニア州立大学サンディエゴ校にて、13カ国の留学生へ、日本に関するプレゼンテーションを実施。自国にもたれがちな偏見、固定概念を聞いたり、調べたりして、日本全般の紹介と共に、なぜそのようなイメージがあるのか、地理的な面や文化的な面、歴史的面などから辿り、説明した。また、それらはあくまで固定概念であってその国の全ての人に当てはまらないことも伝えた。



期間：2019年7月14日～8月10日

アクションの種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

約80人にプレゼン

なぜこの問題&アクションなのか

グローバル化が進む中で様々な人と関わる機会が増えた今、相手を知ることから人ととのつながりが始まる。海外の人と接する時はその国に対する偏見やステレオタイプをもちがちである。気をつけていても無意識に行動に表れてしまったり、相手を判断してしまうことも多々ある。また、その固定概念によって相手を見ていたら、本当のその人自身を知ることができません。その人のバックグラウンドを知り、その上で相手と関わることでより良い関係を築くことができるのではないかと考えました。

工夫したこと/達成したこと

なし

困難だったこと/次回に向けて

自分たちでは気づかない自国に持たれている[br]偏見や固定概念、イメージを見つけることに苦労したが人に聞くことで客観的な意見を取り入れられた。

学びメッセージ

- ・日本に対するイメージを改めて知ることができたこと
- ・自国の文化や伝統、歴史を学び直せたこと
- ・固定観念に当てはめて人をみないこと
- ・意識だけの変化であっても人と人のつながりに大きな影響を与えること

報告者	桃山学院中学校高等学校 School By School 吉本悠菜、深野莉菜、西美咲、田畠桃香、藤丸孝太郎、高木心平、戸田龍斗、神原由弥、首藤崇志（教員）	実施メンバー：計9人
社会問題 & アクション	募金活動をおこなって資金を集め、WEと協力してフィリピンやインドに学校の校舎を建設した。	
期間：2001年4月1日～2020年2月29日		
アクション の種類	資金支援 ・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	480万円	
なぜこの 問題& アクション なのか	2001年にクレイグ氏の講演を聞いて、世界の成人のおよそ6人に1人が読み書きできないという現状を知った。途上国における教育の機会均等を実現するために学校を建設する活動を起こした。	
工夫したこと /達成したこと	校内だけでなく、街頭募金などを2ヶ月に1回のペースでおこなってきた。また、お金だけでなく、全校生徒から本や鉛筆を集めて途上国に届けるなど、様々な取り組みをおこなった。	
困難 だったこと /次回に 向けて	学校や校舎を建設したらそれで終わりではなく、その後も現地の学校が持続して運営されていくためには、地域全体の住民の協力や経済力向上が必要だと感じた。	
学び メッセージ	日本に住む自分たちがいかに恵まれているかを知ることができた。毎日、感謝の気持ちを持ちながら大切に生きていこうと思った。まだまだ地球に住む人類には、解決すべき問題があることを知ることができた。	

関連SDGs

- 1 貧困をなくす

- 2 異性をゼロに

- 3 すべての人に
健康と福祉を

- 4 賢い教育を
みんなに

- 5 ジェンダー平等を
実現しよう

- 6 安全な水とトイレ
をみんなに

- 7 エネルギーをみんなに
もってりに

- 8 繁栄がいる
経済成長も

- 9 産業と技術革新の
基盤をつくろう

- 10 人を囲む不平等
をなくす

- 11 住む場所が
もつくりと

- 12 つくる責任
つかう責任

- 13 気候変動に
具体的な対策を

- 14 海の豊かさを
守ろう

- 15 地の豊かさも
守らう

- 16 平和と公正を
すべての人々に

- 17 パートナーシップで
目標を達成しよう


実施メンバー：計3人

報告者

ノートルダム女学院高等学校
高校生動物愛護グループ・ペッティーズ 遠藤古都

学校の授業の一環で、様々な問題に目を向け、自分たちで実際に解決するために行動するという活動をしています。私達はその中でも、動物愛護に目を向けて取り組んでいます。私達の地元である京都四条河原町の街頭で募金を募りました。集まった寄付金は広島にある犬猫みなしご救援隊の方に、動物のワクチン代として募金しました。



期間：2019年5月16日～2020年1月20日

社会問題
&
アクション

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

17,393円

なぜこの
問題&
アクション
なのか

犬や猫は人間と同じように感情を持っていますし、痛みも感じます。動物にも生きる権利、幸せになる権利があります。人間にはその権利を奪う権利はありません。私が今回行ったアクションは虐待を受けた動物、様々な事情で飼い主が飼えなくなってしまった動物を保護し世話をしている民間の団体の方に街頭募金で集めた募金を寄付し、その団体にいる犬猫たちのワクチン代となります。この活動で犬猫たちの次の飼い主さんに出会うまでの間の健康状態を良く保つことができます。

工夫したこと
/達成したこと

私が所属するチームは知名度が低く私達だけで募金活動をすると怪しまれてしまう恐があると思い、テレビでも紹介されている有名な団体の方々に協力をお願いし、一人でも多くの方が安心して募金できるようにしました。また、ただ立っているだけではなく、自ら声をかけに行ったり、声を出して募金を呼びかけました。また、問題となっていることや、寄付先の団体の紹介が掲載されたパンフレットも配ったことで、現状を知らない人に問題を知らせることができました。

困難
だったこと
/次回に
向けて

皆募金活動の経験がなかったので、声を出したり声掛けをしたりするのが恥ずかしいと感じていました。しかし、時間が経つにつれ、みんなで声を出すことで恥ずかしい気持ちも消え、積極的に活動ができるようになりました。また今回は3人という少人数で活動をしたので、次回からは四人以上の街頭募金を行い、さらに多くの寄付金が集まるようにしたいです。

学び
メッセージ

今回の街頭募金を行うための情報収集として、動物愛護センターに訪問したり、電話で団体の方にお話を聞いたりしたことで、自身の地元である京都の殺処分やペットの譲渡の仕組みや現状を知ることができ、まず私自身の知識が豊富になったと思います。団体の方々は常に私達のサポートを求めていることが学べました。

報告者	長岡楓月、金子晴香、井上夏希	実施メンバー：計3人
社会問題 & アクション	<p>紛争や人権侵害を理由に日本に逃ってきた難民が、社会で受け入れられていないことや、難民の方々が、人として当たり前の生活を送ることができていない問題を知りました。そこで、要らなくなった本やCDを友達や親戚から集め、難民支援協会へ寄付しました。</p> <p>期間：2019年11月21日～2020年1月30日</p>	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	CD20枚、本45冊	
なぜこの 問題& アクション なのか	社会に受け入れてもらえないがために、苦しんでいる難民の方々を救うきっかけになる。人は皆、幸せになる権利が平等にあると思うから、これは問題であると思う。	
工夫した こと /達成した こと	身近で誰でも始められそうなことにしよう！と言うことでこの活動を選びました。沢山の友達や親戚に声をかけて、沢山の本や、CDを集めることができました。声をかける際、「こういった活動で難民を救うことができるんだよ」と説明することで、「すごい！」「知らなかった！」と言ってもらえて、活動の宣伝をする事にもつながったのかなと思います。	
困難 だったこと /次回に 向けて	次回するときも、幅広く声をかけて活動を更に広めていきたいです。	
学び メッセージ	今まで、学校などで難民についての問題を調べたり学んだりするだけでした。しかし、アクションを通して、私達にも出来る事が沢山あると言うことを知りました。これからも、色々な小さいことでも色々なアクションを起こしてみたい、難民の方々の力になりたいと思いました。	

関連SDGs

- 1 貧困をなくす
- 2 食糧をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 環境の良い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 繁栄がいる経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくす
- 11 住み留けられるまちづくり
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守る
- 15 地域の豊かさを守る
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	実施メンバー：個人
関連SDGs 1 貧困をなくす 2 飲食をゼロに 3 すべての人へ健康と福祉を 4 賢い教育をみんなに 5 ジンジャー平等を実現しよう 6 安全な水とトイレを世界中に 7 空から一瞬みる 8 働きがいも経済成長も 9 建築と都市革新の基礎をつくろう 10 人や国の不平等をなくす 11 清潔な水と衛生、まちづくり 12 つくる責任つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナーシップで目標を達成しよう	山内翔太
社会問題 & アクション	<p>Startup Weekend (学生向け起業フォーラム)への参加</p>  <p>期間：2019年4月8日～2019年9月18日</p>
アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス
数値成果	約3,300人
なぜこの問題&アクションなのか	鳥取県では若者が進学等をきっかけで都市部への流出が激しく、人口減少が問題となっている。経済活動の中心となる若者を少しでも流出させないために若者が好むコンテンツを用いることで人口流出を抑える事が可能である。
工夫したこと/達成したこと	自分だけの感覚で判断しないために、フィールドワークに加え、アンケート調査を徹底することを工夫した。調査等のデータを"見える化"する事でお客様のニーズに合わせたものを提供することができた。
困難だったこと/次回に向けて	お金関係の段取りに知識が無く、壁となった。その為、自分でどうにかするのではなく、銀行員として働いている方に相談することで乗り越えることができた。次回からはよりスムーズに活動を行う為に、少しでも知識を身につけるべきだと感じた。
学びメッセージ	相手側の立場からも想像をするという事を学んだ。自分が行ってきた活動は非常に多くの人々に影響を与えることなので、自分がやりたいことだけではなく、相手側だったらどういうことをして欲しいのか、何を求めているのかを想像するということを改めて学ぶきっかけになった。

報告者	鳥取ブルーバーズ 小林美優、山内翔太、山本萌々華	実施メンバー：複数
社会問題 & アクション	鳥取初の3人制プロバスケットボールチームの広報担当として、Twitter運用から、イベントの司会、動画制作をしました。8月に鳥取駅風紋広場で行われた公式戦では、物販、広告制作、TwitterでのLIVE配信を中心になりました。	
	期間：2019年4月20日～2019年8月20日	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	200万円(クラウドファンディング) 300人(公式戦来場者)	
なぜこの 問題& アクション なのか	人口減少は活力の減少と重なると感じます。活力が減少すると、鳥取特有の良さ、伝統等が受け継がれなくなることもあります。私が住んでいる地域も、かなり高齢の方しか、その伝統の作り方を知らないという現状があります。鳥取の良さや、伝統の凄さ、大切さをSNS等を通して知ってもらい、興味を持ってもらうことで、人口増加、活力ある鳥取に繋がると感じます。	
工夫したこと /達成したこと	広報担当としてTwitterを使う中で、どのような投稿をしたら周りが注目してくれるか工夫しました。また、見やすいレイアウトなどについても工夫しました。	
困難 だったこと /次回に 向けて	学生という枠組みの中で、社会のルール、大人の考え方や理解を深めることにとても苦労しました。対策として、分からることは聞く、調べる、周りと考えるという3つを徹底しました。また、活動を通じて礼儀から、チーム内の立ち回りまで、様々な学びを得られることができました。	
学び メッセージ	鳥取に住んでいる方だけでなく、県外の方も応援してくださっていることに驚きました。鳥取は自発的なことがあまりできないので、自分から進んで行動し、県外の方々の動きや、発言なども学んでいくことが大切だと感じました。	



関連SDGs 1 貧困をなくす 2 飲食をゼロに 3 すべての人に健康と福祉を 4 賢い教育をみんなに 5 ジンジャー平等を実現しよう 6 安全な水とトイレを世界中に 7 空から一瞬で見渡せるグリーンに 8 惣がいも経済成長 9 農業と林業革新の基礎をつくろう 10 人や国の不平等をなくす 11 清潔な水と衛生をみんなで守りたい 12 つくる責任つかむ責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 地の豊かさを守ろう 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナーシップで目標を達成しよう	報告者 谷村歩夢、中田航平	実施メンバー：計2人
	鳥取砂丘での海洋漂着ごみ拾い	
社会問題 & アクション	期間：2020年2月2日	
	アクションの種類 資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果 ゴミ袋2枚		
なぜこの問題＆アクションなのか 海洋プラスチックが増える事で海の生き物にとって害を与えていた。自分達が率先してゴミ拾いを行う事でゴミを少しでも減らす事ができるし、それを見た人がゴミを捨てるのは良くないと思ってくれる。		
工夫したこと/達成したこと 観光客の多い観光地でゴミ拾いをして、少しでも多くの人にゴミ捨てる事は良くないと考えてもらうことが出来た。		
困難だったこと/次回に向けて 今回は人数も袋の数も少なかったので、多くの人に協力してもらい、残ったゴミを掃除したい。		
学びメッセージ 過去に何度か砂丘に行く機会があり、海に落ちているゴミを見かけることがあったが、今回行っていると前回見た時よりもはるかに多くの量のゴミが漂流しており、誰かが掃除をしないとゴミの山になってしまいそうだと危機感を覚えた。一人一人が責任を持ってゴミの処理をして欲しいと思った。		

報告者	山西咲和	実施メンバー：個人
社会問題 & アクション	<ul style="list-style-type: none"> トビタテ留学JAPAN高校生コース5期生として、東アフリカのタンザニアで教育ボランティア 高校生平和大使として国連欧州本部派遣に参加。メンバーを代表して50名ほどの外交官や国連職員の前で祖母の被爆体験をもとにした、平和を求めるスピーチを行う。 他、国内外の学生や児童に平和教育を行ったり、講演会等に複数回登壇 LGBTQ+への理解を求める「ながさき愛の映画祭」のイベント会場スタッフ 西日本豪雨災害、北海道地震等の災害発生時に被災地復興支援募金活動を行う <p>期間：2018年1月1日～2019年12月1日</p>	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	募金は約5万円ずつ・軍縮会議日本政府代表部（スイス、ジュネーブ）にて50人の前でスピーチ。タンザニアで45名の子どもがいる施設で教育ボランティア。	
なぜこの 問題& アクション なのか	<ul style="list-style-type: none"> 被爆者の高齢化、被爆経験の風化が進んでいる。戦争の恐ろしさ、核兵器の非人道性を知り、多くの人の同意を得ることで核兵器廃絶に近づく。 タンザニアは経済成長がここ数年で進み、貧困は改善されつつあるが教育格差が残る。 性的マイノリティとして生まれ持ったアイデンティティを否定されることがあってはならない。 	
工夫したこと /達成したこと	多くの人に被爆の実相を伝えることができた。 SNSを通して若者に向けて活動を報告。関心を持ってもらえた。 タンザニアでは子どもたちが飽きずに楽しめる授業を考えて行った。	
困難 だったこと /次回に 向けて	タンザニアのボランティアでは、先生方と良い関係を築けていたので良かった一方、その関係を壊したくないと考えて、教育に関する話を深入りできなかった。来夏、楽しい話を挟んでリラックスした状況などで、そうした時間を作りたい。 核兵器廃絶に関しては、やはり複雑で難しい問題ではあるが、微力でも、無力でないと信じて呼びかけ続けたい。	
学び メッセージ	誰かと協力して物事に取り組むことの大切さを学んだ。社会問題を扱うだけに、自分1人の力だけで解決することは難しいので、多くの人に呼びかけ、仲間を集め、共に活動することで、多くの人に注目してもらえる。また、自他共に成長できる。 そして、継続することはとても難しいが、続けていくうちに多くの人に認識されるようになるはずだ。	

関連SDGs

- 1 貧困をなくす
- 2 飲食をゼロに
- 3 すべての人に
健康と福祉を
- 4 算の高い教育を
みんなに
- 5 シューダー平等を
実現しよ
- 6 安全な水とトイレ
を世界中に
- 7 エネルギーをみんなに
もってりに
- 8 稲作をいも
経済成長も
- 9 産業と技術革新の
基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等
をなくす
- 11 日お辭けられる
まちづくりを
- 12 つくる責任
つかう責任
- 13 気候変動に
具体的な対策を
- 14 海の豊かさを
守らう
- 15 地の豊かさも
守らう
- 16 平和と公正を
すべての人に
- 17 パートナーシップで
目標を達成しよう



報告者	宇都宮短期大学附属高等学校 インターアクトクラブ 実施メンバー：計10人 和泉瑠菜、遠藤冬羽、鈴木愛香 在住：栃木県		
社会問題 & アクション	ポリオ撲滅チャリティーコンサートの開催と募金活動。 ポリオに治療法はないが、ワクチンで予防ができるので世界中の児童の予防接種実施に貢献。	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
期間：2018年～			数値成果 300人
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
アフガニスタン、 パキスタンでは、 政治・社会的な理由 から、子どもたちへの 予防接種が困難、資金 不足でポリオ根絶への 動きの足踏み状態が 続いている。	SNSやポスター、学校 での参加呼びかけや、 当日の様子を年次大会 等の成果報告会で発表 を行った。	なし	なし

報告者	実施メンバー：計2人 在住：埼玉県		
社会問題 & アクション	ハンガー・フリー・ワールドで 伝えるボランティア活動をして いる。 G20高校生サミットで、 ジェンダー格差問題の議題を他の 高校生と議論した。	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
期間 2019年5月1日～2020年1月20日			数値成果 50人
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
飢餓は全ての社会問題 に繋がる問題だから。 ジェンダー格差は、 今の日本で非常に 大きな問題と言え、 これからは女性の活躍 なしに、より良い世界 は生まれないから。	多くの人に影響を与え、 同じ意識を持つ若い 仲間ができた。	学生グループの運営。 次は、それぞれの モチベーション確認や 日程調整をきちんと して、情熱を持って 運営する。	人の輪の大切さ 情熱の大切さ 強い意志を持つ大切さ



報告者	マイケル瑛美		
	実施メンバー：計4人 在住：埼玉県		
社会問題 & アクション	子どもたちの口腔衛生の改善のため、ビディビディ難民居住地で子どもたちに向けた口腔衛生授業を実施	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
		数値成果	300人
期間 2019年6月16日から2020年2月15			
なぜこの問題 &アクションなのか 2次的衛生になる口腔衛生の改善は、1次的支援が優先される難民居住地において後回しにされてしまうが、口腔衛生を清潔に保たなければ、全身の病気につながってしまうから。アクションは、現地の子どもたちの健康状態を改善することにつながり、次世代の口腔衛生に対する意識を変化させる効果につながると考える。	工夫したこと/達成したこと 子どもたちにわかりやすいように、かといって簡単すぎないように、専門の歯科医師に監修してもらいながら授業内容を考えたこと。また、授業の実施するにあたって、たくさんの人に活動を知ってもらう努力をし、ビディビディ難民居住地の現状について知つてもらったこと。	困難だったこと /次回に向けて 現地の子どもたちと直接コミュニケーションが取れなかったこと。ジェスチャーでコミュニケーションをとって、時間をかけて心を開いてもらつた。	学び・メッセージ 私たちの”無関心”が現地の子どもの生活に直結しているということ。
報告者	大谷来未		
	実施メンバー：計5人 在住：東京都		
社会問題 & アクション	小学生に水の大切さ、手洗いの大切さを伝える講座のお手伝いをして、小学生の子どもたちと一緒にポスターを作った。	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
		数値成果	42人
期間：2019年8月2日～8月4日			
なぜこの問題 &アクションなのか 手洗いは当たり前のことだけれど、子ども達が少し面倒を感じていることだから、その大切さや、世界の現状を知って欲しかったから。小学生にも現代社会における問題を伝え、関心を持ってもらう事。また、自分自身が社会問題を学ぶだけでは無く、伝えることも自分自身における大きな一步である。	工夫したこと/達成したこと これからも関心を持つてもらえるように、学ぶことの楽しさを感じてもらいうながら教えた。難しい問題でも、小学生でも分かるような言葉遣いをしながら教えた。	困難だったこと /次回に向けて 小学生でも色々な個性の子がいるから、色々な子達をまとめることが難しかった。多様な個性をもっと発揮できるようなまとめ方をしたいなと思った。	学び・メッセージ 私が一番印象的だったのは、社会問題を知らなかったことを悔やんで泣いてしまった子がいたこと。小学校でも、世界の現状を学べるような時間があればいいと思った。

関連SDGs

- 1 貧困をなくす
2 飲食をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 賢い高い教育をみんなに
5 ジュニア平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8 橋をかいで経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
10 入口の不平等をなくす
11 住み分けられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任
13 環境変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 地の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連SDGs
1 貧困をなくす
2 飲食をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 環の高い教育をみんなに
5 ジンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 さとうこいみらいでアーリングに
8 極きがいも経済成長も
9 農業と林業革新の基礎をつくろう
10 人や国の不平等をなくす
11 自み抜けられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 地の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	森廣優空、森廣優果		
	実施メンバー：計2人 在住：東京都		
社会問題 & アクション	手のひらプロジェクト（""What makes you happy?""と初めて会う人や色々な境遇の人に問い合わせ、手にペンで答えを書いてもらう活動）	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間 2012年6月23日～2019年11月25日	数値成果	25人
なぜこの問題 &アクションなのか 世界のどこでも、この ""What makes you happy?""という問いは通じ、 人によって答えが異なったり、 共通したりするものがあって 面白く、自然と国境を超えて 打ち解けることができる。 この問いについて話し合う中で、 自然と偏見も崩れていき、 共通していることを見つける と、同じ人間なのだと実感 できる。	工夫したこと/達成したこと なし	困難だったこと /次回に向けて 手に書いてもらう時のペンが ウェットティッシュで落ち にくかったので、落ちやすく、 かつ色がはっきりしている ペンを探す	学び・メッセージ コミュニケーションを取ることは大切である
報告者	永野英睦子		
	実施メンバー：個人 在住：東京都		
社会問題 & アクション	障害者施設でのボランティア活動	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年11月9日	数値成果	なし
なぜこの問題 &アクションなのか 障害者施設で ボランティアをすることで、まず自分が 障害者と触れ、障害者 施設の問題点などを 知る	工夫したこと/達成したこと 施設で実際に働く人の お話を聞けたこと	困難だったこと /次回に向けて 喋ることができず、 相手の意思を汲み取ることが大変だった	学び・メッセージ 障害者施設で働く人の 有資格者の少なさや 障害者への偏見が まだまだあるという 課題を感じた。

報告者	実施メンバー：個人 在住：東京都		
山田梨音			
社会問題 & アクション	清潔な水の確保のために、 プロジェクト寄付を行った。	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2020年1月13日	数値成果	500円
なぜこの問題 &アクションなのか 生活に欠かせない水が清潔で はない。このアクションに より、清潔な水が飲めたり、 生活に使えたりできる。	工夫したこと/達成したこと なし	困難だったこと /次回に向けて なし	学び・メッセージ 様々な社会問題があることを 知り、私にもできることが たくさんあることを知った。

関連SDGs

1 貧困をなくす



2 異性をゼロに

3 すべての人に
健康と福祉を4 賢い教育を
みんなに5 ジェンダー平等を
実現しよう6 安全な水とトイレ
を世界中に7 エネルギーをみんなに
もってリードする8 繁栄がいる
経済成長も9 農業と技術革新の
基礎をつくろう10 人や国の不平等
をなくす11 住む場所が
もちづくりを12 つくる責任
つかう責任13 気候変動に
具体的な対策を14 海の豊かさを
守ろう15 地の豊かさを
守ろう16 平和と公正を
すべての人に17 パートナーシップで
目標を達成しよう

報告者	実施メンバー：個人 在住：東京都		
中村伊希			
社会問題 & アクション	・世界一大きな授業の実施 ・学校のグローバルウィークでの 啓発活動 ・日本財団のソーシャル イノベーションフォーラムでの パネリスト ・児童労働に関する論文執筆	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年	数値成果	200人にスピーチ
なぜこの問題 &アクションなのか 少しでもいいから変える意識を持ってもらう。 (自分が買っている服が、実は児童労働で 子どもが収穫したコットンからできているのではないか等)	工夫したこと/達成したこと ・聴衆の興味関心を 引くこと ・インパクトを残すこと ・「もっと知りたい」と 言ってくれた子が いたこと	困難だったこと /次回に向けて 集客	学び・メッセージ 伝えることに意味がある

関連SDGs
1 貧困をなくそう
2 飲食をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 環の高い教育をみんなに
5 ジンジャー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 さとうこーみーじなまくでリーン
8 繁盛がいも経済成長も
9 農業と林業革新の基礎をつくろう
10 人や国の不平等をなくそう
11 洋服はみんなでつくる
12 つくる責任つかの責任
13 環境愛護に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	黒部睦	実施メンバー：個人 在住：東京都
社会問題 & アクション	<p>気候変動について、 ・全校生徒や地域のローカルクラブ所属の経営者の方々へ プレゼンとワークを実施 ・校内でSDGsチームを設立 ・Friday For Futureに賛同、 ロッカーにメッセージボードを貼る活動を拡散など</p> <p>期間 2019年8月28日～2020年2月29日</p>	<p>アクションの種類</p> <p>資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス</p> <p>数値成果 約900人にプレゼン 約50人がSDGsチームに参加 約60人がメッセージボードを貼ってくれている</p>
なぜこの問題 & アクションなのか		気候変動がこのまま進めば、災害や気温上昇、動植物の絶滅など数え切れないほど甚大な規模の被害が出てしまう。そして、貧困や飢餓、戦争にも繋がりかねない。このアクションは、多くの人に気候変動を自分事と思ってもらい、一人一人が行動を変えていくことに繋がる。
工夫したこと /達成したこと		気候変動を自分事と思ってもらえるよう、普段の生活と結びつけたワークを取り入れ、具体例も多めに話した。また、思うだけなく行動に移してもらえるよう、みんなにできるアクションの例を紹介し、それと同時にアクションを起こせる場を用意した。
困難だったこと /次回に向けて		長い時は50分もプレゼンをさせてもらう機会をもらえたので、インパクトがあって飽きずに楽しんでもらいながら地球の危機も伝える方法を考えるのは大変だったが、ワークをいくつか取り入れたり質問を投げかけたりと工夫して乗り越えた。 次にプレゼンをする際は、話す人聞く人の関係ではなく、私もオーディエンスも話す人になって、考えをより深められるようにしたい。
学びメッセージ		行動に移していないだけで、気候変動やSDGsに興味を持っている人はたくさんいること。興味や関心を持っている人を、どのようにして行動を起こせるようにするかが肝心。

報告者	今岡華、本間友麻		
	実施メンバー：複数 在住：東京都		
社会問題 & アクション	・オーストラリア森林火災募金 ・市ヶ谷外濠清掃活動 ・渋谷グリーンバード清掃活動	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
期間	2019年8月～2020年2月15日	数値成果	7,000円
なぜこの問題 &アクションなのか 自分たちが住む地球が どんどん壊れていく原因は 自分たちであり、最終的に 困るのも自分たちだから。 ゴミ拾いは小さいことかも しれないけれど、参加した人 から、プラスチックに対する 考えの変化や地球温暖化に ついて考えるきっかけになる。 環境も綺麗になる。	工夫したこと/達成したこと ・学校で同じ考えを持つ 友達や先生などと話し、 イベントやボランティア に参加している。 ・なるべく多くの人から 寄付をいただけるよう、 学校で声かけをした	困難だったこと /次回に向けて 次回は募金したりゴミを 拾ったりするだけではなく、 それを他の人も巻き込んで 一緒にやる(なるべく大人数 で)。 ポイ捨てを目の前でされたり、 タバコを捨てる人を見たり すると少し残念で心が少し 痛かった。	学び・メッセージ ・人の身勝手な行動が世界の 様々な問題に影響している、 タピオカやタバコのゴミが 多いと感じた。タバコの 路上喫煙は全面的に禁止 して欲しいなと思う。 ・自分たち次第でその状況を 良くも悪くもできるから、 環境のことについて考える 人をもっと増やしていく ことが大事だと学んだ。

報告者	杉田彩華		
	実施メンバー：個人 在住：東京都		
社会問題 & アクション	ストリートチルドレンについて 調べ、現状や自分の意見を含めた スピーチを行った。	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
期間	2020年1月17～2020年2月5日	数値成果	20人に向けてスピーチを行った
なぜこの問題 &アクションなのか ストリートチルドレン がいる原因として、 貧困が大きく関わって いるから。今回は個人 アクションだったが、 これを期に興味を 持ってくれた仲間と さらに活動できる。	工夫したこと/達成したこと パワーポイントで画像 なども使い、見やすく 工夫した。	困難だったこと /次回に向けて なし	学び・メッセージ 思っていた以上に みんなから反応があり、 自分のスピーチでも人 を動かすことが出来た と知った。

関連SDGs

- 1 貧困をなくす
2 飲食をゼロに
3 すべての人に
健康と福祉を
4 環境の教育を
みんなに
5 ジェンダー平等を
実現しよう
6 安全な水とトイレ
を世界中に
7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに
8 機会均等も
経済成長も
9 産業と技術革新の
基盤をつくろう
10 入口の不平等
をなくす
11 住み分けられる
まちづくりを
12 つくる責任
つかう責任
13 気候変動に
具体的な対策を
14 海の豊かさを
守ろう
15 地の尊さを
守ろう
16 平和と公正を
すべての人に
17 パートナーシップで
目標を達成しよう

関連SDGs
1 貧困をなくす
2 飲食をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 賢い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 穀物と一緒にみんなでアグリビジネス
8 癒しがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
10 人や国の不平等をなくす
11 自みぬけられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	加藤美和	実施メンバー：個人 在住：東京都	
社会問題 & アクション	毎週土曜日、日本に住む難民の子どもたちに日本語を教える活動へ参加しています。	アクションの種類 資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
期間	2018年10月～	数値成果 15人くらい	
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと 日本の難民受け入れ数は非常に低く、日本に来た難民の方々は社会から非難されたり、安心できるコミュニティに入れなかったりして、孤立してしまうことが多いです。この活動を通して、彼らに日本にも居場所はあることを伝え、少しでも安心して生活できる環境を作ることができるとと思っています。	困難だったこと /次回に向けて 今後も、彼らと真剣に向き合い、より柔軟に対応できるようにしたいと思っています。	学び・メッセージ 彼らは前向きで、日本語学習意欲も高いため、彼らのペースに合わせて一つ一つ丁寧に教えると、とても早く日本語を習得してくれることが分かった。
報告者	古谷理彩	実施メンバー：個人 在住：東京都	
社会問題 & アクション	フェアトレードビジネスの現状と課題点を、フェアトレード店への訪問や文献調査などで探り、同じように国際協力を志す高校生達とディスカッションを交わした。その過程を通して得た結論と今後の方策を、クラスでプレゼンした。	アクションの種類 資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
期間	2019年3月10日～2019年9月30日	数値成果 1～3年生20名にプレゼンを行い、同級生10人ほどとこの問題についてディスカッションを実施	
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと /達成したこと 今のODAなどの支援は、国益を見返りに求める、一時的なものが多いように感じている。支援する側とされる側がWIN-WINの関係になれる形をビジネスで作れれば、持続的な国際支援へ変わっていくのではないか。	困難だったこと /次回に向けて 企業として収益をあげつつ社会貢献を行うという、バランスの取り方。真に持続的なものとして、BOPビジネスに活路を見出すことで、この点をクリアにした。	学び・メッセージ 世界の中での地域間格差が問題となり、気候変動などグローバルな課題が増え続ける現代社会では、現実的にどうすれば素早く問題解決が行えるか考えなければならず、そのためには、経済や政治背景を無視せず、経済活動を見直していく必要があることに改めて気付かされた。

報告者	松井実波、仲西ひなた、鈴木梨花		
	実施メンバー：計3人 在住：東京都		
社会問題 & アクション	学校の部活やクラスで書き損じ はがきを集めるように呼びかけた。 (WE SHARE CARDS)	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
		数値成果	767円・55人に呼びかけ・13枚
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
困っている人への資金や、 助ける人が足りていないこと。 協力する人が増えれば 解決できるから。書き損じ はがきを集めることで伝染症 を防ぐワクチンを買うことが できる。	クラスや部活のLINEで 呼びかけるほかに、仲の いい人に個別にも声を かけた。	ただ集めていることを伝える のではなく、一緒に社会問題 についても詳しく説明して いきたい。	期間を一週間設け、呼びかけ も何回もしたものの、実際に 持ってきててくれた人はとても 少なかった。世界の社会問題 に対して意識している人は 自分が思っているよりも 少ない感じた。そのため、 自分がもっと詳しく理解し、 伝えていく必要があると 思った。
報告者	加藤優希子		
	実施メンバー：個人 在住：東京都		
社会問題 & アクション	耳の聞こえない人と話せるよう なりたかったので、手話で指文字 を覚えた。	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
		数値成果	なし
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
耳の聞こえない人とは 手話や筆談でしか話せ ないから。指文字が できるようになつたら、 災害などが起きた時、 耳の聞こえない人へ 情報伝達ができる。	本を買って、はやく できるように何度も 練習した。	つぎは、単語を覚えて いきたい。	ちょっと頑張るだけで 誰かが救われることを 知った。

関連SDGs

1 貧困をなくす

2 飲食をゼロに

3 すべての人に
健康と福祉を4 賢い教育を
みんなに5 ジェンダー平等を
実現しよう6 安全な水とトイレ
を世界中に7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに8 機会均等を
経済成長も9 産業と技術革新の
基盤をつくろう10 全国との不平等
をなくす11 住む場所が
まちづくりを12 つくる責任
つかう責任13 環境変動に
具体的な対策を14 海の豊かさを
守ろう15 地の豊かさも
守ろう16 平和と公正を
すべての人に17 パートナーシップで
目標を実現しよう

関連SDGs



報告者	中島美海、内田さあや、中島美晴		
	実施メンバー：計30人 在住：東京都		
社会問題 & アクション	ユニクロの子ども服ボランティアに参加し、難民の子どもたちに子ども服を寄付。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
期間	2019年9月28日～2020年1月5日	数値成果	約5,000枚
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
難民の子どもたちは、移動する際十分な荷物を持つことができないため、服は自分が着ているもののみになってしまいます。	ポスターを作成した。	服があまり集まらなかった際、学校にプリントを配布した。	1人の寄付が1人の笑顔につながる。
報告者	高橋優大		
	実施メンバー：個人 在住：神奈川県		
社会問題 & アクション	Free the Children Japanのボランティアデーに参加。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
期間：2019年12月25日		数値成果	3時間
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
これにより少しでも団体が社会問題を解決する時間が増えればと思います。	ボランティアデーに行くという行動を起こしたこと。	何から行動すればいいかわからなかつたが、そこで諦めなかつたこと。	自分にもできることがあるということを学べた。

報告者	多田健人		
社会問題 & アクション	学校内でフードロスや飢餓のワークショップを行った。	実施メンバー：個人	在住：神奈川県
		アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年10月21日	数値成果 15人	
なぜこの問題 &アクションなのか フードロスは消費者の私たちの意識の低さが原因だ、このアクションを通して、フードロスを知ってもらうことや、次に大きなアクションをする時のメンバーを少し集めることが出来た。これでより多くの人に知ってもらえる機会が増えると思う。	工夫したこと/達成したこと 明るく話して、楽しく話し合いをしてもらう。皆終わった後に楽しかった、ワークショップを開いてくれてありがとうなどの言葉を頂けた。	困難だったこと /次回に向けて 人を集めるのが大変だったので、次回は広報活動に力を入れたいと思う。	学び・メッセージ 色々な人の意見を聞くことで、とても勉強になった。

関連SDGs

1 貧困をなくす

2 飲食をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

4 算の良い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8 機会均等も経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

10 入学の不平等をなくす

11 住む場所が安全でまちづくりを

12 つくる責任つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 地域の豊かさを守ろう

16 平和公正をすべての人に

17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	井上芽映、中川優		
社会問題 & アクション	学校の近くにある、地域活動支援センターで精神障害のある方と一緒に交流をし、施設のお手伝いをさせていただきました。	実施メンバー：計5人	在住：神奈川県
		アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年12月22日	数値成果 10人	
なぜこの問題 &アクションなのか 病気や自分のことを受け入れてくれる仲間の存在が浸透しておらず、未だ差別の対象として見られている点	工夫したこと/達成したこと 精神障害を持つ方と関わることで、認識を変えることができたと思います。	困難だったこと /次回に向けて 打ち解けるのに時間がかかってしまったので、自分からもっと話しかけて、緊張させないようにしたいです。	学び・メッセージ 偏見をなくすための架け橋になれるとはないか、改めて考えさせられました。もっと地域で関わり合い、病気やジェンダーなどの差別をなくしたいと思いました。

報告者

福地彩加

実施メンバー：個人

在住：神奈川県



社会問題 & アクション	プラスチックゴミの削減に向けてSNSで発信した。動物性食品を控える生活をした。全国ユースSDGsフォーラムに参加した。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間 2019年10月22日～2020年1月21日	数値成果	SNSのフォロワー300人に伝えた。 気候問題について30人と意見交換した。

報告者

ユキアカンド

実施メンバー：個人

在住：神奈川県

社会問題 & アクション	世界にはたくさんの貧しい子どもがいます。私が留学していたバングラデッシュには、生まれた子どもを支えられないでゴミ箱に捨てる親もいました。 現地の多くの人々はこの状況を当たり前のように見ていました。 (Save the Children Bangladesh) 期間 2017年8月9日～2018年3月2日	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	数値成果 50人		

なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
	自分なりにできることを最大限にできた。 プラスチックゴミを減らしていくていると思う。	ワークショップなどを聞き、もっと周りに伝えたい。	日本では環境や食糧不足への意識が低いと思った。 これからの将来を担う若者への意識改革が必要だと学んだ。

報告者	実施メンバー：計10人 在住：神奈川県		
社会問題 & アクション	ミャンマーの子ども達と協力し、プラスチック袋削減に向けたビルマ語のポスター制作・配布、ヤンゴンの店頭・店内への掲示、SNSでの情報発信	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
		数値成果	全体で200枚配布
期間：2018年11月17日～現在			
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
ミャンマーでゴミ問題を目の当たりにし、衝撃を受けた。	私たちが英語で現地の子へ、子どもたちからお店の方々にはビルマ語で情報伝達を行った。 SNSでの情報発信は、みんなが一目でテーマがわかり、もっと知りたいと思えるような、楽しい色合いを用いた。	・英語がきちんと伝わっているかわかりにくかった。 ・お店の許可取りや、レジ袋を使っていそうな店の見極めにも時間がかかった。 ・現地滞在中の2拍3日の間で実施したので、結果を実際に確認できていない。	個人の発信力はとても小さいが、みんなに「知ってもらう」→「興味を持ってもらう」→「実際に行動したいと思える様になる」というステップが踏めれば、大きな力になりうることに気が付いた。何かしたい！と思っていても行動に移せなかつた自分を変えることができた。

関連SDGs

1 貧困をなくす

2 健康をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

4 算の良い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8 持続可能な経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

10 入口の不平等をなくす

11 日本を元気なまちづくりを

12 つくる責任つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

14 温かい水を守ろう

15 緑の豊かさを守ろう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	実施メンバー：計2人 在住：神奈川県		
社会問題 & アクション	校内で行われた、英語でプレゼンする会で、自分が現代社会で1年間研究してきたテーマ（児童虐待）とSDGsを関係させたプレゼンを行った。	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
		数値成果	約70人
期間：2020年1月30日			
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
今回の発表を通して、私たち若者にも虐待防止や早期発見など、できることがたくさんあることを伝えた。虐待を自分事としてとらえるようになると、いう変化につながると考えている。	高校生だけではなく、中学生や、英語科以外の先生方もいらしたので、わかりやすい英語、わかりやすいスライドでプレゼンを行った。聴衆から好反応を得ることができた。	もっと大人数の前で行いたい。	虐待は一見他人事のようにも思われるが、深く考えれば自分事であるし、自分にも起こせるアクションがあるということ。

報告者

麗澤高等学校

実施メンバー：計38人

フェアトレードコーヒー＆レモネードスタンド有志活動

在住：千葉県

高野愛莉、津田尚人、谷崎るり香、森望海、稻田咲耶、本田菜々、川崎梨乃、瀧村尚也（教員）、増井都（教員）

関連SDGs



- ・小児がん研究の支援のための
レモネードスタンド実施
- ・フェアトレード商品の販売

資金支援・物資支援・ボランティア

自己行動変革・啓発活動・アドボカシー
ソーシャルビジネスアクション
の種類レモネードスタンド売上
320,355円
フェアトレード取引した豆の金額
150,677円

数値成果

期間：2018年9月～現在

社会問題
&
アクションなぜこの
問題&
アクション
なのか工夫した
こと
/達成した
こと困難
だったこと
/次回に
向けて学び
メッセージ

(レモネードスタンド)

症例数の少ない小児がんは現在、他のがんに比べて研究が進んでいません。そのため、研究への支援が必要です。私達はレモネードを販売することで集めたお金を見付し、小児がん研究の支援を行っています。

(フェアトレードコーヒー)

現在市販されているフェアトレードでないコーヒーのほとんどは、支払われた代金を中間業者に搾取されています。そのため発展途上国の生産者の方に正当な給与が払われていません。その状態を改善するための方法の一つとして、フェアトレードコーヒーを適正価格で購入し、販売しています。

(レモネードスタンド)

より多くの人に興味を持ってもらえるよう、活動についてのパンフレットを作成、配布しました。その結果、2018年9月から11回開催し、合計で約30万円を集め、寄付することができました。

(フェアトレードコーヒー)

少しでも楽しんでいただくために、お客様の目の前でハンドドリップで淹れています。2018年11月から10回開催し、出た利益はフェアトレードとレモネード両方の活動資金に充て、順調に活動を進めています。

生徒主体で運営しているので、勉強や部活が忙しい中で活動していくことがとても難しかったです。また、お金の管理やシフトの作成など初めてのことばかりだったので、試行錯誤の毎日でした。それでもみんなで助け合い、先生方からもたくさん助言を頂いて活動することが出来ました。今後は、リーダーだけでなく一人ひとりがより責任を持って活動していくよう改善したいです。

これらの活動を通して、中高生でも社会を少しずつ良くできるのだと感じました。私達はお金も権力も大して持っていない。しかし、皆で力を合わせメンバーの募集やパンフレットの作成などたくさんの困難を乗り越え、多くのお金を集められたことは私達の大きな自信に繋がりました。小児がん支援のレモネードスタンドを始めたアメリカの小児がんの女の子、アレックスも「もし人生が酸っぱいレモンをくれるなら、それで甘いレモネードを作ればいいのよ」という言葉をのこしています。この言葉の通り、私達は甘いレモネードを作り出す力を持っているのだと言ふことを活動を通して学ぶことが出来ました。これからも、協力することで社会を少しずつ良くしていきたいと思っています。

報告者	実施メンバー：計2人 在住：千葉県		
社会問題 & アクション	チラシによるSDGsの広報活動	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
		数値成果	100人にチラシを配り、掲示
期間：2020年2月20日～2月29日			
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
現状、SDGsを知らない人が 多くいることも事実です。 知らなければ行動することは 不可能です。そこで、私達 現役女子高生だからこそ の視点から興味を持って もらえるようなチラシを作り、 行動のきっかけを作れるよう にしました。	年頃の私達は幼い頃の ように綺麗事では行動が できない人が多くいます。 真っ直ぐに社会を見つめる ことも難しいです。それを 踏まえ、同年代だからこそ の視点でチラシをつくりました。	同世代の子たちが、綺麗事 では動かないと分かって いても、そこからどうする べきか見出しがとても 難しかったです。アイドル など、みんなが好きなところ からアプローチしました。	人に興味を持たせる事の 難しさを改めて痛感しました。 どうしたら手に取って もらえるか、どうしたら最後 まで読んでもらえるのか。 もっともっと成長させられる と感じました！

関連SDGs

1 貧困をなくす

2 飲食をゼロに

3 すべての人に
健康と福祉を4 賢い教育を
みんなに5 シューダー平和を
実現しむ6 安全な水とトイレ
を世界中に7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに8 繁栄がいる
経済成長も9 産業と技術革新の
基盤をつくろう10 人間の手平等
をなくす11 日本銀行が作る
まちづくりを12 つくる責任
つかう責任13 気候変動に
具体的な対策を14 生の豊かさを
守ろう15 陸の豊かさも
守ろう16 平和と公正を
すべての人々に17 パートナーシップで
目標を達成しよう

報告者	実施メンバー：計3人 在住：千葉県		
社会問題 & アクション	Sustainable Game主催のSDGs 関連イベントに参加。その活動を 学校やSNSで拡散。	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
		数値成果	12人
期間：2020年1月1日～年2月14日			
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
環境問題の解決には 個々の意識が重要で、 それを高めるには、 まず知ることが必要。 そのために活動を 広めたいと思い行った。	自分達がいかに楽しみ ながら活動を行って いるか伝える事で 親近感や好奇心を 持たせるようにした。	「意識高い系」で 一括りされるため、 もっと違いを出したい。 WE Dayはその為に 最適だと思った。	人1人の力は予想以上

関連SDGs



報告者

小川航、塩瀬雅、田原綾乃、岡本あすか

実施メンバー：計4人

在住：千葉県

まだまだSDGsへの知識が不足していると日々実感してあり、まずは知識を増やそうと考え、講演会に参加しました。

社会問題
&
アクションアクション
の種類

資金支援・物資支援・ボランティア

自己行動変革・啓発活動・アドボカシー
ソーシャルビジネス

数値成果

なし

期間：2020年2月1日

なぜこの問題
&アクションなのか

工夫したこと/達成したこと

困難だったこと
/次回に向けて

学び・メッセージ

今の若者は世界に目を向けてられないないと感じている(特に日本)。そんな中、世界はグローバル化している。そこで、若者に世界に目を向けるよう呼びかけた。

「自ら」を大事にした。自分でチャンスをつかんで、自分で行動し、自分で報告する。

やはり「人だ」ということは大変なことが多い、一方で自立、成長といった大きな利点もある。今後はもっと活発に動けるような人材になる。

動いてなんば。

報告者

西島和来

実施メンバー：個人

在住：千葉県

課題発見dayplusに参加し、その内容や感想(人や国の不平等と、難民支援が足りないこと)をFacebookにシェアした。

社会問題
&
アクションアクション
の種類

資金支援・物資支援・ボランティア

自己行動変革・啓発活動・アドボカシー
ソーシャルビジネス

数値成果

20人

期間：2020年2月11日

なぜこの問題
&アクションなのか

工夫したこと/達成したこと

困難だったこと
/次回に向けて

学び・メッセージ

母国から、危険を逃れて避難してきたのに、避難先の国で不自由が多く、格差が生じることが問題である。イベントに参加していない人やこの問題を知らなかった人へ発信することで、問題意識をもってもらう。

2つのSDGsの問題を関連づけ、両立できる案を考えられた。オンラインで支援でき、どこでも1にならないようなサービスを考案した。イベント終了後、その日のうちに文章を考えて、素早くアウトプットに繋げられた。

なし

SDGsは、どれか一つではなく、すべて達成させてこそるものであるということ。

報告者	実施メンバー：計5人 在住：千葉県		
社会問題 & アクション	<p>幼老複合施設に行って、施設の方のお話を聞いた。そして、学校の文化祭で、幼老複合施設についてプレゼンを行った。</p> <p>アクションの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> 資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス 		
期間	数値成果	50人	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
高齢者がより気持ちよく毎日を過ごせるようになる。大人がより安心して子どもを育てられるようになる。	問題を知らない人にも分かってもらえるようにした。	一度発表した際にあがった指摘を素直に受けとめ、施設を実際に訪問してもう一度考え直すことで、よりよく伝わるプレゼンを目指した。	自分はまだまだ何も知らないということを学んだ。だからこそ、謙虚な姿勢でさまざまな活動に挑戦し続けたい。

報告者	実施メンバー：計11人 在住：愛知県		
社会問題 & アクション	<p>気候危機、気候正義を訴えるために、Fridays for Future名古屋のメンバーとして、マーチを準備・実行しました。</p> <p>アクションの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> 資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス 		
期間	数値成果	なし	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
気候危機は急激に加速はしないかもしれません、残念ながら行動を起こす人が少ないです。そこで、私たちFFFがマーチを行い、気候危機を訴えることで、より強く意識させ、行動まで変化が現れるように努めています。	SNSや広告を使って拡散しました。	認知度があまり上がりず、参加者が少なかった。イベントやミーティングを増やし、参加者を増やしていきたい。	実際にアクションに起こすことの大切さ

関連SDGs



関連SDGs
1 貧困をなくす
2 飲食をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 箱の高い教育をみんなに
5 ジンジャー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 さとうこーいみらいとしてリーンに
8 繁栄がいる経済成長も
9 農業と林業革新の基礎をつくろう
10 人や国の不平等をなくす
11 住み分けられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任
13 究極変動具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 土の豊かさも守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	西山愛莉	実施メンバー：計4人 在住：滋賀県（カナダ留学中）
社会問題 & アクション	留学先のクラブ活動の一環として ・付箋に自分の好きな所を一つ書き 出して模造紙に貼る ・日本の禅の部屋を作り、現地生徒に 自分を見つめ直す機会を設ける ・自分を大切にすることの大切さに 関するゲスト講演会実施 ・ブレスレットを学校と、学外の カフェなどで販売する募金運動 をしました。	アクション の種類 資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年11月4日～11月8日	数値成果 300C\$（カナダドル） (期間中のレート：約82円/C\$) 500人
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて
私たちちは自死の原因を、 心が健康でないためと 考えました。「あなた は一人ではない」と いうことと、自分の 大切さを学生達に 改めて気づいてもらう ことができました。	I日限りにすると、す ぐ忘れられてしまう可 能性があるので1週間、 毎日違う活動を行って ことで重大さに気付いて もらえる様に心掛けま した。	ゲスト講演依頼に苦労 しました。粘り強く、 活動の意義・目的を伝 え、ゲストの方にも ご理解いただき、 ご講演いただくことが できました。
実施メンバー：個人 在住：三重県	井上和奏	学び・メッセージ
社会問題 & アクション	コンビニなどで買い物をした時 のお釣りの一部を募金する。	アクション の種類 資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年5月31日～2020年2月13日	数値成果 約2,000円
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて
私たちが住む地球で 起こっている事なのに、 テレビで豪州森林火災 があまり取り上げられ なかった。 小さなアクションだが、 環境問題に興味を持ち、 未来を考えるきっかけ になった。	ただ募金箱が置いて あるからお金を入れる のではなく、その募金 は何に使われるのか、 なぜ必要なのかを考え、 募金した。	募金をするだけで、 自分は何も行動を 起こせていないので、 実際に行動に移したい。
学び・メッセージ		今起きている環境問題 を知ることが、環境 問題を解決する第一歩 だと思った。

報告者	大阪府立成城高等学校 定時制課程 森屋 翔太郎（教員）		実施メンバー：計21人 在住：大阪府
社会問題 & アクション	1年を通して、SDGsの17の目標を全て勉強し、それぞれのゴールで、どういった考え方や行動ができるか生徒それぞれが考えた。ゴール13を学んだ際、捨てられたうちわを再利用し、オリジナルのうちわを作成した。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年4月1日～2020年1月31日	数値成果	20～30枚
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
年々各地で気温が上昇している。小さなことかもしれないが、エアコンの温度の設定を考え、猛暑日が続く日は熱中症対策になる。	捨てられていたものを再利用し、自分用にうちわを作ることで、生徒達も積極的に活動を行った。	使用時期が限られる物だったので、次回はより幅広く活用できる物を考えたい。 また、今年度は初めての活動だったので、次年度はさらに多くの生徒と、教員と協力して活動したいと思う。	先進国である日本にいるだけでは、途上国の問題を親身になって考えることは簡単ではなかった。 教員の私にはなかった発想が生徒から生まれるなど、生徒の理解にもつながった。

関連SDGs

- 1 貧困をなくす
- 2 飲食をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 賢い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 繁栄がいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人を含む生物多様性を保全する
- 11 自然を持続的にまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 土の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者

市川侑奈

実施メンバー：計2人

在住：三重県

関連SDGs
1 貧困をなくす
2 飲食をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 箱の高い教育をみんなに
5 ジンジャー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 さとうこーくみんなでまとめてリーンに
8 働きがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
10 人や国の不平等をなくそう
11 自み抜けられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 地域の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

「カカオ豆からグローバル」をテーマにNPO「INAANZA MIE」を設立、以下の活動を行う。

- ・地域の小学生を対象に、カカオ豆からチョコレートを作るワークショップの実施（カカオ豆生産国（ウガンダ）の子どもたちへネット配信）
- ・地域のスイーツ店と協力し、カカオ豆と地元の食材を合わせたチョコレート商品を開発

期間：2019年6月～

アクションの種類

資金支援・物資支援・ボランティア
自己行動変革・啓発活動・アドボカシー
ソーシャルビジネス

数値成果

調達金額：計105,000円
プレゼンした人数：計180名
ワークショップ参加人数：20名

社会問題
&
アクションなぜこの
問題&
アクション
なのか

国際協力について=かわいそだから支援するという考え方ではなく、支援国との間に相互的なパートナーシップを作ることにつながらない。今ある問題をどうすれば解決できるか、支援する国と支援を受ける国がお互い考えていくことで持続可能な国際協力につながる。地域の活性化=地元だけでなく国際的な視野を持った商品の開発が、地域の活性化だけではなく、ひいては多様性を受け入れる社会形成につながる。

工夫したこと
/達成したこと

高校生ができる支援とは何か考えたこと。
チョコレートワークショップを行うために、何回もチョコレートの試作を行ったこと。
カカオ豆生産国の一であるウガンダ共和国でカカオ豆農園経営者に現地の様子を教えてもらったこと。
活動資金を集めるためにクラウドファンディングを行ったこと。
目標金額30,000円に対し90,000円の支援をもらえたこと。
※事務局補足：上記調達金額は、これに三重県からの支援金15,000円を合算しています。

困難
だったこと
/次回に
向けて

- ・機械を使わずカカオ豆をすりつぶす作業が大変で、何時間もかかったこと。
- ・カカオ豆生産国（ウガンダ共和国）へ高校生が行くための調整。（現在ウガンダ共和国のカカオ豆農園の方や大使館と連絡を取って交渉中）
- ・地域の小学生に行うチョコレートワークショップの取り組みを全国的に広めるにはどうしたらよいかを考えていきたい。

学び
メッセージ

国際協力は難しい！重たすぎる課題だ！高校生にできるのか？といった不安を吹き飛ばし、まずは何かを始めてみる。そうすることでいろんな人とつながっていく。高校生だからこそできることがたくさんあるのだということ。地域社会とつながっていくこと、遠いと思っていたカカオ豆生産国（ウガンダ共和国）は実は遠くないこと。色々な人とつながることで国際協力がぐっと身近に感じられたこと。

報告者	中尾光希、大櫃摩尋、浅見悠河			実施メンバー：計3人
				在住：鳥取県
社会問題 & アクション	鳥取砂丘から海にかけて落ちて いるゴミを拾い、海洋ごみの増加 を防いだ。	アクション の種類	自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	資金支援・物資支援・ボランティア
	期間：2019年4月14日～4月21日	数値成果	ゴミ30kg	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
ゴミを間違えて食べた魚や、 それを食べる鳥や人間などの 影響が問題視されている。 小さな行動で、これらを少し でも防げると考える。	I人10キロを目標として、 鳥などの口に入る位の 大きさのゴミを拾うよう 心がけた。	砂に埋まっている小さなゴミを探 すことが大変だったが、 大きなゴミの近くによく 落ちていることに気づき、 砂に埋まっているゴミも拾う ことができた。 また、3人で同じ所を探して いたため、次回はばらけて ゴミを探そうと思う。また人 員も増やしたい。	・少しの力でも、終わって みたら達成感があり、国内 でもこうした活動を広めて いけば環境問題に大きく 貢献できると思った。 ・身近にも環境汚染が及んで いることを改めて感じた。 そして、環境汚染対策が まだまだ不十分であり、 私達若い世代が働きかける ことが大切だと思った。	
報告者	大川藍			実施メンバー：計6人
				在住：鳥取県
社会問題 & アクション	『NHK ディレクソン in 鳥取』に 参加し、優勝しました。番組制作 にも携わり、実際に全国でも放送 されました。	アクション の種類	自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	資金支援・物資支援・ボランティア
	期間：2019年6月15日～7月21日	数値成果	イベント参加者50人 不特定多数の視聴者	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
人口が減ると、税収が 減り、今住んでいる 人達や、これから住む 人達が住みにくい環境 になってしまう。住め ない土地になると、 そこにあった文化や 伝統も同時に失われて しまう。	関心をもってもらい やすいように、「取鳥 じゃないで！」（とる とりじゃないで）と、 鳥取の名前ネタを タイトルにつけました。	なし	なし	

関連SDGs

- 1 貧困をなくす

- 2 畜産をゼロに

- 3 すべての人に
健康と福祉を

- 4 賢い教育を
みんなに

- 5 ジェンダー平等を
実現しよう

- 6 安全な水とトイレ
を世界中に

- 7 エネルギーをみんなに
もってグリーンに

- 8 機会均等を
実現しよう

- 9 農業と技術革新の
基盤をつくろう

- 10 入出国の不平等
をなくす

- 11 自然資源を
よりつくりき

- 12 つくる責任
つかう責任

- 13 環境変動に
具体的な対策を

- 14 海の豊かさを
守ろう

- 15 地の豊かさも
守ろう

- 16 平和と公正を
すべての人々に

- 17 パートナーシップで
目標を実現しよう


報告者

山本卯多

実施メンバー：計13人

在住：鳥取県



社会問題 & アクション	使われなくなった保育園の利活用検討委員会に所属しています。どうしたら自分の地域を活性化することができるのか考え、若者ならではの意見を出しています。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年7月28日～現在		数値成果 なし



報告者

竹森奏視

実施メンバー：計4人

在住：鳥取県

社会問題 & アクション	水を必要としている地域の人々に、きれいな水を持続的に使える環境を提供するボランティアをしたいと考え、一人が一生暮らすために必要な水を確保するのに必要な資金2,500円を寄付した。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年12月20日		数値成果 2,500円

なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
	新しい発想やアイデアを出すことをしました。		新しいことをすることは大変ですが、何かを変えたいと思ったら自分から動くしかないということに気づきました。私はもともと消極的な性格だったので、活動していくうちに積極的に動けるようになりました。私はこの活動を通して自分から動くことの大切さを学びました。

なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
	だだお金を見付けるだけではなく、その目的まで知ること。		周囲に協力を得る為にWE Dayについて知ってもらい、共に活動し始めることに苦労したが、仲間が集まった。次回からはもっとグループメンバーを増やして活動の幅を広げたい。

報告者	実施メンバー：計7人 在住：鳥取県		
社会問題 & アクション	世界の貧困や社会問題について 学び、授業内で発表した。	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年10月1日～12月19日	数値成果	40人にスピーチを行った
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
貧困のため、一部の 子ども達は教育を満足 に受けられず、大人に なっても自立が難しく なってしまう。	今回アクションを 起こしたことで、 自分達の、貧困に 対する意識と考え方が 変わった。	クラスのみんなに 伝わりやすく、かつ 問題を身近に感じて もらえるよう、発表を 工夫すること	世界の貧困は思って いたよりも近くで 起こっていた。私達と 同年代の子ども達が、 学校に通えず、満足に 教育を受けられて いない現状があること を学んだ。

関連SDGs

1 貧困をなくす



2 性別をゼロに

3 すべての人に
健康と福祉を4 環境の高い教育を
みんなに5 ジェンダー平等を
実現しよう6 安全な水とトイレ
をみんなに7 エネルギーをみんなに
もってリードに8 繁栄がいる
経済成長も9 産業と技術革新の
基盤をつくろう10 入れの不平等
をなくそう11 住み分けられる
まちづくりを12 つくる責任
つかう責任13 気候変動に
具体的な対策を14 海の豊かさも
守ろう15 地の豊かさも
守ろう16 和平と公正を
すべての人々に17 パートナーシップで
目標を実現しよう

関連SDGs 	報告者	高本千咲	実施メンバー：計3人		
	社会問題 & アクション	アクション の種類	在住：鳥取県		
	令和元年度鳥取県高校生英語弁論大会に出場し、地球環境問題に対する、日本の政治の取り組み方について訴えました。	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス			
	期間：2019年8月10日～9月28日				
	なぜこの 問題& アクション なのか	政治は国を大きく動かすことが出来ます。しかし、政治家が地球環境問題ときちんと向き合って対策をしなければ一向に解決することはありません。私たちが地道に省エネな生活をするだけでは抑えられないスピードで環境破壊、それに伴う地球温暖化は進んでいます。私のアクションを通して、1人でも多くの方が投票するようになり、また若者が今地球に起こっていることを把握しようと考えられる機会になれば良いなど考え、この英語弁論大会に参加しました。			
	工夫した こと /達成した こと	どういった表現の仕方をすれば、皆さん的心に内容が響くのかを常に考えて練習していました。ジェスチャー、声の抑揚の付け方などをとても意識しました。 大会が終わったあとは、他校のALTの方々に「聞いていて心が奮い立たせられた」と褒めていただけました。			
	長い弁論内容を覚えることに苦労しました。				
	困難 だったこと /次回に 向けて				
	もっと沢山の人に地球環境問題について考えて欲しいとより強く思うきっかけになりました。				
	学び メッセージ				

報告者	実施メンバー：計5人 在住：埼玉県				
社会問題 & アクション	<p>カナダに行った際、WE (フリー・ザ・チルドレン本部) の事務所に行き、世界の貧困など についてインタビューをした</p> <p>期間：2018年10月～2019年3月</p>				
	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス			
	数値成果	10人にインタビュー			
報告者	実施メンバー：計2人 在住：埼玉県				
社会問題 & アクション	<p>レジ袋を断る</p> <p>期間：2019年7月20日～2020年2月22日</p>				
	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス			
	数値成果	2人			
報告者	実施メンバー：計2人 在住：山梨県				
社会問題 & アクション	<p>小学生向けに英語講座を行った。</p> <p>期間：2019年8月3日～2020年1月</p>				
	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス			
	数値成果	30人			
報告者	実施メンバー：計4人 在住：東京都				
社会問題 & アクション	<p>BE Frontierという団体を設立し、 高校生がお互いの「好き」について自由に語り合い理解を深め合う、あるいは新しい価値観に触れる場をイベントを通して提供した</p> <p>期間 2019年9月1日～2020年2月10日</p>				
	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス			
	数値成果	30人			

関連SDGs



報告者

**都立国際高等学校 国際協力ボランティア同好会 実施メンバー：計100人
鈴木りゆか、須田麻瑚、瀬在和佳、林聖夏 在住：東京都**



レモネードスタンド実施、フェアトレード商品の販売、古本募金への協力、幅広い分野のNGO・NPO法人の方々を学校にお招きして、校内での講演会を開催、JICA地球ひろばを定期的に訪問し国際協力への理解を深める、赤十字主催の老人ホームでのボランティア、福祉障害施設で開催された祭の手伝い、高校生ボランティアアワード出場など

期間：2016～2019年

アクションの種類

資金支援・物資支援・ボランティア

自己行動変革・啓発活動・アドボカシー

ソーシャルビジネス

数値成果

高校生ボランティアアワードで全国10位を獲得
300人以上に活動成果を発表

報告者

村木玲菜

実施メンバー：計5人

在住：東京都

年賀状の時期に間違えてしまったハガキを捨てずに郵便局に提出しました。

アクションの種類

資金支援・物資支援・ボランティア

自己行動変革・啓発活動・アドボカシー

ソーシャルビジネス

数値成果

葉書30枚

報告者

斎藤紅里

実施メンバー：計41人

在住：東京都

フェアトレード商品開発
バナナペーパー推進活動
タンザニアの教育支援

アクションの種類

資金支援・物資支援・ボランティア

自己行動変革・啓発活動・アドボカシー

ソーシャルビジネス

数値成果

期間：2019年7月24日～現在

報告者

河原睦起

実施メンバー：個人

在住：東京都

バンコク、チェンライ、ベトナムの孤児院で、建築や日本語教育、英語学習、畠仕事の手伝いなどのボランティアを行った。帰国後も日本のラーメンや便利グッズを送った。

アクションの種類

資金支援・物資支援・ボランティア

自己行動変革・啓発活動・アドボカシー

ソーシャルビジネス

数値成果

5,000円、60人

報告者	実施メンバー：計2人 在住：東京都		
社会問題 & アクション	FTCJメルマガ登録 アクションの種類 資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス		
期間：2020年1月5日	数値成果		
報告者	実施メンバー：個人 在住：東京都		
社会問題 & アクション	環境問題を取り上げ、日常生活で すぐ実践できるアクション交流会 の実施。		
期間：2019年7月～12月	数値成果	77人	
報告者	実施メンバー：複数 在住：東京都		
社会問題 & アクション	募金、グリーンバード (ゴミ拾い)		
期間：2019年2月5日～2月15日	数値成果	100円	
報告者	実施メンバー：計15人 在住：東京都		
社会問題 & アクション	滋賀県で葦狩りボランティア、 WWFの活動に参加		
期間：2019年6月～現在	数値成果	1,354円	

関連SDGs

1 貧困をなくす



2 就業をゼロに

3 すべての人に
健康と福祉を4 賢い教育を
みんなに5 ジュニア平等を
実現しよう6 安全な水とトイレ
を世界中に7 エネルギーをみんなに
もってリードに8 繁栄がいる
経済成長も9 産業と技術革新の
基盤をつくろう10 人や国の不平等
をなくす11 日本語を世界
に広げよう12 つくる責任
つかう責任13 気候変動に
具体的な対策を14 海の豊かさを
守ろう15 地の豊かさを
守ろう16 平和と公正を
すべての人々に17 パートナーシップで
目標を達成しよう

関連SDGs	
1 貧困をなくす	
2 働きをゼロに	
3 すべての人に健康と福祉を	
4 質の高い教育をみんなに	
5 ジェンダー平等を実現しよう	
6 安全な水とトイレを世界中に	
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	
8 働きがいも経済成長も	
9 産業と技術革新の基礎をつくろう	
10 人や国の不平等をなくす	
11 住み続けられるまちづくり	
12 つくる責任つかむ責任	
13 気候変動に具体的な対策を	
14 海の豊かさを守ろう	
15 陸の豊かさを守ろう	
16 平和と公正をすべての人に	
17 パートナーシップで目標を達成しよう	

報告者	中川優		
	実施メンバー：複数 在住：神奈川県		
社会問題 & アクション	障害者施設でパフォーマンスをしたり、一緒に工作などをしたりした。	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年12月17日～12月18日	数値成果	45人とワークショップを実施
報告者	中村瑞葵、谷田陽香		
	実施メンバー：計2人 在住：神奈川県		
社会問題 & アクション	論文作成 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンへのインタビュー 女性の人権に関する発表	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間 2018年2月15日～2019年1月28日	数値成果	300人の前で発表
報告者	柳澤杏佳		
	実施メンバー：計4人 在住：神奈川県		
社会問題 & アクション	家庭内でのペットボトルキャップ回収	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間 2019年1月1日～2月29日	数値成果	5kg
報告者	高木優里、北原七海		
	実施メンバー：計4人 在住：神奈川県		
社会問題 & アクション	募金を高校生に根付かせる取り組みを考え、フードロス問題についても取り組み、校内で発表した。	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間 2019年6月8日～2020年2月22日	数値成果	中3（後輩）にスピーチ

報告者	高橋由衣		
	実施メンバー：計4人 在住：神奈川県		
社会問題 & アクション	学校内での古本、CDなどを回収、難民支援協会へ寄付	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年1月21日～22日	数値成果	5,672円
報告者	市川高等学校 有志グループ		
	実施メンバー：複数 小野田美陽、佐藤翔、西原凪、森田輝、村井陽香、鈴木花緒、瀧美羽、浮津有紗 在住：千葉県		
社会問題 & アクション	学校で不要な体操服や鞄を回収、モンゴルとタンザニアへ寄付（送料も書き損じ葉書で調達） 文化祭でフェアトレード商品販売（ポスターによる活動報告も実施） 千葉大学次世代スキップアッププログラムで活動報告 自作募金箱を購買や学園ショップに設置、おつりの募金を募った FTCJチョコレートプログラムに参加（小野田、村井、東中）	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2018年12月～2019年9月	数値成果	調達総額：116,895円 回収した体操服・鞄：約200kg
報告者	池成彩華		
	実施メンバー：個人 在住：鳥取県		
社会問題 & アクション	TOTTORI START UP CAMPで、鳥取県内の地域課題を解決する事業プランを考え、ブラッシュアップした。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年10月5日～10月6日	数値成果	なし
報告者	吉里柚波		
	実施メンバー：個人 在住：島根		
社会問題 & アクション	Toshiba Youth Club Asiaに参加し、SDGsについてASEAN諸国の高校生と一緒に考えた。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年12月22日～12月29日	数値成果	なし

関連SDGs



報告者

田中里奈

実施メンバー：個人

在住：福岡県

関連SDGs	
1	貧困をなくす
2	飢餓をゼロに
3	すべての人に 健康と福祉を
4	質の高い教育を みんなに
5	ジェンダー平等を 実現しよう
6	安全な水とトイレ を世界中に
7	エネルギーをみんなに そしてクリーンに
8	働きがいも 経済成長も
9	産業と技術革新の 基礎をつくろう
10	人や国の不平等 をなくそう
11	住み続けられる まちづくりを
12	つくる責任 つかう責任
13	気候変動に 具体的な対策を
14	海の豊かさを 守ろう
15	陸の豊かさも 守ろう
16	平和と公正を すべての人に
17	パートナーシップで 目標を達成しよう

社会問題
&
アクション

中学当時からマイクロプラスチックゴミについて探求。高校に入り、拓殖大学のSDGsに関する作文コンクールで奨励賞受賞&学生団体に加入。2020年春にマイクロプラスチック問題に関するワークショップを主催する準備を進めている。

期間：2017年～

アクション
の種類

資金支援・物資支援・ボランティア

自己行動変革・啓発活動・アドボカシー
ソーシャルビジネス

数値成果

60人程度

ACTION REPORTS

-大学生・社会人の部-

TOGETHER
WE CAN!

関連SDGs

報告者
(大学生)

松本詩歩

実施メンバー：計12人



貧困からくる食料不足が飢餓を招き、逆に豊かな地域で生じる無駄なフードロスという社会問題。

NPO団体ハンガーフリーワールドさんの青少年支部 (Youth Ending Hunger)として、小学生から大学生を対象に、世界の飢餓の現状についての啓発活動を行った。飢餓について知ることで、普段食に恵まれている日本人が感じないであろう食のありがたさ・大事さをワークショップを通じて伝える。

期間：2018年10月31日～2019年11月17日

アクション
の種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

70人に啓発活動

なぜこの
問題&
アクション
なのか

9人に1人が飢餓という状況であるが、食料が足りていないわけではない。生産されている食料の3分の1は捨てられている。また、食べ物を廃棄することによってコストがかかるだけでなくCO2排出という環境問題にも影響を及ぼしている。だからこそこの現実を知り、無駄なフードロスを個人が減らす意識をもつことで少しでも改善され、食の問題だけでなく環境問題の解決に繋がる。

工夫した
こと
/達成した
こと

啓発活動を行う対象の年齢によってワークショップの内容や、言葉遣いを変える工夫をした。いかにわかりやすく、しかし問題の深刻さを伝えるためにどうしたらよいか考えていた。また、飢餓について興味がある人は少なく、どうしたら惹きつけることができるかを工夫した。展示の場合は写真を多用することで視覚的イメージをつかみやすくした。ワークショップでは理解の補助として動画を用いたことにより小学生からも理解を得ることができた。

困難
だったこと
/次回に
向けて

人がどう問題について思っているのか、考えているのかというのは実際に話してみると何もわからないということ。そして、たくさんの人から意見を聞くことで意外にも多くの人が問題について考えているとわかる。これらはとにかく人と関わり合うことで知れることなので、私は多くの出会いと関わりが大事だとアクションを通じて学んだ。

学び
メッセージ

報告者 (大学生)	藤田怜奈	実施メンバー：計12人
社会問題 & アクション	<p>貧困から生まれる食に対する知識の欠如、 食糧不足</p> <p>インドネシアの現地のフードバンクのボランティア活動に参加して、インドネシアのスラム街に赴いて貧しい人々にお弁当を作つて配布。</p> <p>離島に住む島民に向けた栄養教育。 小中学校で栄養教育と衛生教育。</p>	
	期間：2019年8月1日～2019年8月31日	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	20kgのお弁当を配布	
なぜこの 問題& アクション なのか	栄養に対する十分な知識がなければ、栄養不足につながりかねず大病を起こす可能性が高まり結果的には死につながるため、命を落とすまでの大きな問題になりうる。新しい栄養に関する知識を得ることで、それを機に栄養に対して興味を少しずつ持つようになる。そして知り、実際に行動におこしていくことで他の人々を巻き込むことができる。	
工夫した こと /達成した こと	インドネシアの人の食生活を調べた上で、何処の部分が課題か、それをどのように改善出来るように教育できるか構想を考えたこと。 ボランティア活動ではお弁当を配るだけでなく実際家事のお手伝いをしたりその人と話して向き合い一人ひとりにアドバイスができるように心がけたこと。	
困難 だったこと /次回に 向けて	スラム街だったので、匂いがやはり少しストレスになった。マスクをするなどして乗り越えた。現地の人がインドネシア語から英語へ翻訳してくれたのだが、うまく訳しきれずコミュニケーションがなかなかスムーズに行かなかった。ボディーランゲージなどを使ってなるべく負担にならないようにした。インドネシア語の学習も必要。	
学び メッセージ	スラム街の概念が変わった。いままではせいかつすることもままならず、そうした生活環境であることから心にゆとりもないとおもった。でも実際現地の人と話してみて、彼らは彼らなりに努力して今の現状を打破しようとしていること、生計もそれなりにきちんと成り立っていること、人を思いやる気持ちを常に持って熱心に直向きにいきていたこと。	



関連SDGs
1 貧困をなくす
2 食糧をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
5 ジンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 太陽エネルギーみんなでたくましく使う
8 繁栄がいも経済成長も
9 建築と都市革新の基礎をつくる
10 人や国の不平等をなくす
11 住み分けられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任
13 生態変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 地の豊かさも守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者 (大学生)	明治大学商学部 小林尚朗ゼミナール 上野謙太郎、小川拓真、イムユンテク	実施メンバー：計27人
社会問題 & アクション	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困問題 ・日本のフェアトレード認知度の低さ <p>⇒フェアトレード・スポーツ教室の開催</p>	
	期間：2019年12月8日	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	小学生と保護者とスタッフの約120人に講義 そのうち約60人の子供にサッカー教室を開催	
なぜこの 問題& アクション なのか	不当な賃金労働や児童労働によって、生産者が十分な生活を送ることができていないから。このアクションは、楽しみながら世界の現状を知ってもらい、少しでもフェアトレードというものを知ってもらい、消費者行動を変えるきっかけを与えることができた。	
工夫した こと /達成した こと	ただの講義にするだけでなく、サッカー教室を催することで楽しんでもらえるように工夫した。フェアトレードというものを広めることができた。	
困難 だったこと /次回に 向けて	子供にもわかりやすく噛み碎いて説明することが難しかった。身近な有名サッカー選手も昔はとても貧しかったなどの話題を入れることで理解してもらえた。ボールがもらえなくて泣き出した子がいたので、次回行うとしたら、協賛を募りできるだけフェアトレードのお菓子などのプレゼントを増やす。全員が何かもらえるようにするなど。	
学び メッセージ	あれだけの人数の大人がいたにもかかわらず、フェアトレードの知名度はかなり低かった。しかし、学んだ後ではかなり興味を示していただけたので、ますますこのような活動を増やすことで、認知度を高め、消費者行動を変えることができると思った。	

報告者 (大学生)	Youth Volunteer Center Japan 伊藤清音	実施メンバー：計11人
社会問題 & アクション	<p>飢餓の撲滅のために活動 国連WFPへオリジナルボールペンを作成して寄贈。文化祭にて国連WFPブースを設け広報を行い、飢餓撲滅についての広報も行なった。また、毎年3月に高校生や中学生対象にワークショップや講演会を行っている。</p> <p>期間：2015年～現在</p>	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	148,453円の寄付、500人への講演	
なぜこの 問題& アクション なのか	飢餓は人の生活を尊重する上で最もあってはならないことであり、飢餓は社会の治安や人の心を病む原因となる。私たちが行っているアクションは、飢餓人口を減らし人々の生活を豊かにすることにつながる。	
工夫した こと /達成した こと	若い人たちに飢餓について知ってもらうため、中学生を対象としたワークショップを積極的に開催した。毎年180人ほどの中学生に飢餓について考えてもらい、知ってもらうことができるている。	
困難 だったこと /次回に 向けて	学生だけでの活動を柱とし、大人による介入が少なかったため活動の継続が困難な時期があったが、大学生メンバーが高校生メンバーと積極的に連絡を取り合うことにより継続できている。	
学び メッセージ	学生団体として活動することの難しさと楽しさ、また小さなアクションを起こし続けることで大きなアクションが成果として目に見える形、見えない形で返ってくること。	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 就業をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 算の良い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中の誰かに
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 繁栄がいる経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 入れの不公平をなくさく
- 11 住まつける安全なまちづくりを
- 12 つくる責任つかうの住
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 地の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連SDGs

1 貧困をなくす

2 飲食をセイジ

3 すべての人に健康と福祉を

4 賢い高い教育をみんなに

5 ジンジャー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8 働きがいも経済成長も

9 建設と都市革新の基礎をつくる

10 人や国の不平等をなくす

11 住み残されるまちづくりを

12 つくる責任つかう責任

13 究極的変革に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 種の豊かさを守ろう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者
(大学生)

小林真哉

実施メンバー：計7人

- ・衛生状況の改善
- ・村人間での問題「コミュニティツール」不足
- ・所得向上

大学の授業の一環でフィリピンを訪ねました。そこでは、生活インフラの整備が不十分と思われる村の住民と対話を重ねることで、村人の潜在的なニーズを引き出し、それに応えるアイデアを生み出し提案するというもの。



期間：2019年8月24日～2019年9月4日

アクションの種類

- 資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

なぜこの問題&アクションなのか

村人の生活改善の余地は十分にあるのにその可能性に気付いてなく、成長の可能性を閉ざしてしまっていること。そこにアプローチすることで、村人自身の考え方や行動に幅が出て、NGOなどの国際団体が介入せずして、更なる経済発展や生活水準向上に働きかけることができるようになる。

工夫したこと/達成したこと

こちらの主觀で物事を判断せず、村人(当事者)の視点に立って考察すること。またインタビューで工夫した点は、表面的なニーズを引き出すのに有効なwhyやhowは使用しない聞き方に注力を注いだこと。遠回りさせることで相手にも気付きを与え、潜在的なニーズを引き出した。

困難だったこと/次回に向けて

潜在的なニーズを仮定し、それを一つのアイデアとして形にすること。アイデアを模索する過程が、ニーズと一致せずに頭を抱えることが多かった。その際は、目標を明確化し、その過程をモデリングすることで、解決に繋がった。

学びメッセージ

このアクションによって、私の固定観念や知識が無意味であることを痛感した。私の一番の大きな誤りは、勝手に私の生活と村人の生活を比較し、村人は十分に幸せでないだろうと判断してしまったこと。「あなたの今の幸せ度を1～10点で評価すると何点ですか。」と質問したところ、約9割の人が10点と解答した。この結果には非常に驚かされ、かつ、何も知らないよそ者の私が、不幸せであると判断したことに申し訳なさとやらしさを感じた。入国前までは、貧困に対してマイナスイメージしか持っていないが、この根本的な定義ミスを知った。この大きな認識の誤りによって、私自身が、村人から吸収するものを大きくした。幸せとは何かと言われると明確な答えはないが、例え水や電気がなくても幸せは誰にでも訪れる当たり前の感情であること。不幸せだと感じてしまうのは、自分にないものを得ようとするからである。今あること、今できることを精一杯やり遂げることが村人だけでなく人々の幸せを感じる根源であるのではと悟らされた。

報告者 (社会人)	飯塚俊幸	実施メンバー：個人
社会問題 & アクション	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人への偏見や理解がなかなか進まないことへの問題 ・自分の弱みを発信しにくい社会 ・個人が能力やみかけで判断されてしまい、個性、強みを生かしにくい社会 <p>人を本に見立てて、その人の話から感じたことを共有、学びにするイベント「にんげん図書館」というイベントを主催しました。障害者のある自分を題材（本）として、個人のストーリーを通して、参加者の交流の場、障害に対する自分の悩みを発信する場を作りました。</p> <p>期間：2019年3月2日</p>	
アクション の種類	資金支援 ・ 物資支援 ・ ボランティア ・ 自己行動変革 ・ 啓発活動 ・ アドボカシー ・ ソーシャルビジネス	
数値成果	20人に対するスピーチやワークショップ	
なぜこの 問題 & アクション なのか	障害があるからという理由で、無意識に差別されてしまったり、個人のやりたいことができなくなってしまっている現状があると思うためです。このアクションを通して、「障害とは？」を考えることをきっかけにお互いにお互いが尊重し、弱さを支え合えるような環境づくりに繋げていきたいと思っています。	
工夫した こと /達成した こと	工夫したことは、初のイベント主催にあたっては、自分だけではなく、自分を受け入れてくれる周囲の人の協力を得たことです。また、自分がただ発信するのではなく、参加者が自らで考え、思ったこと、感じたことを発信しやすい雰囲気をつくることも心がけました。達成できたことは参加者のみなさんの間で交流、学び合いの場が生まれ、參加したことでのなにか（障害への理解以外でも）を持ち帰ってくれたのではないかと思っています。	
困難 だったこと /次回に 向けて	限られた時間で本である自分のことを発信することが難しかったです。参加者の皆様が場を盛り上げてくださったので、乗り越えることができました。次回開催に向けては色々と改善事項はありますが、まずはプレゼンテーションの練習を日々していきたいと思います。	
学び メッセージ	一番は自分自身が障害のことを気にしてしまっており、もっと自分を受け入れてもよいと学びました。障害に対する理解は少しずつでも進んできていると思うので、障害の当事者からの発信も大切になると学びました。	



関連SDGs
1 貧困をなくす
2 飲食をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 賢い教育をみんなに
5 ジンダー平等を実現しよう
6 爰をもつてトイレを世界中に
7 安全な水とトイレでアフリカに
8 活きがいも経済成長も
9 農業と林業革新の基礎をつくろう
10 人や国の不平等をなくす
11 住み分けられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 地の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者 (大学生)	川下彩夏	実施メンバー：計10人
社会問題 & アクション	<p>海の環境問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮城県石巻市のウミガメの保護と海洋での観察 ・ウミガメの寄付金募集 ・プラスチック問題の対策 <p>期間：2019年9月15日～2020年3月31日</p>	
アクション の種類	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
数値成果		
なぜこの 問題& アクション なのか	現在、海の環境が変わり生息場所も変化している。また、ゴミの問題などもあり異物を食べたウミガメが問題になっている。	
工夫した こと /達成した こと	出来るだけ多くの人に寄付金を募る。	
困難 だったこと /次回に 向けて	ウミガメの保護のためにGPSを付ける際、痛がるウミガメに申し訳なくなりながらきっとウミガメのためになると自分に言い聞かせて抑えました。	
学び メッセージ	ウミガメの生態の研究が保護や絶滅の阻止に繋がること。	

報告者 (大学生)	安村凜	実施メンバー：計20人
社会問題 & アクション	気候変動、地球蘇生、環境保護 気象非常事態宣言の請願への同意署名活動、 地球蘇生の為のブース、非核化・原発廃止 の請願への同意署名活動など	
	期間：2019年11月29日	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・ 自己行動変革 ・ 啓発活動 ・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果		
なぜこの 問題& アクション なのか	今の地球は昔に比べて資源が減ってきている。しかし、現代社会はその限られた資源を ある分だけ使い放題にしてしまい、その資源から作られたものが日常生活にある事が当 たり前になってしまっている。この活動でもっと情報と現状を発信していくことで、限 られた資源を使うだけではなく、補っていくことも同時にやっていく社会を作ることに 繋がると思う。	
工夫した こと /達成した こと	道を歩いているだけの人にも、積極的に環境問題やその保護についてどう思うかを尋ね て歩いた。また、その時に強制的に気候変動や環境問題について考えることを勧めるの ではなく、自主的に気づいたことから始めてもらえるような声かけをした。	
困難 だったこと /次回に 向けて	周りの参加者の方々から指示を頂いてから行動する事しか出来なかったため、次回から は自主的に動いていきたい。	
学び メッセージ	大人の方の方がこの活動や何が問題なのかをよく分かっていて、自分の知識と経験がま だまだ未熟だと思った。	



関連SDGs

1 貧困をなくす



2 飲食をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 賢い教育をみんなに



5 ジンジャー平野を実現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 積極的なエネルギーをみんなでリースに



8 情報がいる経済成長も



9 農業と林業革新の基礎をつくろう



10 人や国の不平等をなくす



11 自み抜けられるまちづくりを



12 つくる責任つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 地の豊かさを守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者
(大学生)

田尾ゆふ、川崎沙月

実施メンバー：計2人

在住：東京都

社会問題 & アクション	「ふれあい満点市場」で、フィリピンの水質汚染問題の改善のための寄付付き商品の販売ボランティアを行った。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2020年2月8日	数値成果	18,050円の売り上げ・寄付

報告者 (大学生)	伊藤さくら	実施メンバー：個人	
		在住：東京都	
社会問題 & アクション	ろう者の方々の情報収集における不平等の問題に向け、ろう者が毎週末に授業を受ける際、手話通訳をしたり、ノートテイクをしたりして情報保障をしている。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年5月25日～10月19日	数値成果	4人のろう者の情報保障
なぜこの問題 & アクションなのか	情報化やグローバル化が進んでいる現代において、人々が平等に情報へアクセスする機会が叶えられていない現状がある。中でも、聴覚障害や視覚障害など、身体的なハンデを背負っているために生じる不平等は、情報獲得のために第三者のサポートを要する場合が多く、より周囲が関心を寄せていく必要がある問題である。授業を始めとして、全員が学びの機会を均等に獲得していくためにも、ろう者の方々への情報保障というものは非常に重要になってくる。このアクションは、比較的身近に生じている不平等を認識して、それらを改善していくことの重要性や使命感、そして自分の知らない苦しみと戦っている方々に敬意を持って関わることができるべききっかけとなると考える。		

工夫したこと
/達成したこと

工夫としては、自身の手話表現の幅を広げるため、普段から手話を用いて会話をしたり、ろう者の方に対して敬意を持って情報保障に臨むことで、授業内容を伝えるだけではなく、より豊かなコミュニケーションをとれるようになった。達成できしたこととしては、情報保障はもちろん、ろう者の方のコミュニケーション相手となれたことで、ろう者の方のストレスコーピングを手助けすることができた。

困難だったこと
/次回に向けて

初めてのうちは、ろう者の方が普段使っている手話のスピードに圧倒されてしまい、手話を読み取ること、手話通訳をすることに集中するあまり、コミュニケーションが全く取れていなかった。しかし、より有意義に授業を受けていただくにはどのように工夫することが必要かを考察していく中で、自身の手話能力の向上、ろう者の方に敬意を持って接することの重要性を痛感し、前述した工夫を用いて徐々に状況を改善していくことができた。

学びメッセージ

このアクションを通して、自分の身近なところでも学びの機会や情報の収集に対する平等が叶えられていない現実を目の当たりにして、改めて互いができることで手を取り合って助け合い、共に不平等を改善していくことの重要性を学んだ。また、どんなハンデを抱えている人に対しても、偏見や差別的意識を持たずにただ一人の人間として尊重していく過程で、人間的な温かい関心が寄せられ、互いに理解しあうきっかけになることを学んだ。

報告者
(大学生)

木暮里咲

実施メンバー：個人

在住：神奈川県

社会問題
&
アクション

日本における地方創生の問題・寄付やボランティアに対する偏見の問題

私は高校生の時にまちづくりに関わる活動や地域活性化を促すためのイベントなどを行ってきた。それを踏まえて大学生になってからは様々な形でその経験を生かしてきた。まずは外部に出て自分のこれまでの活動とビジョンを語るということ。9月の日本ファンドレイジング大会と11月にソーシャルイノベーションフォーラムにて若者の思う社会のこれから、社会の課題解決に関わるということについて話した。もう一つは寄付という文化をより多くの人に知ってもらうためにイベントを実施したり自分のSNSでの発信を行った。FTCJに関連するイベントではグレートサンタランにパフォーマーとして参加し、イベントを盛り上げるという役割を果たした。他の人を誘って参加すること自体初めてであり、難病の子供たちであったり小児科の子供たちに対する関心を上げることができた。

期間：2019年8月～2020年1月

アクションの種類

資金支援・物資支援・ボランティア
自己行動変革・啓発活動・アドボカシー
ソーシャルビジネス

数値成果

登壇先のオーディエンスの人数
9月：500人
11月：200人

関連SDGs

1 貧困をなくす

2 異種をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

4 貧のない教育をみんなに

5 ジェンダー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8 機会均等と成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

10 人を囲む不平等をなくす

11 日本銀行がみるまちづくり

12 つくる責任・つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 地の豊かさを守ろう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナーシップで目標を達成しよう



なぜこの問題 & アクション なのか	まずは若者が社会に対して思うことがある、何か変化を起こすができるということを登壇することで知つてもらうことができる。私のアクションは若者のエンパワーメントに繋がってのではないかと考える。また、寄付の啓発は必要な人のところに必要な助けが届くようになると感じている。
工夫したこと /達成したこと	自分の経験や実績があることで自分の言葉の信頼性が上がると感じている。だからこそ自分のこれまでの活動は決して大きくはないもののそれを発信することを恐れないようにした。
困難だったこと /次回に向けて	自分の話をすることがあまり得意ではなくずっと自信がなかった。しかし経験していく内に共感してくださる方やもっと知りたいと言つてくださる方の言葉で自分もまた頑張ろうと思えたり、新たな考えに繋がっていったため、自信を持っていこうと思うことができた。
学び メッセージ	人に発信をするということが一つのアクションであるということを実感した。新しいコネクションの場になつたり、何かを感じてくれる人がいること。自分は高校生の時の方が活発に動いていて何もしてないよう思っていたがこれも一つの方法であると思うことができた。

報告者 (大学生)	横浜市立大学 TEHs (テフズ) 宍戸明日香、稻葉かれん、竹中萌、南亜伽音、 松下真菜、井上明香里、藤澤茉由	実施メンバー：計12人 在住：神奈川県
社会問題 & アクション	毎週月曜日、水曜日にミーティングを開催し、大学にSDGsを広める為には何をするべきか、ということを日々議論し、SDGsの最近の取り組みなどについて情報共有しています。トゥルーコストに対しては低賃金労働問題、行き過ぎた資本主義、それに伴う環境問題に対して議論を深めました。SDGsの議論は主に日本と世界全体の問題に関して議論しました。	
講義で世界で起きていることに対して何か行動を起こさないといけないと思った有志の生徒たちで大学内でSDGsを広める目的でTEHs (テフズ) という学生団体を設立しました。トゥルーコストという映画の団体内での上映、それに対してのディスカッションをしました。またSDGsをもっと知らなければならないということでメンバー同士でSDGsの発表をし、それに関する近年の動きを共有しました。またそれに対してメンバーと同士でディスカッションを行いました。		
アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	数値成果

なぜこの問題 & アクション なのか	大学生のSDGsのアクションがなく、どのように取り組めばいいか分かっていない。さらに世界で起きていることについて理解していない。その為この団体でSDGsを広め、活動を推進することでSDGsの達成に一歩でも近づくことができる。ファストファッションについては行き過ぎた資本主義により苦しんでいる労働者、その子供たちがいる。その周辺の地域も環境問題が悪化している。私たちにできることを議論することでその消費者が変わることで生産者も変化することができると考えることができる。
工夫したこと /達成したこと	SDGsの発表はただ発表するだけでなく、近年の日本国内や世界での動きを共有することで理解を深めた。議論するときは一人一人違う側面からの意見の内容を知ることができてとても勉強になった。
困難だったこと /次回に向けて	新しくできた団体であった為、全てが新しいことで進めることが大変なことが多かった。しかしミーティングを繰り返し行うことできしの期間で企画を少し進めることができた。
学び メッセージ	SDGsに対しても知らないことがたくさんあり、途上国だけでなく、先進国が取り組まないといけないことが多いある。大学生でも取り組めるアクションは多くある。

報告者 (大学生)	緒方杏樹	実施メンバー：計5人 在住：東京都
社会問題 & アクション	<p>環境・LGBTQ+・通信制・定時制に通う高校生の進路支援・女性の活躍支援</p> <p>社会貢献をしている企業を調べ、身近な企業(コカコーラ、花王、ヴィヴィアンウエストウッド、アリペイ)の取り組みから知らない人が多いであろうNPO法人のターゲットを絞った取り組み(認定NPO法人D×P)まで、SDGsに関する幅広い活動をクラスの皆に知ってもらえるようにプレゼンテーションを行った。</p> <p>期間：2020年1月21日</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス</p> <p>アクションの種類</p> <p>35人に向けてプレゼンテーション</p> <p>数値成果</p>

報告者 (社会人)	菅原佳奈子	実施メンバー：個人 在住：東京都
社会問題 & アクション	<p>エシカルファッション</p> <p>使わなくなった洋服をリメイクしてバッグを作りました。</p> <p>期間：2020年2月8日</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス</p> <p>アクションの種類</p> <p>数値成果</p>

関連SDGs

- 1 脱炭素社会を実現する

- 2 経済をゼロにする

- 3 すべての人に健康と福祉を

- 4 資の高い教育をみんなに

- 5 シュレーダー平野を実現しよう

- 6 安全な水とトイレを世界中に

- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

- 8 繁栄がいる経済成長も

- 9 農業と技術革新の基盤をつくろう

- 10 人を囲む不平等をなくす

- 11 日本が持つ文化を世界に

- 12 つくる責任つかう責任

- 13 気候変動に具体的な対策を

- 14 海の豊かさを守ろう

- 15 地の豊かさを守ろう

- 16 平和と公正をすべての人々に

- 17 パートナーシップで目標を達成しよう


関連SDGs

1 貧困をなくす



2 飲食をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 賢い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 積極的エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 繁栄がいつも経済成長も



9 産業と技術革新の基礎をつくろう



10 人や国の不平等をなくす



11 洋服と掛けたれぬまちづくり



12 つくる責任つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 地の豊かさを守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナーシップで目標を達成しよう



報告者 (大学生)	小原大輔	実施メンバー：個人 在住：神奈川県
社会問題 & アクション	<p>主に環境問題に取り組みました。貧困地域に訪問し、インフラの未整備やゴミが町中に散乱している現状を目の当たりにして、この課題に対してどのような支援や、取り組みが必要なのかなどを考えました。</p> <p>ミャンマーで行われたスタディツアーに参加しました。このスタディツアーでは、ミャンマーの現状と課題に対してどうアプローチをしていけば良いのかをフィールドワークやワークショップなどを通して学びました。</p> <p>期間：2019年9月5日～2019年9月13日</p>	<p>アクションの種類</p> <p>資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス</p>
		数値成果

ACTION REPORTS

-団体の部-

ME TO WE

関連SDGs
1 持続可能な開発目標
2 不平等をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 賢い高い教育をみんなに
5 ジンジャー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 太陽エネルギーみんなでまとめてアリーンに
8 繁栄がいるも経済成長も
9 建築と都市革新の基礎をつくろう
10 人や国の不平等をなくす
11 自みぬけられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	BTM 坂上大斗	実施メンバー：計10人
社会問題 & アクション	<p>国内：教育格差/都内の貧困による教育問題/日本人のペットボトルの使用量/日本の食品廃棄量/性別に対する考え方</p> <p>国外：世界の地域別による貧困/先進国と発展途上国との生活レベルの格差/世界各国の温室効果ガスの排出量とそれによる環境被害/世界の紛争</p> <p>オンラインで現在の国内外の社会問題(主にSDGsについて)を提示してそれについて議論をする。議論した内容を各自のSNS機関を用いて周りの中高生に発信をしている。</p>	
	期間：2019年9月16日～現在	
アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	3,000人に情報共有	
なぜこの問題&アクションなのか		
工夫したこと/達成したこと	個人でSNSに発信するだけでなく、オンラインで会議を通じて様々な意見や違いのないまとまりのある内容を発信してきている。発信用のアカウントを作るのではなく個人のアカウントで発信する事で、より多くかつ、これまでに問題意識の無かった人に呼びかけることができた。	
困難だったこと/次回に向けて	より多くの人に見てもらえるよう、メンバーを増やしたり、発信方法、発信場所を増やしていきたい。	
学びメッセージ	想像以上に中高生の社会もんである(SDGs)に対しての問題意識が低いと感じた。しかし、この活動をやって行くうちに確実に中高生の社会問題に対する問題意識が高くなってきた事がわかった。これからも続けていきたい。	

報告者	フリー・ザ・チルドレン・ジャパン フィリピンクラウドファンディングチーム 庄山桃子、菌部夢有人、後藤瑞穂	実施メンバー：計17人
社会問題 & アクション	<p>日本では全国で十分な教育を受けられますが、ミンダナオ島の先住民族の村では教育制度が充実していません。学校の状態も教育に関係してきます。</p> <p>そこで、2019年の8月15日から9月30日まで、小学校修繕のための資金をクラウドファンディングで集めました。目標金額であった190万円を超える216.6万円を集めることができました。今回集めた資金で子供たちが満足して学べる環境が出来れば嬉しいと思います。</p>	<p>危険と隣り合わせの学び舎、倒壊寸前。ミンダナオ島の学校修繕へ</p>
	期間：2019年8月15日～2019年9月30日	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	211.5万円の寄付（88人が協力）	
なぜこの 問題& アクション なのか	いくら勉強に必要な材料がそろっていても、学ぶ建物の屋根から雨漏れしていたら勉強できる環境とは言えません。発展途上国の学校校舎は、特に老朽化が進んでいる事が問題になっています。その環境で、子どもたちは集中して楽しく学べないと思います。今回のアクションは、多くの日本人に世界の教育問題を知ってもらうきっかけになったと思います。それを知る事で、他の学校修繕に募金をしたり、何かしらの支援をしたりと、考えの変化に繋がると思います。	
工夫した こと /達成した こと	早く資金を調達するために、メンバー数人で、現地の状態を説明する動画を撮影してクラウドファンディングのホームページに載せました。また、以前フィリピンに行ったメンバーが、その時の状況を文に書いて詳細を知らせたり、フィリピン人の先生から応援メッセージを貰うなどして、人々に募金をアピールしました。結果、目標の190万円を達成できました。	
困難 だったこと /次回に 向けて	今回はメンバーが多くだったので、どうしても情報共有がスムーズにいきませんでした。メンバー同士がよく知り合えていなかったことが原因だと思うので、次回プロジェクトをする時はもっとメンバー間のコミュニケーションを活発化させたいです。頻繁にミーティングをしたり、情報の内容ごとにファイルを分けるなどして、メンバー全員が把握できるようにしたいと思います。途中、支援が伸びず、焦ったが何度も呼びかけ新着情報を見ることにより達成し、ネクストゴールにも挑戦することが出来ました。	
学び メッセージ	<p>このアクションを通じて、発展途上国の教育問題は日本であまり知られていないことを学びました。この活動をきっかけに、これからも周りに現地の状況を広めていきたいです。</p> <p>また、行動力が身に付きました。他のクラウドファンディングの例を見たり、知人や自身のSNSで何度も知らせるなど、皆が自分から動かなくては達成できないプロジェクトだったと思います。</p>	



関連SDGs
1 貧困をなくす
2 飲食をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 築の高い教育をみんなに
5 ジンジャー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 さとうこーみんないまとマーリンに
8 働きがいも経済成長も
9 産業と技术创新の基礎をつくろう
10 人や国の不平等をなくす
11 住み続けられるまちづくり
12 つくる責任つかる責任
13 環境変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	実施メンバー：計18人 International Student Conference (ISC)
社会問題 & アクション	<p>International Student Conference is Japan-based organization, aiming to connect students around the world and raise their awareness on contemporary global issues. Established in 1945, this year marks the 66th times the conference being held. At this year's conference, we strive to come up with solutions towards 6 issues related to the Sustainable Development Goals (proposed below) through conducting academic research and discussion, along with formulating proposals. These proposals will then be submitted to the concerned organizations or governmental offices.</p> <p>We are still in the process of researching the background and analyzing the causes of each issue. A complete presentation on the issue will be presented publicly on August 23rd in Osaka. In addition, we are expected to have a collaboration workshop with Humans Right Watch Tokyo, on May 23rd and 24th, 2020. The workshop's main topic is about "Killer Robots".</p> <p>期間：Oct. 1st, 2019 - Aug. 24th, 2020</p> 
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス
数値成果	
なぜこの 問題& アクション なのか	We believe that each issue proposed above affects various sides of human's life and might bring about negative consequences to the global society if not considered in time. For example, the topic "Surveillance Capitalism: Impacts on Commercial, Social and Political future" focuses on how our personal information on social media platform being harvested and used in certain cases without user's consent. As a person's personal data holds the information to identify one, it has become valuable resources. Yet, the fact that these information being handled without permission is very dangerous. If prolonged, this can lead to privacy violation issues, with us being under no protection. Our conference's main purpose is to raise people, especially youths' awareness of these kinds of societal issues. We believe that the first step in dealing with any issue, is recognition. Once acknowledge that an issue is happening and affecting our lives, then it will drive us to coming up with solutions to the problem.
工夫した こと /達成した こと	As one of our main objectives is to raise awareness of these issues, we are doing a proposal that composed of a persuasive academic research, accompanied with possible solutions from the perspective of students.
困難 だったこと /次回に 向けて	
学び メッセージ	

報告者	富士宮高校会議所 伊東竜輝	実施メンバー：計21人
社会問題 & アクション	<p>観光業が発展し、地方にも観光客が訪れている。町も地元企業も発展している一方、観光公害として様々な問題が発生している。私たちはこのような問題の特に特産物であるニジマスに焦点を当てて活動してきました。特産物から発生する産業廃棄物を利用して新たな特産物を作る。そこから地方創生を行う。SDGsや様々な問題を解決し、地域の発展をする。</p> <p>ニジマスの残渣（産業廃棄物）を大幅に削減。堆肥として形を変えて商品化。商標登録済。富士宮市役所の肥料カタログに掲載予定。</p> <p>期間：2019年4月1日～2020年3月31日</p>	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果		
なぜこの 問題& アクション なのか	特産物として販売をしてもその裏にあるマイナスな面は、観光業が発展すれば発展するほど悪化するものがあると思うから。	
工夫した こと/ 達成した こと	市長や新聞社に協力をいただいて、情報発信や援助をしていただいた。[br]多くの人を巻き込んで大きいことができた。	
困難 だったこと /次回に 向けて	高校生の力だけでは成し遂げられないことも、地元企業や市役所の力をお借りして成し遂げることができた。	
学び メッセージ	高校生でもできることはたくさんあり、大切なのはまず第一歩を踏み出すこと。	



関連SDGs	
1 貧困をなくす	
2 飢餓をゼロに	
3 すべての人々に健康と福祉を	
4 質の高い教育をみんなに	
5 ジェンダー平等を実現しよう	
6 安全な水とトイレを世界中に	
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	
8 働きがいも経済成長も	
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	
10 人や国の不平等をなくす	
11 住み続けられるまちづくりを	
12 つくる責任つかう責任	
13 気候変動に具体的な対策を	
14 海の豊かさを守ろう	
15 陸の豊かさも守ろう	
16 平和と公正をすべての人に	
17 パートナーシップで目標を達成しよう	

報告者	どえりやあwings 日永侑利、山崎響、鈴木希授	実施メンバー：計54人
社会問題 & アクション	<ul style="list-style-type: none"> ・移住地域による教育格差の削減 ⇒街頭募金を行い、ネパールの南部の孤児院へ寄付 ・労働者と消費者が対等な商売 ⇒企業の方と共同開発し、フェアトレードコーヒーの販売し全額現地へ寄付 ・地球温暖化 ⇒WWFのアースアワーサポーターとして参加 <p>期間： 2019年3月30日～2020年2月14日</p>	
アクション の種類	資金支援 · 物資支援 · ボランティア · 自己行動変革 · 啓発活動 · アドボカシー · ソーシャルビジネス	
数値成果	<p>フェアトレード商品販売による売り上げ：14,290円（約70杯） 街頭募金：412,000円</p>	
なぜこの 問題& アクション なのか	同世代である子供たちが、教育を受けられないと、自分達が世界を引っ張る世代になつたとき、「誰も取り残さない」ための討論や会議ができず、世界や国が改善されず何も変化を起こせなくなってしまう。それを防ぐことで、世界がより良いものになる。	
工夫した こと /達成した こと	メンバーが高校関係なく、愛知県中の人たちが集まっているので、それぞれが自分の高校に呼び掛けることによって多くの人を巻き込み、協力してもらった	
困難 だったこと /次回に 向けて	募金や出店の時になかなか人が集まらなかったことが多かったので、FacebookやTwitterなどのSNSで紹介をして、より多くの人の目に触れてもらうようにした。	
学び メッセージ	何もきっかけがなく、行動していない人が多いけれど、その分自分たちがきっかけになれば世界をよりよくしていこうとする人が多いということ。	

報告者	Free The Children Japan 熊本 東山奈穂、住本唯、久保田千尋、松永美和、福田佳乃子、柳田彩圭、松永真依、村上玲奈、工藤優奈、工藤すみれ、三城かえ、北野綾菜、西村姫乃、廣瀬実結、鳴田トリシャ、平川愛菜、本多明日香、岩坂省吾	実施メンバー：計18人
社会問題 & アクション	<p>mini We Day Kumamoto 2nd-夢- 見つめよう夢、私達そしてみんなのための日 スピーチ、ワークショップ、音楽を通して児童労働問題や子どもの権利について学ぶイベントの開催を計画。開催に向けて、①国際ボランティアワークキャンプinASOに実行委員として参加。子どもの権利や児童労働の分科会を立ち上げ実施。②くまもと高校生フェスティバルに参加しフェアトレード商品の代理販売、ステージでは児童労働と子どもの権利についてプレゼン③フリーマーケットに参加しPREDA基金支援のための販売を行う。その他地元のテレビ番組に出演しFTCJのPRを行った。</p> <p>期間：2019年2月1日～2020年3月29日</p>	
アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	ワークショップを約60人の高校生に対し実施。ステージで約20人のお客様の前でプレゼン。フェアトレード商品販売による売り上げ11,900円。	
なぜこの 問題& アクション なのか	児童労働問題では子どもの権利がはく奪され強制的に働く成長が脅かされている子ども達がいる事を知り、伝えることが重要ととらえた。また障害を持った子ども達も子どもの権利が順守されていない状況にあることを知り大人を中心に社会に働きかけ、子ども達のより健全に育つことのできる社会へ変えていきたい。	
工夫した こと /達成した こと	子どもの権利を知り障害をもった子どもたちに対する関わり方を学んでもらえた。児童労働問題は具体的データを提示しどの様な問題が起きて居るのか疑似体験し理解してもらえた。	
困難 だったこと /次回に 向けて	スケジュール管理を確りと行いメンバー同士同じ足並みで活動を行っていく必要がある。	
学び メッセージ	漠然としか知らなかった子ども問題に関して専門的な学習の入口に立つ事が出来た。これからのみんなの進路選択において貴重な学びとなった。	

関連SDGs

- 1 民主をなくさず
- 2 飼育をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 賀の高い教育をみんなに
- 5 シェレーハ平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住む場所が安全であり
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 地の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう



報告者	ガールスカウト東京都第166団 小学生23人・中学生4人・高校生1人・指導者5人		
	実施メンバー：計33人 在住：東京都		
社会問題 & アクション	フードマイレージ・フードロスについて年代ごとに異なるアプローチで学ぶ	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年4月1日～2020年3月31日	数値成果	25人
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
食べられない子供が世界にいること。日本国内で消費する食物がどのくらいの輸送費を使っているかを知ること。なるべく地産地消が望ましいこと。キャンプでなるべくごみを出さない方法を知ること。そのようなことを知り、家族に伝えることにより小さなアクションが大きくなることを体験する。	1年間をかけて学ぶことで、SDGsの全てのゴールの達成する重要性を理解することに繋げていきたい。		

報告者	プランインターナショナル Youth Advisory Panel 佐々木優子、東方彩野		
	実施メンバー：計20人 在住：東京都		
社会問題 & アクション	高校生のジェンダー問題に対し、You ワークショップの開催、その報告を行いました。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年3月31日～2020年2月29日	数値成果	20人にワークショップを実施
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
ジェンダーに関することで苦しむ高校生がいるから	身の回りのユースと一緒にになって問題について考えること	新体制での組織を運営したこと。組織の目的をこれからしっかりと話し合いたい。	ジェンダーに関することで苦しむ人が周りにいることを私自身学びました。

報告者	NPO法人家庭犬使役犬訓練協会 小川大地		
	実施メンバー：個人 在住：千葉県		
社会問題 & アクション	<p>動物のさつ処分〇を目指して活動をしています。現在、さつ処分の現状をしってもらうため不定期でセミナーを開いています。又、飼えなくなってしまった動物を飼いたい人にマッチングして捨てられる動物を減らす活動をしています。</p> <p>期間：2019年3月～現在</p>	<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス</p>
		数値成果	<p>セミナー7人 2頭の犬猫に新しい飼い主 FMラジオでの活動紹介1回</p>
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ
生まれた命を可愛くない、鳴き声がうるさい、引っ越しから飼えなくなったなどの理由からさつ処分の施設に収容しにいく現状が見過ごせませんでした。正直、社会問題とか難しいことはわかりませんが、個人的な考えとしてそういう現状を変えられたらと思っています。	千葉県動物愛護センターで、収容されている動物の引き取りをできないか相談をしましたが、譲渡の実績がないと出来ないことを知り、飼えなくなってしまった動物の新しい飼い主探しを始めました。2頭の犬猫を新しい飼い主に引き渡すことができた。又、佐倉市のカフェでセミナーを開き、さつ処分の現状を伝えられた。	千葉県千葉市にある千葉市中央公園でさつ処分の現状を知ってもらうため、また、新たな飼い主を探している動物のマッチングのため大きなイベントを開催予定でしたが、野外での開催、台風の影響もあり、中止になってしまいました。次回は時間をかけて屋内での実施をしようと準備をしています。	学んだことはたくさんありますが、特に思うのが思った通りに進まないことです。壁がたくさんあり、色々な人とぶつかりましたがさつ処分〇が達成できる活動を続けようと思います。

関連SDGs

1 貧困をなくす

2 畜産をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

4 賢の高い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8 橋をかける人も経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

10 入れの不平等をなくす

11 自然遊びをみんなに

12 つくる責任つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 地の豊かさを守ろう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナーシップで目標を達成しよう

ACTION REPORTS

-その他-

◆東京グレートサンタラン

ランナー（ボランティア：1時間）・スタッフ（ボランティア：6時間）
吉原鈴夏、藤井朱里、角田菜々花、高瀬乃武央、高瀬京子、杉山友太、山口凜、
納谷元輔、菅原那奈、菅原郷史、篠崎万葉、吉田慧、木村慶大、木村壮次郎、
木村美樹、梅本花音、光田晴裕、田中愛友利、田中純那、田中紀美子、中村仁美、
光田晴裕、松島未奈、青木聰華、飴谷彩原、

◆フリー・ザ・チルドレン・ジャパンテイク・アクション・キャンプ

参加者（ボランティア：6時間）・スタッフ（ボランティア：50時間）

アービドソン律貴、雨宮二葉、岡田桜子、梶田桃加、宮地風惟、駒走旬星、黒住咲希、
坂口くり果、山本倫子、漆畠とわ、小池りりい、松田和馬、沼上初日、新井暖佳、
新田日鞠、石井花怜、川北愛恩、池田楓悠、中村至恩、中里芙紅、長谷田柚月、
内田真琉三、白井遼太郎、林夏美子、櫻庭仁葉、眞澤環希、伊藤仁子、吉田真喜、
神保州一郎、泉咲也子、大城あすさ、中條敬生、樋口滴、矢尾夏大、柳原琢馬、
加藤七帆、大沼彩乃、越野天音、山下朝夏、清水映、山田愛祈子、外山真、樫原成志、
岩澤祐一郎、島岡菜々美、立松みどり、長瀬萌、藤原梨穂、中山さくら、石谷小蒔、
山根好陽、酒井梨奈、清宮小百合、中村茜、本川優希、芦田遙陽、笹野文香、
木村真梨、加藤優弥、高橋優月

◆フリー・ザ・チルドレン・ジャパンスタディツアー（ボランティア：20時間）

伊吹京、梶田桃加、原千尋、荒木いくみ、坂口くり果、小倉涼葉、
清宮小百合、大庭怜士、湯本飛鶴、金尾紗良、笹野文香、中村菜織、
濱橋雅幸、濱野航、福原立春香、藤原梨穂、竹内一哉、菌部夢有人、
杉田康輔、

◆国会議員のための世界一大きな授業（アドボカシー）

志田璃花、大野ひより、鈴木りゆか

◆WE Day Japanユースアンバサダー（啓発活動/ボランティア）

渡邊夏帆、越野天音、湯本飛鶴、金道熹、小椋風鈴、小板橋瑛斗、吉良明海里、
山田麻心、杉原由梨奈、高松もも花、大沼彩乃、宮本佳歩、大野ことみ、渡沼詩央、
斎又鳴、加藤優弥、安藤日為、高橋優月、石谷小蒔、伊藤さくら、西川和、岡本恵実、
吉田彩乃、安部瞳、関唯那、河合実卯、今田恭太、本川優希、池邊亮輔、坂口くり果、

WE ACTION CAMPAIGN

-WE アクションキャンペーン-

WE CREATE CHANGE

-10円玉募金活動-

WE SHARE CARDS

-書き損じはがき回収活動-

WE BOOK BETTER WORLD

-募本活動-

WE SCARE HUNGER

-フードドライブ活動-

WE ORIGINAL ACTION

-オリジナルアクション-



WE FREE THE CHILDREN

WE Create Change

小さなチカラも集めれば大きくなる！
10円玉を集めて収入向上の機会を応援しよう！



5,000円



ヤギ1頭



世界では…

- ・開発途上国の人々は、1日1.25ドル以下で暮らしています。
- ・多くの国で、女性は男性の60-75%の給料しか稼げません。



SDGs(持続可能な開発目標)では、2030年までに、あらゆる場所・あらゆる形態の貧困、女の子の差別をなくし、すべての人が人間らしい仕事ができる世界を目指しています。

フリー・ザ・チルドレンは、WE Create Changeキャンペーンを通じ、家族が自立できるよう、女性を中心に生計維持・収入向上を支援します。

家畜の提供、飼育のトレーニング、会計に関する教育の提供、手芸品の生産、ビジネスのための融資などを実施。ヤギは、ミルクを販売することで収入に繋がる大きな存在！

詳しい「収入向上プロジェクト」については、ウェブサイトでご確認ください。

■振込先

集めていただいた10円玉は、数を数えたうえで、事務所に直接お持ちいただくか、以下の口座までお振込みください。
※振込手数料はご負担いただいております。ご協力のほどお願いいたします。

<銀行振込> 三菱東京UFJ銀行 上野支店 普通5360502 トクヒ) フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

<郵便振替> 00120-5-161532 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

■アクションを報告する

- フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに報告してChange Makers Fesに参加しよう！！(<https://ftcj.org/changemakersfes>)
- SNSで報告⇒ハッシュタグ #WECREATECHANGE を付けてキャンペーンを広めよう！

FREE THE CHILDREN

「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に

認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、1995年、貧困や搾取から子どもを解放することを目的に、カナダのクレイグ・キールバーガー(当時12歳)によって設立された、「Free The Children」の理念に賛同するパートナー団体として、1999年から日本で活動を始めました。子どもや若者が国内外の問題に取り組み、変化を起こすエンパワーラーになれるよう、エンパワーラーとしています。



WE FREE THE
CHILDREN

睡っているハガキが大きなチカラに！
書き損じはがきを集めて命を守るワクチンを届けよう！

WE Share Cards



190枚
(7,500円分) =



ワクチン
1人分



世界では…

・毎年600万人の子ども達が5歳未満で命を落としています。また、その死因のほとんどは、予防（治療）可能な、出産時の合併症、肺炎、下痢、新生児敗血症、マラリアなどです。



SDGs（持続可能な開発目標）では、2030年までに、新生児および5歳未満児の予防可能な死亡を根絶し、また、エイズ、結核、マラリアや熱帯病といった伝染病の根絶と、肝炎、水系感染症などの感染症に対処することを目指しています。

フリー・ザ・チルドレンは、WE Share Cardsキャンペーンを通じ、村の子ども達が健康に成長できるよう、保健プロジェクトを支援します。

詳しい「保健プロジェクト」については、ウェブサイトでご確認ください。

■対象のもの

・未投函のハガキ（書き間違い / 印刷ミス / 買ったけど使っていない / etc）、未使用の切手

注意：以下は集めていません

・宛先不明で返送されたハガキ、切手の貼っていない私製ハガキ、額面部分が読み取れないハガキ

■郵送先

集めていただいたハガキは、切手の値段ごとに分類し、それぞれの枚数を数えたうえで、事務所に直接お持ちいただか、以下の住所まで郵送をお願い致します。（送料はご負担いただいております。ご協力のほどお願いいたします。）

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-6-5 3F フリー・ザ・チルドレン・ジャパン事務局

■アクションを報告する

- フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに報告してChange Makers Fesに参加しよう！！(<https://ftcj.org/changemakersfes>)
- SNSで報告⇒ハッシュタグ #WEShareCards を付けてキャンペーンを広めよう！



「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に

認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、1995年、貧困や搾取から子どもを解放することを目的に、カナダのクレイグ・キールバーガー（当時12歳）によって設立された、「Free The Children」の理念に賛同するパートナー団体として、1999年から日本で活動を始めました。子どもや若者が国内外の問題に取り組み、変化を起こすエンパワーラーになれるよう、エンパワーラーしています。



WE FREE THE CHILDREN

眠っている本が大きなチカラに！
古本を集めて換金して教育の機会を応援しよう！

WE Book Better World



3,000円



学用品
1人分



世界では…

- ・約6,000万人の子ども達が小学校に通えていません。
- ・基礎教育を受けられなかった結果、現在も約7億5,000万人の大人が文字の読み書きができません。



SDGs(持続可能な開発目標)では、2030年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ有効な学習成果をもたらす、自由かつ公平で質の高い初等教育および中等教育を修了できるようにすることを目指しています。

フリー・ザ・チルドレンは、WE Book Better Worldキャンペーンを通じ、子ども達が学校に通い学習を続け自立できるよう、教育プロジェクトをします。

教室や図書室の建設や修繕、教員の宿泊施設の建設、教員育成、課外活動クラブなどを実施。
定期的に必要となる学用品の支援は、途中退学を防ぐ手段のひとつ。

詳しい「教育プロジェクト」については、ウェブサイトでご確認ください。

■活動方法

- ・古本を集めて、古本買い取り業者に買い取ってもらう。（近所のお店へ持ち込み、無料集荷をしているところが多くあります。）
- ・販売して得たお金を事務所に直接お持ちいただき、以下の口座までお振込みください。
※振込手数料はご負担いただいております。ご協力のほどお願いいたします。

<銀行振込> 三菱東京UFJ銀行 上野支店 普通5360502 トクヒ フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

<郵便振替> 00120-5-161532 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

※フリー・ザ・チルドレン・ジャパンが提携している”本棚お助け隊”の”古本チャリティ募金”を利用すれば、査定後、本の買い取り金額+10%が直接寄付として送ることができます。お金のやり取りを自分でしなくてもよいので、心配いらずです。

■アクションを報告する

- フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに報告してChange Makers Fesに参加しよう！！(<https://ftcj.org/changemakersfes>)
- SNSで報告⇒ハッシュタグ #WEBookBetterWorld を付けてキャンペーンを広めよう！

FREE THE CHILDREN

「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に

認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、1995年、貧困や搾取から子どもを解放することを目的に、カナダのクレイグ・キールバーガー（当時12歳）によって設立された、「Free The Children」の理念に賛同するパートナー団体として、1999年から日本で活動を始めました。子どもや若者が国内外の問題に取組み、変化を起こすエンパワーラーになれるよう、エンパワーラーとしています。



WE FREE THE CHILDREN

WE Scare Hunger

眠っている食品で地域の人のチカラに！
フードドライブで食品を必要としている人に届けよう！



日本では…

- ・国の生活水準・文化水準を下回る”相対的貧困”の割合が16.7%、子ども全体の7人に1人が貧困状態です。
- ・まだ食べられる食べ物が捨てられる”食品ロス”は、日本だけで年間643万トンあります。



SDGs(持続可能な開発目標)では、2030年までに、
飢餓を撲滅し、全ての人が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られること、小売
/消費レベルにおいて一人当たりの食料の廃棄を半減させることを目指しています。

フリー・ザ・チルドレンは、WE Scare Hungerキャンペーンを通じ、
子ども達が栄養ある食事ができる社会を応援します。

フードロスの10%が正しく必要な人に届いたら、

日本のすべての子どもが、栄養ある食事（昼食）をとることができる！

※2016年の15歳未満人口1,578万人のうち、貧困状態が7人に1人。昼食（学校給食）の一食分は約700gで計算。

■活動方法

- ・地域のフードバンクや行政の窓口を確認し、集めている食品を確認する。
以下が基本的な条件となっています。
①未開封であること（包装が破損していない）②冷凍・冷蔵でないこと ③賞味期限まで指定期間以上あること
集めている食品例：お米・玄米・小麦粉、インスタント・レトルト食品、乾麺（パスタ、そうめん、うどんなど）、海苔など乾物類、味噌・醤油・食用油・砂糖・塩など調味料、缶詰（肉・魚・野菜・果物など）、嗜好品（お菓子類、インスタントコーヒー、紅茶、お茶など）、飲料（お酒は除く）、ベビー食品など
- ・食品を集めて、届ける。（当団体では回収しておりませんので、ご注意ください。）

■アクションを報告する

- フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに報告してChange Makers Fesに参加しよう！！(<https://ftcj.org/changemakersfes>)
- SNSで報告⇒ハッシュタグ #WEScareHunger を付けてキャンペーンを広めよう！



「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に
認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、1995年、貧困や搾取から子どもを解放することを目的に、カナダのクレイグ・キールバーガー（当時12歳）によって設立された、「Free The Children」の理念に賛同するパートナー団体として、1999年から日本で活動を始めました。子どもや若者が国内外の問題に取組み、変化を起こすチェンジメーカーになれるよう、エンパワーブーしています。



WE FREE THE CHILDREN

WE Original Action

1 人権 2 経済 3 環境 4 健康・医療 5 性別平等 6 持続可能な開発 7 太陽エネルギー 8 経済成長
9 ハウスプロジェクト 10 ハイブリッドアート 11 ビル・都市開発 12 インフィニティ 13 眼鏡・視覚 14 魚・水資源 15 緑化・植物 16 ピザ・食料 17 ハーバード・オーバーホール

資金支援 物資支援 ボランティア 啓発活動 自己行動変革 政策提言

自分でオリジナルのアクションを考えてみたい時は、
「WE Original Actionキャンペーンキット」を活用しよう！

◆WE Original Action キャンペーンキットとは

アクションを起こすための基本的な4つのステップを踏みながら、
自分なりのアクションを起こすことが出来る無料のキットです。

[アクションのステップ]

ステップ1 取り組みたい社会問題を決めよう

SDGsに触れながら、国内外の課題と自分との関係性を見つめ、取り組む課題を見つけます。



ステップ2 目標を決めてアクション計画を立てよう

取り組みたい社会問題の解決に向け、どんなアクションが起こせるのか考え、
プランを立てていきます。

ステップ3 TAKE ACTION! アクションを起こそう

2で立てたプランを実行します。注意事項や記録方法、やりきるヒント等を紹介します。

ステップ4 アクションを振り返り、報告・お祝いをしよう

プログラムを通じてどんな成果を生み出せたかを振り返り、お祝いしよう！

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに報告して、Change Makers Fesに参加しよう！

SNSで報告⇒ハッシュタグ #WEOriginalAction を付けてキャンペーンを広めよう！

<キットの無料ダウンロードや、その他アクションキャンペーン詳細はウェブサイトから>
<https://ftcj.org/we-movement/weactioncampaigns>



「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に

認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、1995年、貧困や搾取から子どもを解放することを目的に、カナダのクレイグ・キールバーガー（当時12歳）によって設立された、「Free The Children」の理念に賛同するパートナー団体として、1999年から日本で活動を始めました。子どもや若者が国内外の問題に取組み、変化を起こすチェンジメーカーになれるよう、エンパワーアーしています。

